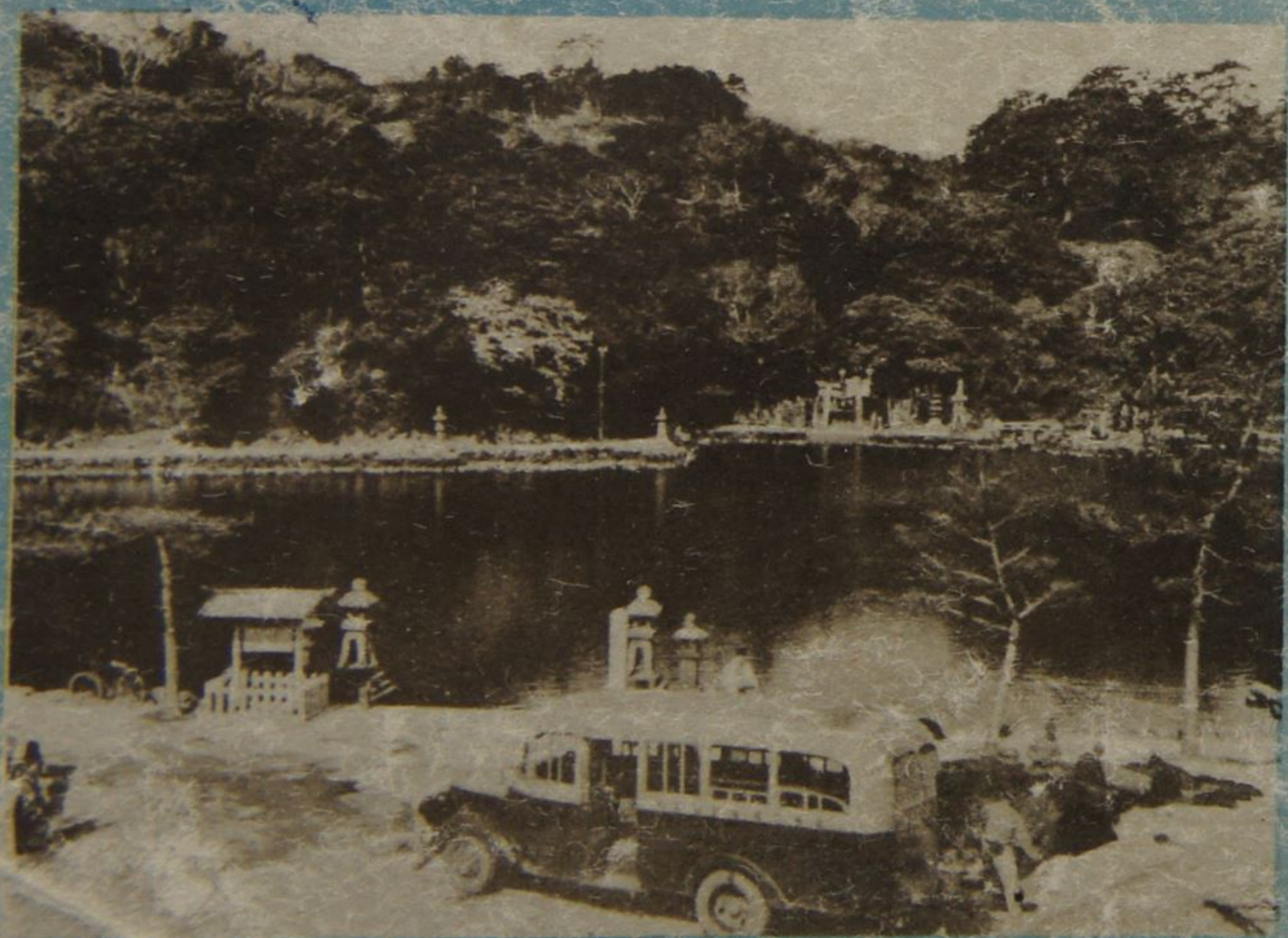
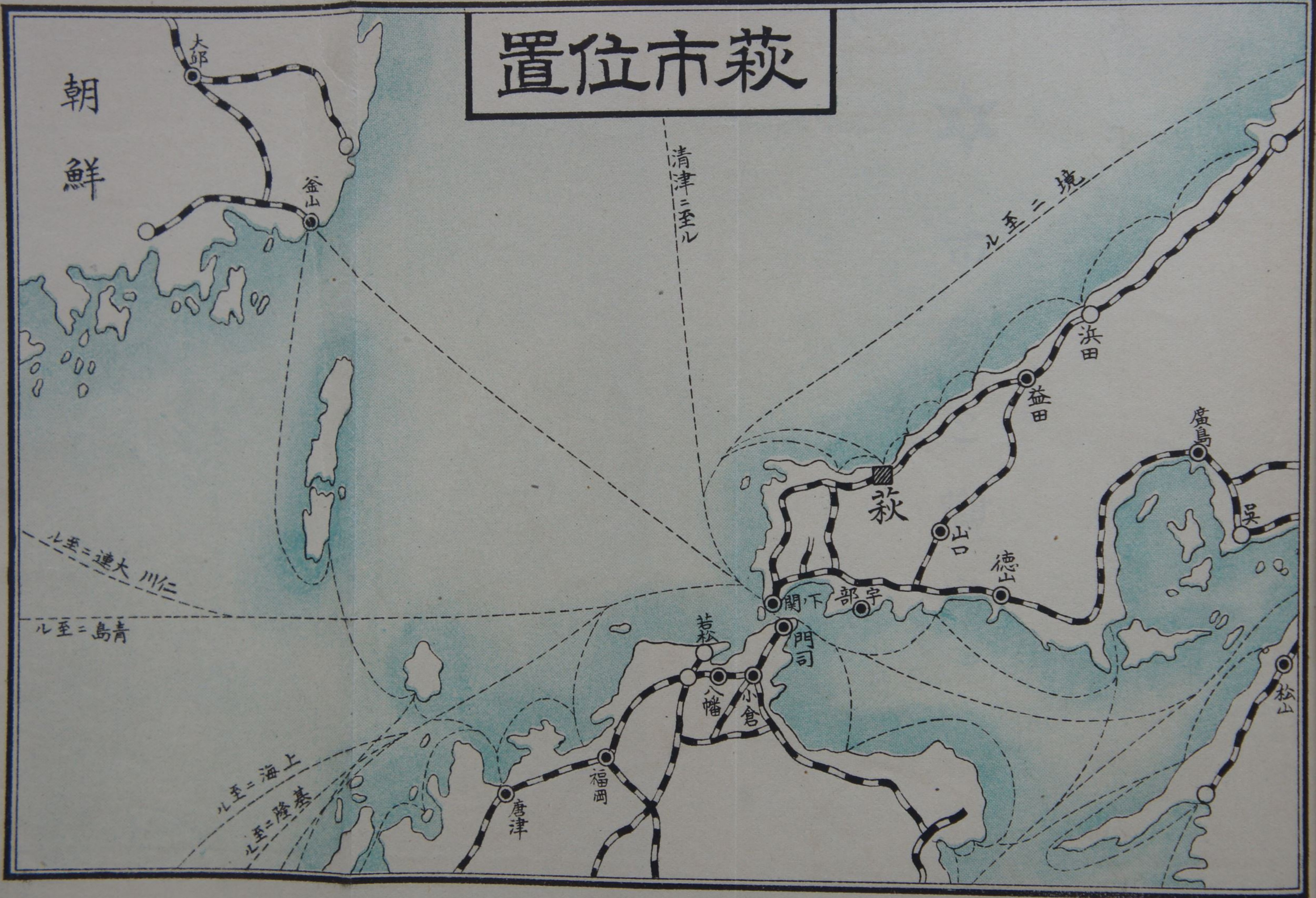


市勢と観光



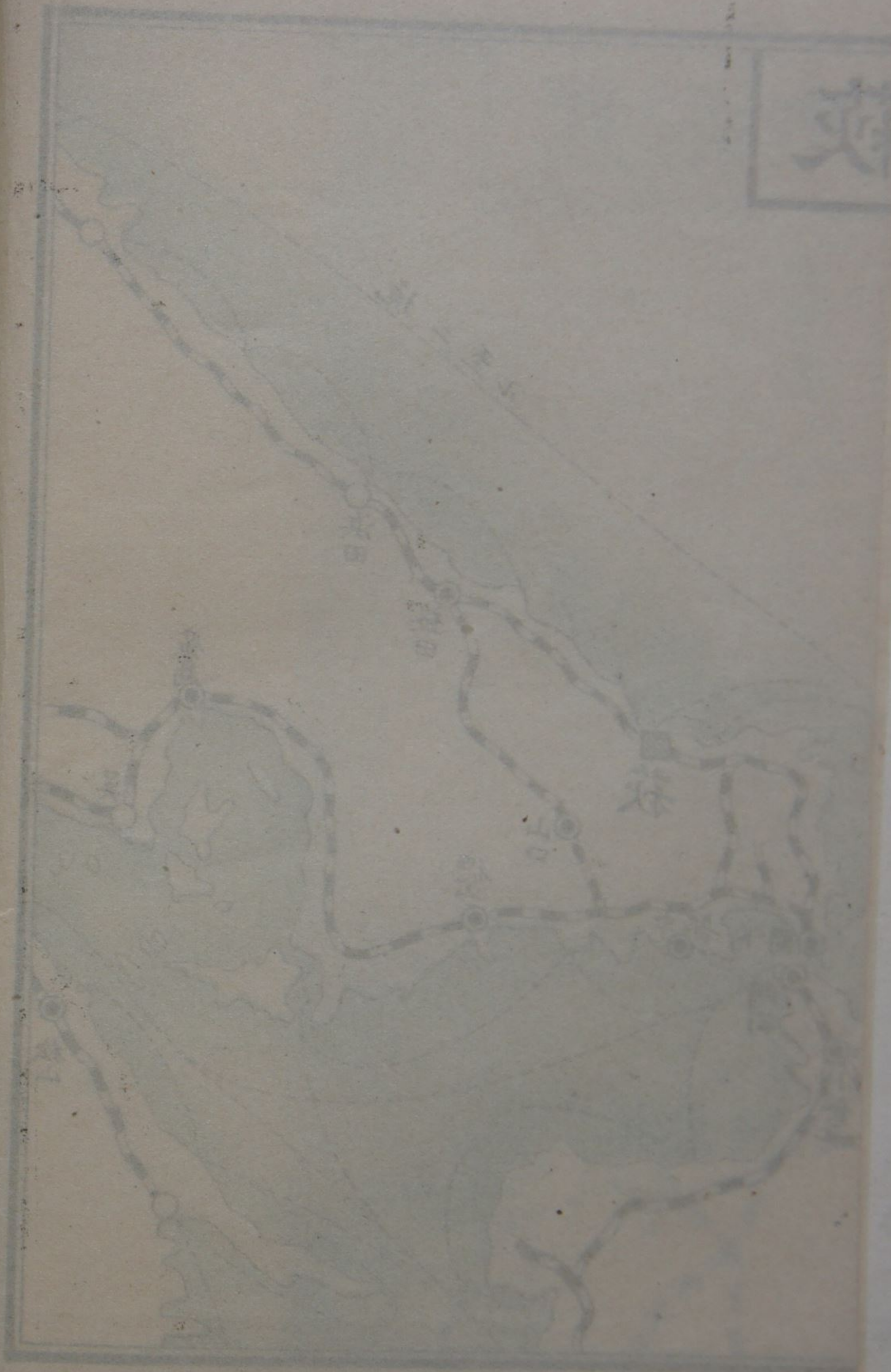
菟市位置

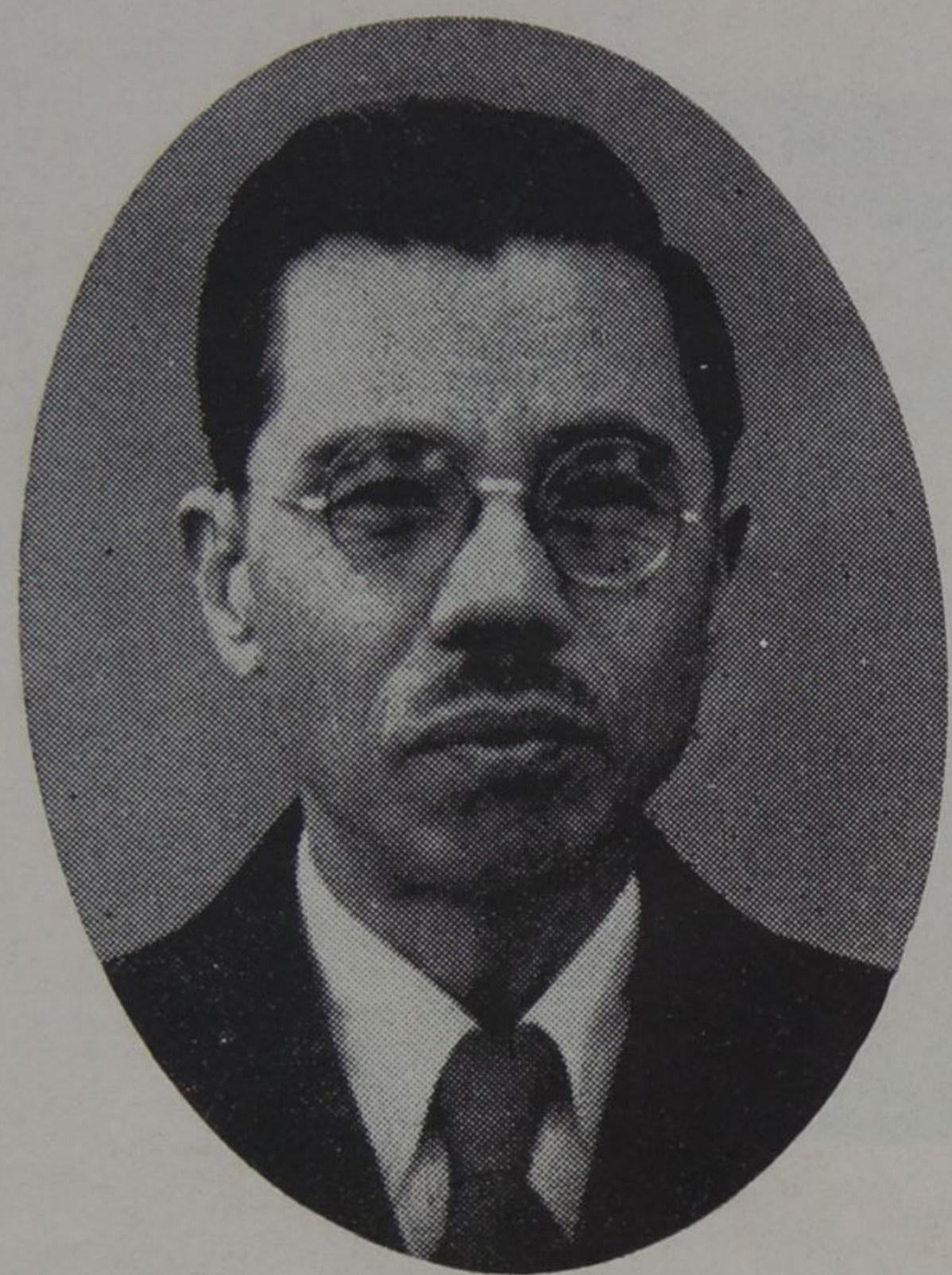




市勢と観光

遊





市長 安村 正人



助役 西村 益一



収入役 田中 儀明



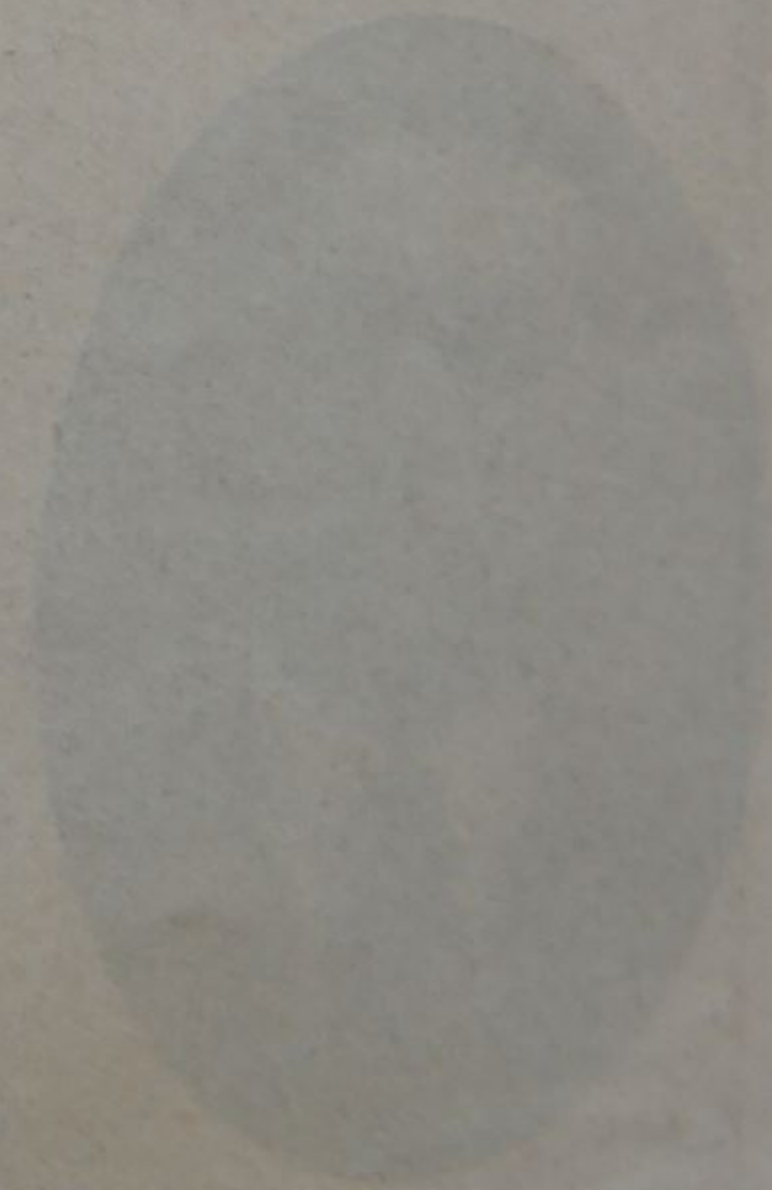
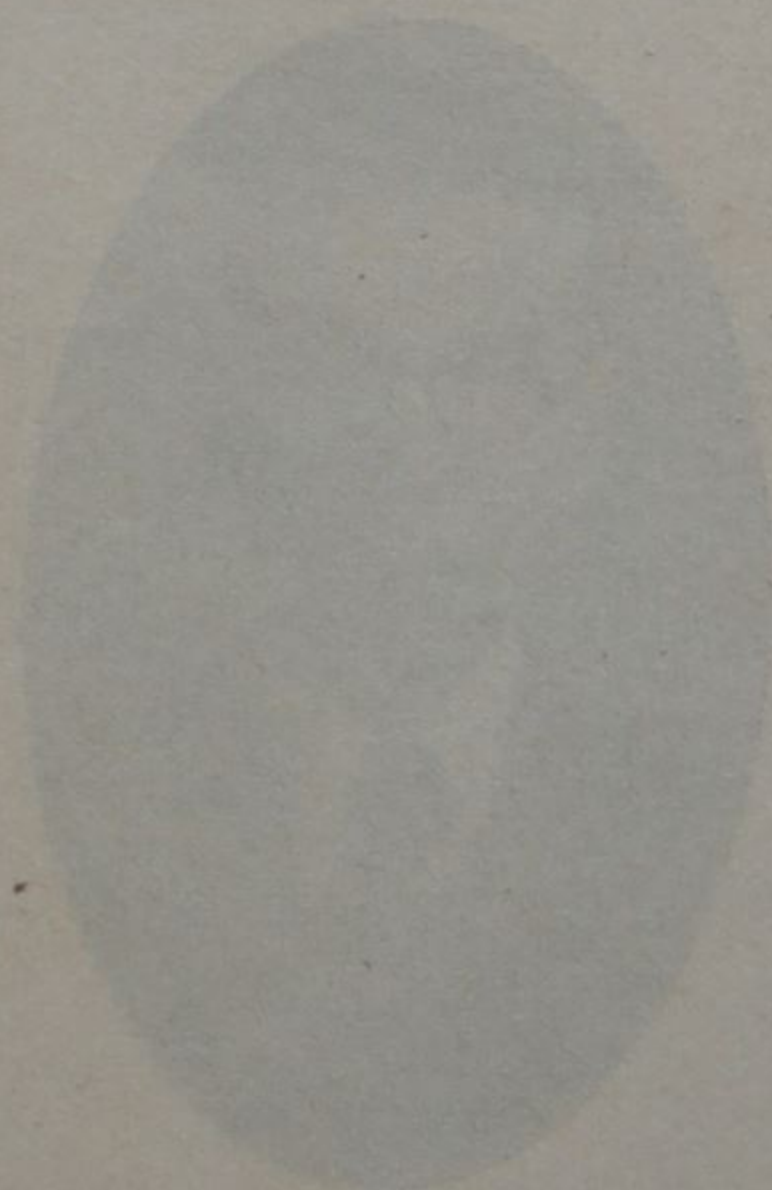
市 長 官 廳 表

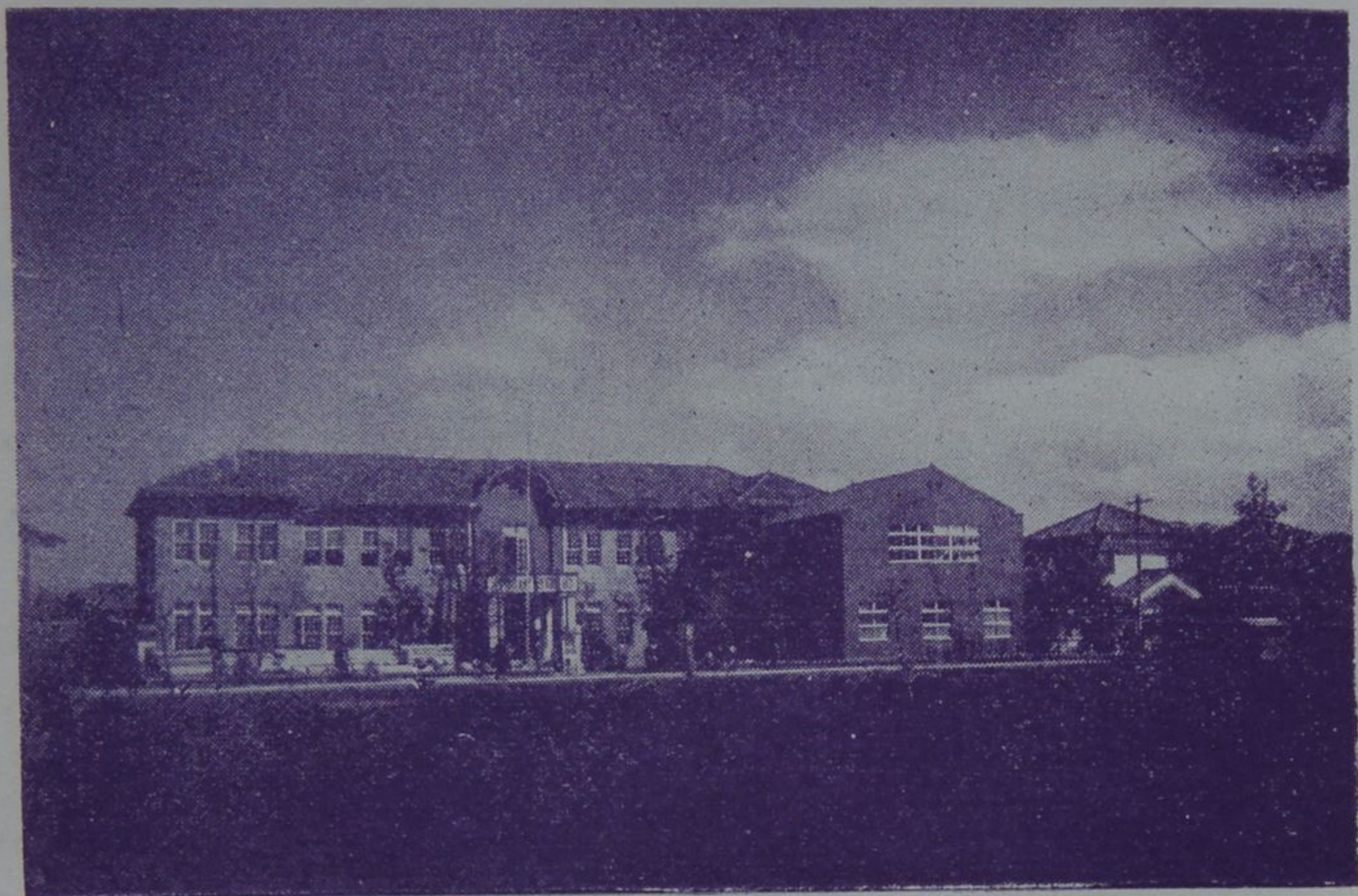


市會議長
吉賀 要作

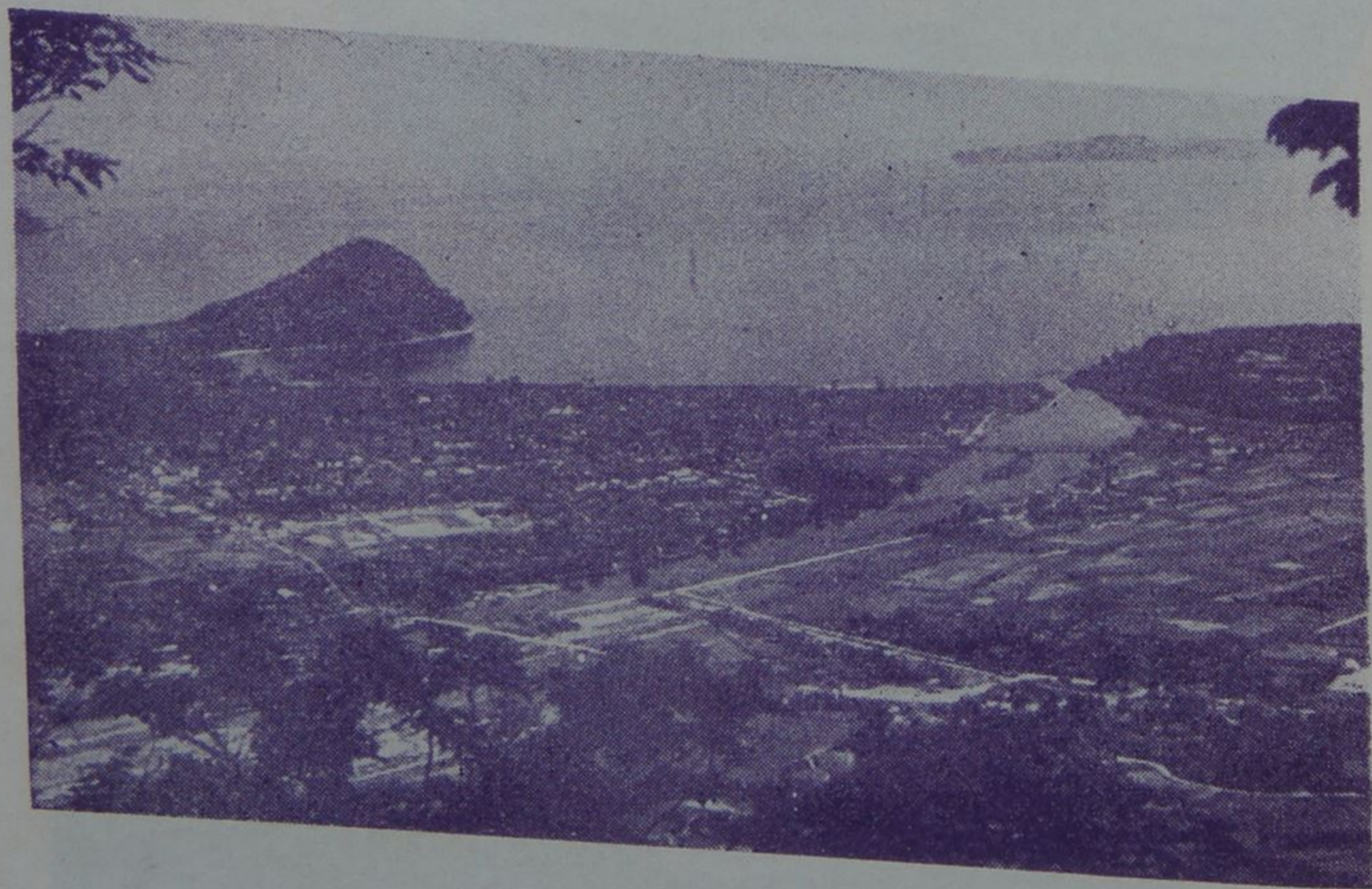


市會副議長
中島 恒一

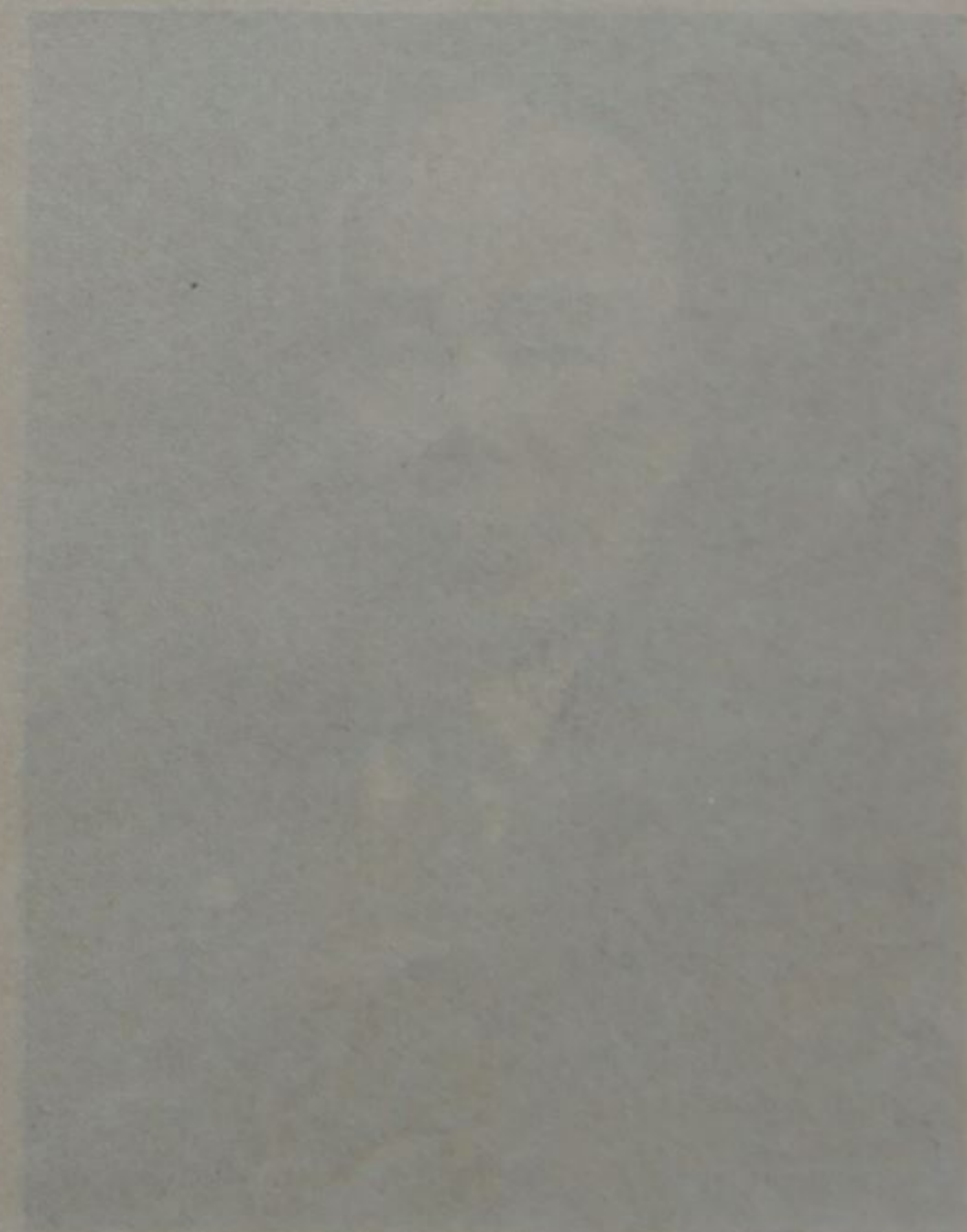
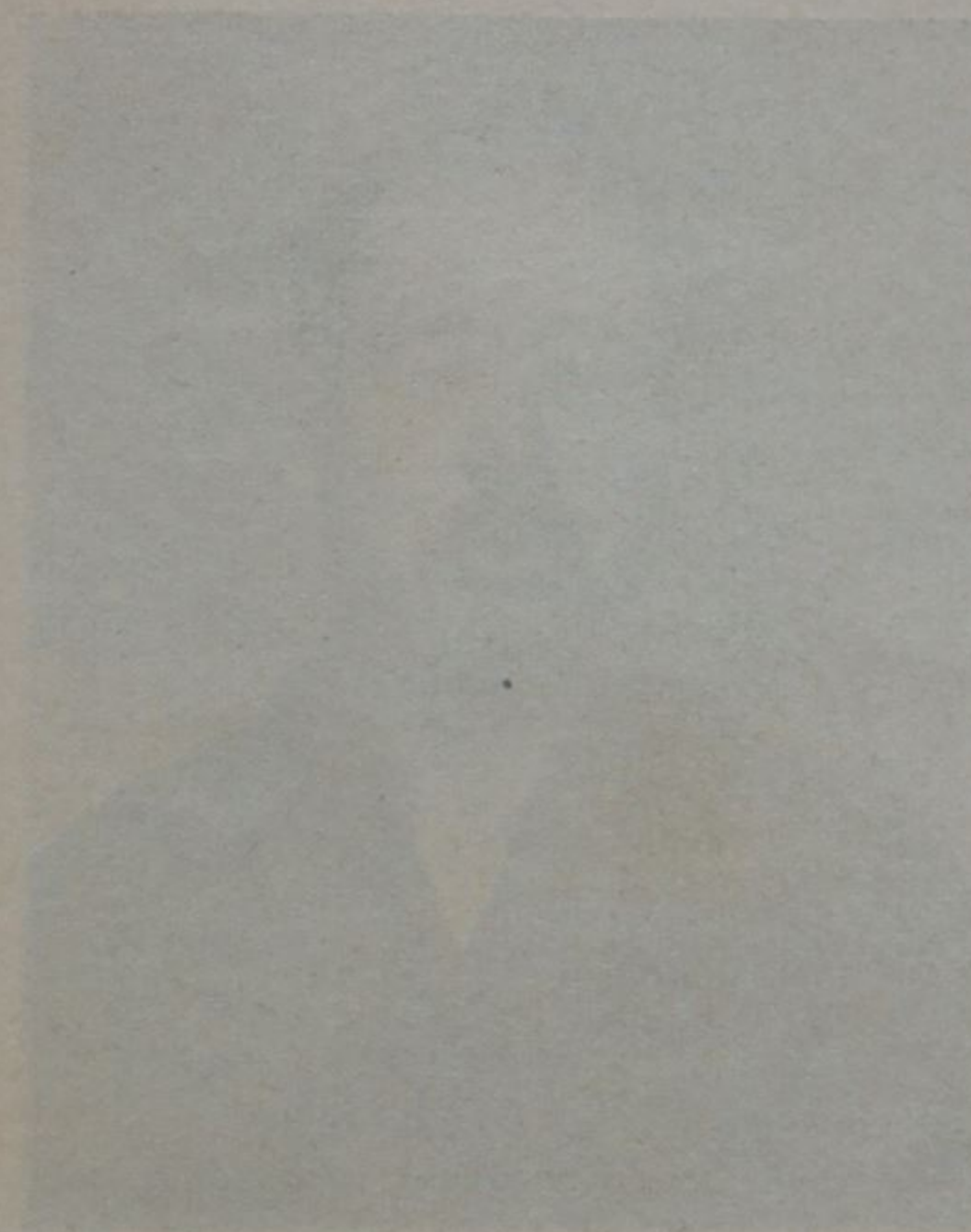




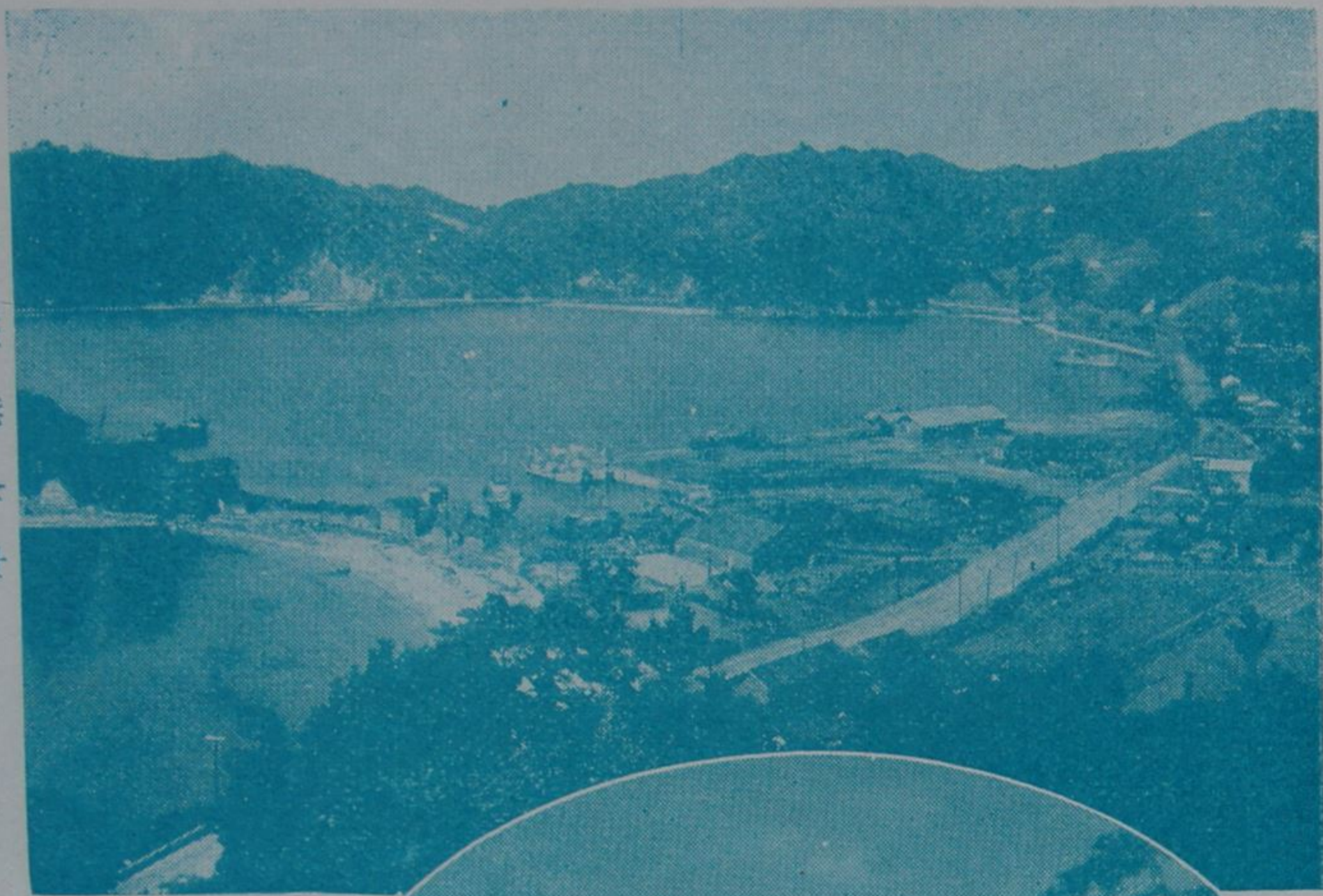
萩市廳舍



萩市街全圖



萩港全景



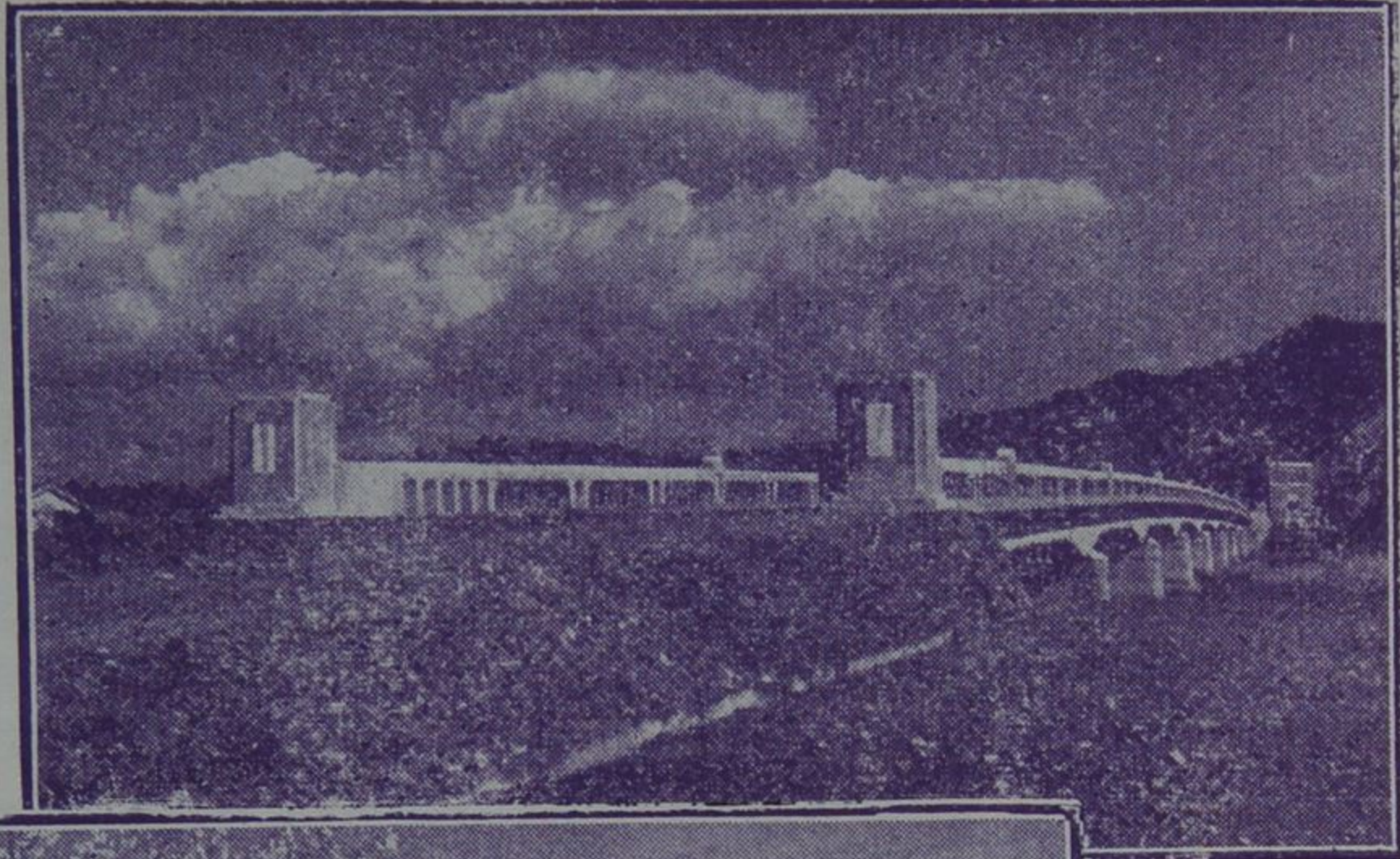
明倫小學校



新築の一中校舎

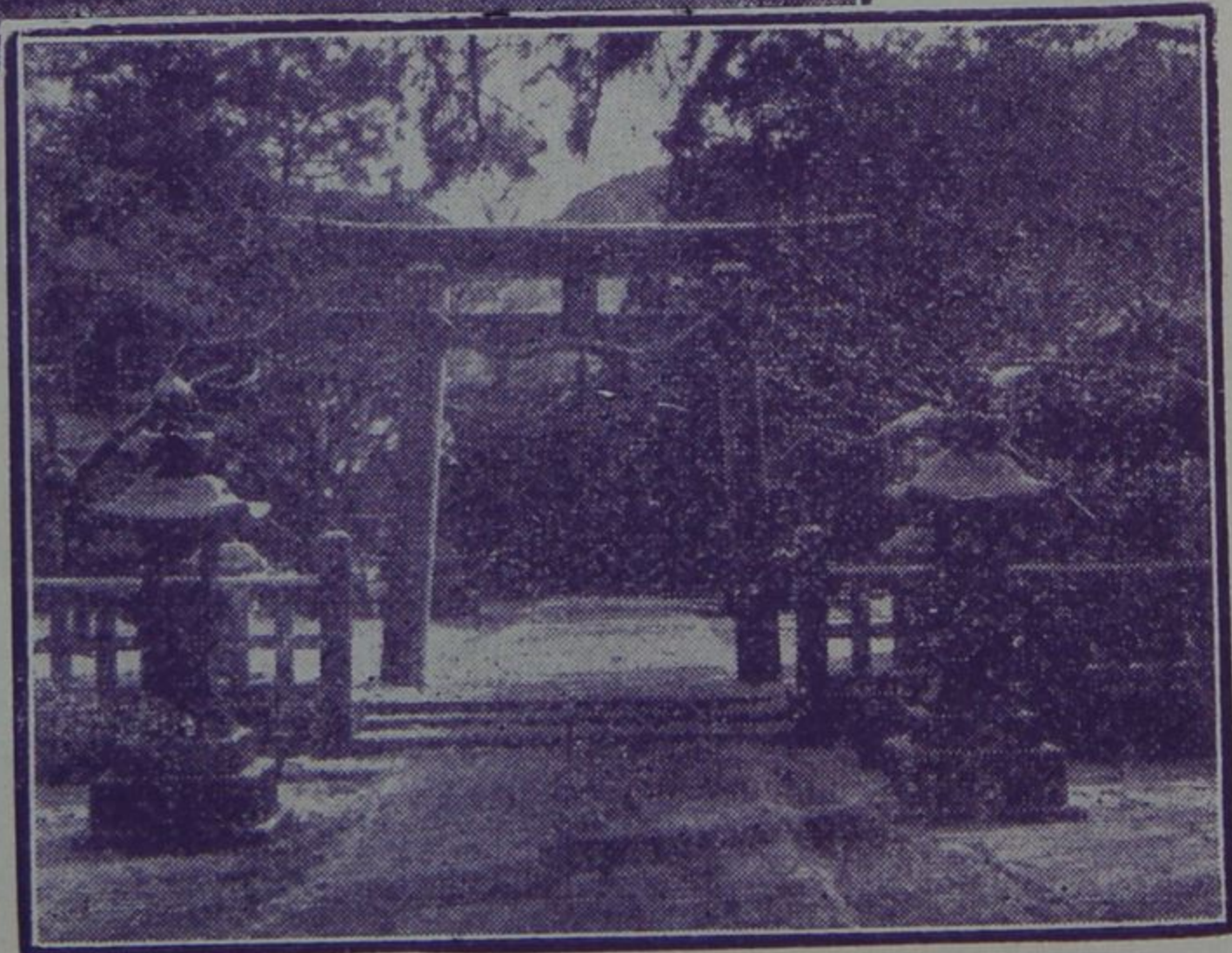


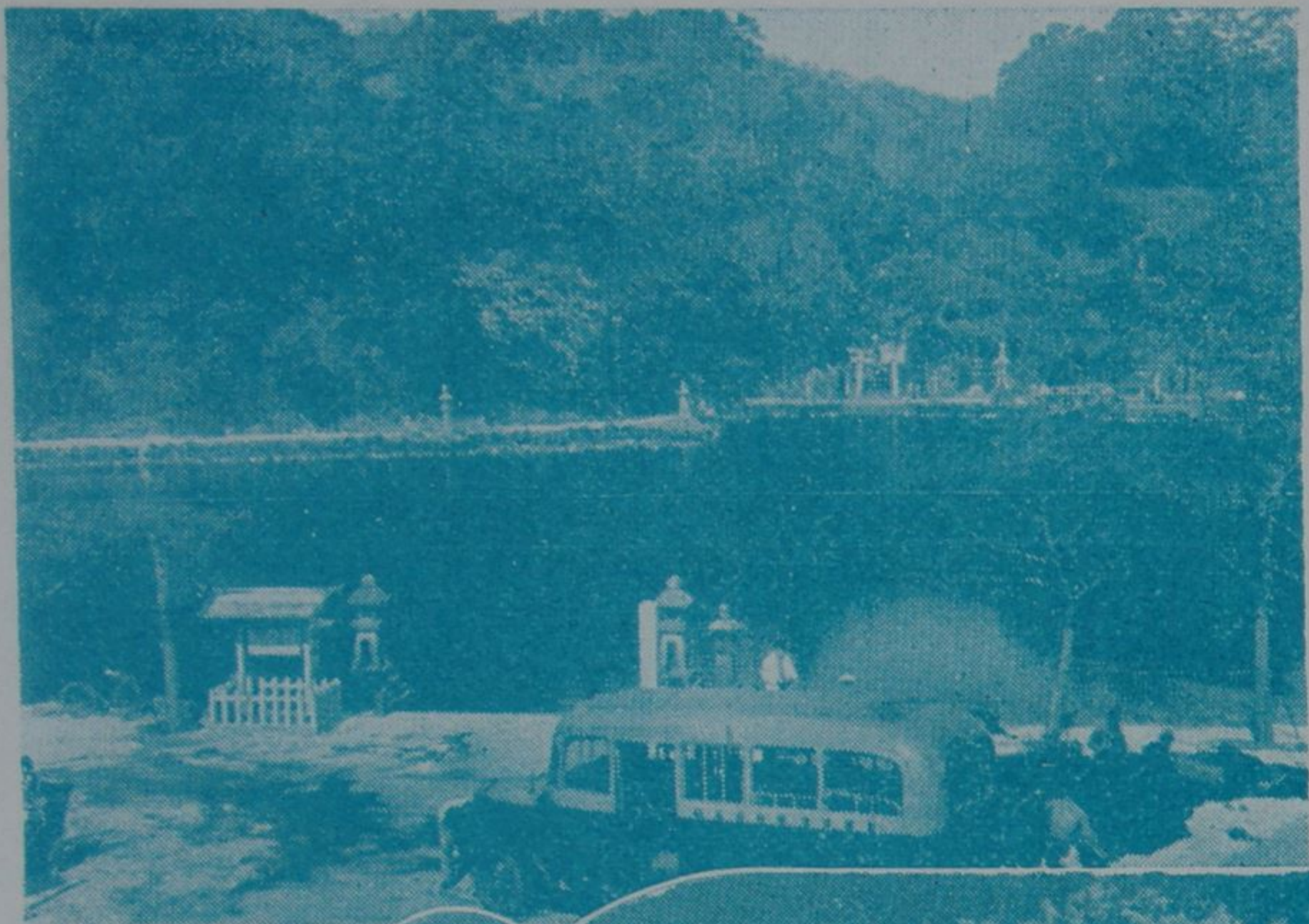
萩
橋



萩
城
址

松
陰
神
社





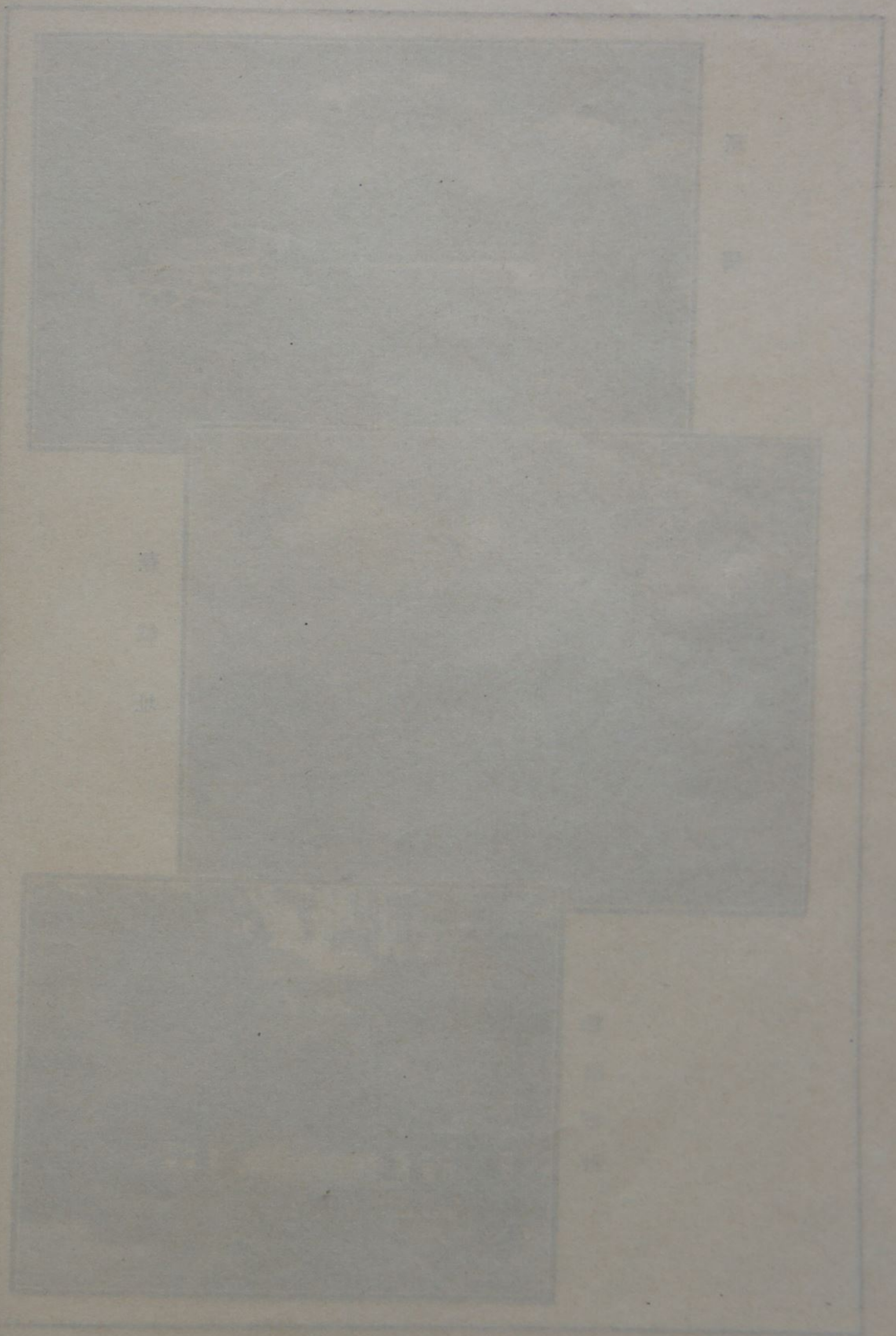
明
神
池

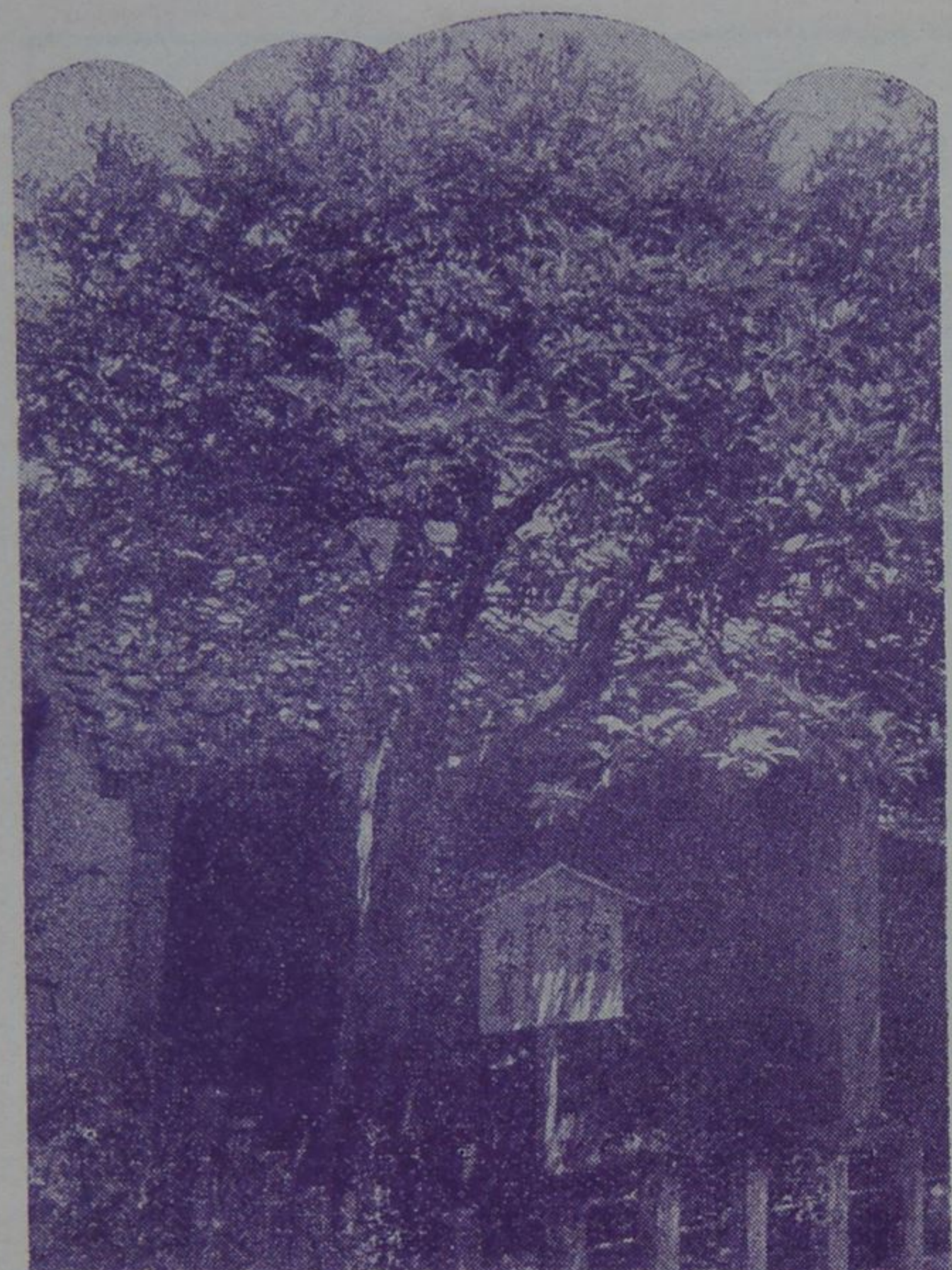


川
島
堤
の
櫻

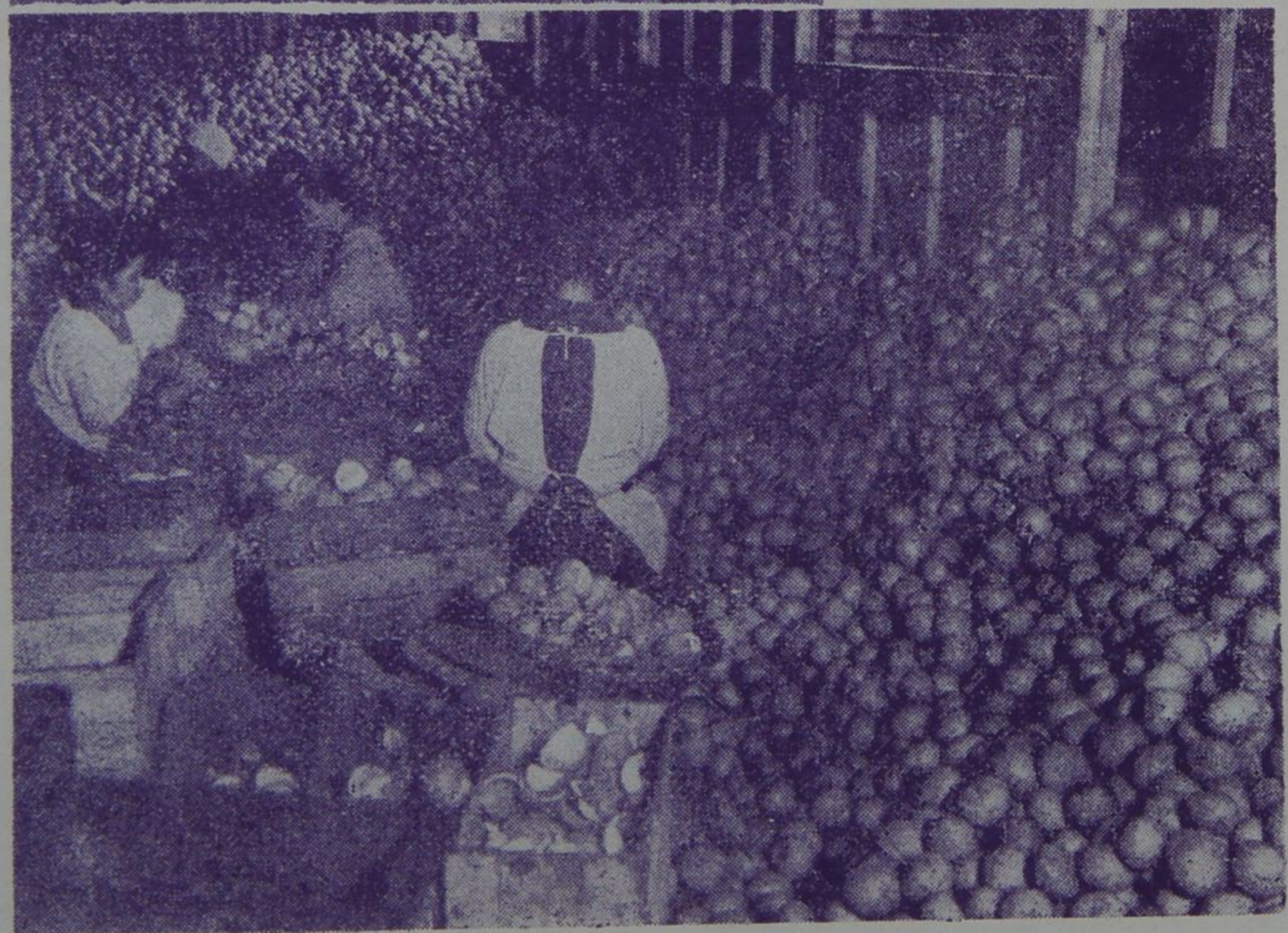


菊
ヶ
濱
海
水
浴
場





夏
橙
原
樹
と
加
工
場
の
一
部





越ヶ濱の大敷網



濱崎魚市場



萩焼製造所内部の様相と

萩焼製品



小
菽
人
形

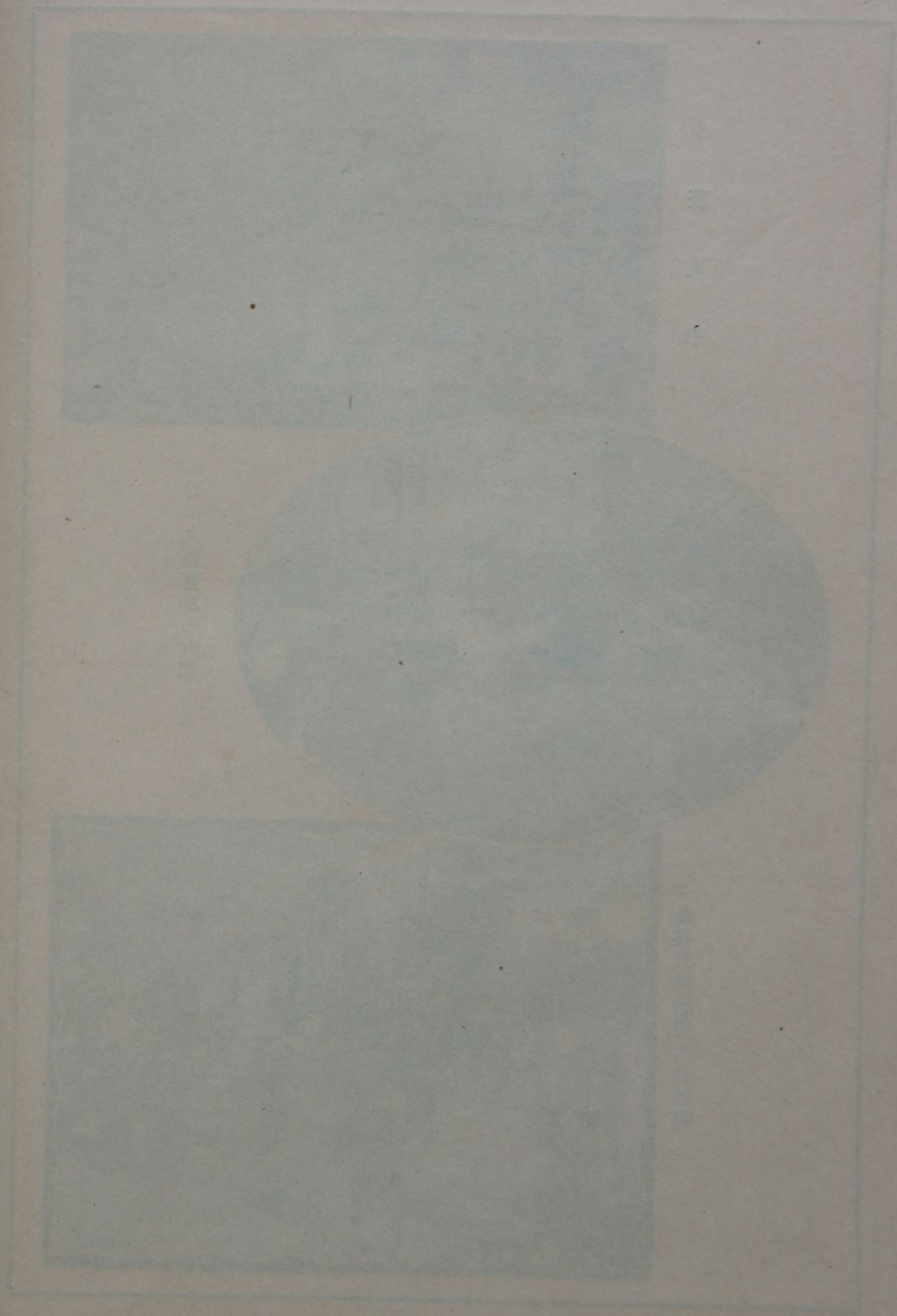


日
の
丸
保
育
園
の
内
部

金
谷
天
神
祭
禮
大
名
行
列

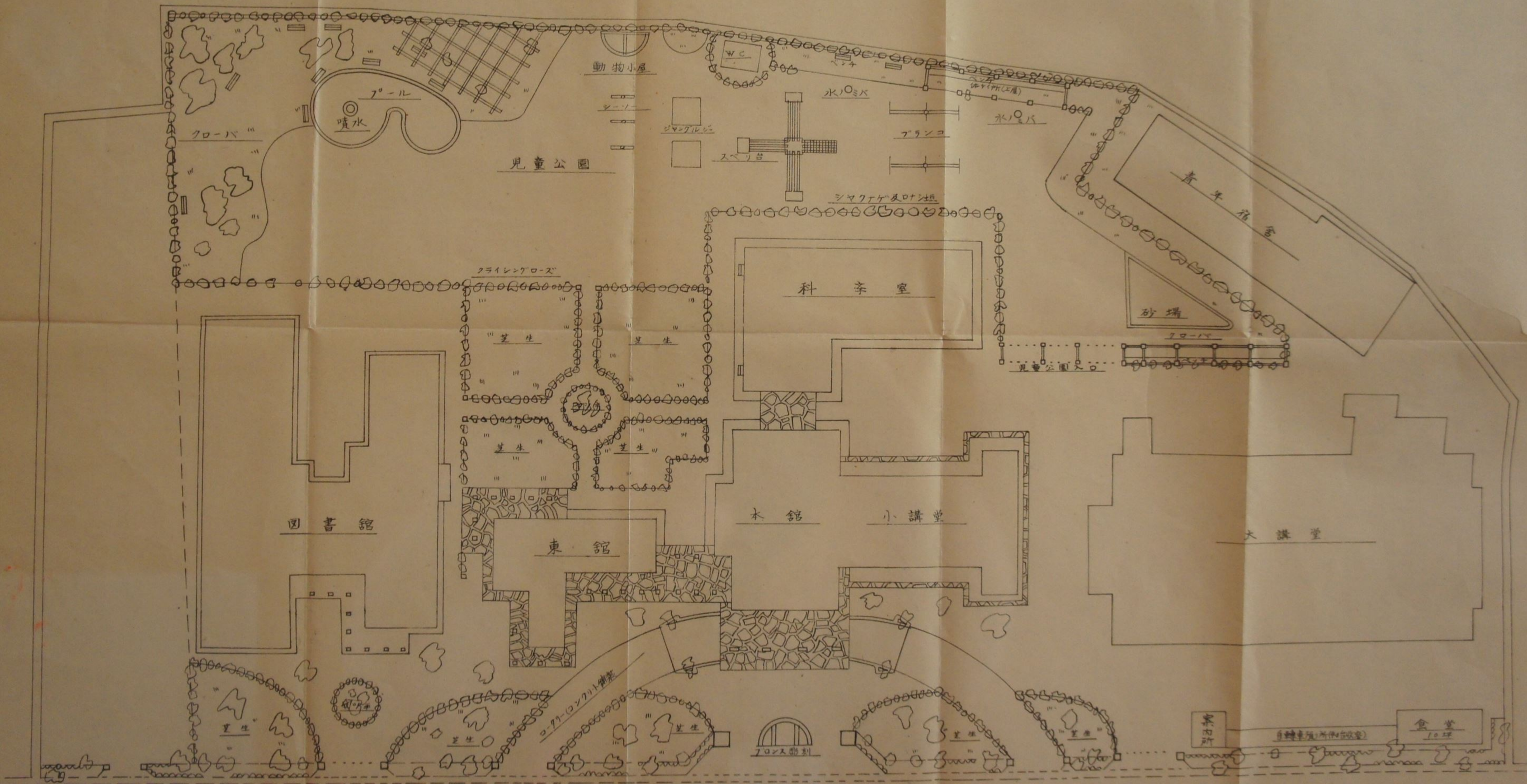


公民館(建設豫定)
設計配置圖



救市民館及兒童公園配置綜合計畫案 N02

S 1 300 0 1 2 3 4 5k



縣道救小串線

萩市民憲

- 一、至誠公明は天地を動かす、以て道義と革新に奮起しよう。
- 一、博愛正義は中外に通ずる、以て自由と平和に貢献しよう。
- 一、和衷協同は市民を結ぶ、以て文化と産業を振興しよう。

凡 例

- 一、本書は萩市勢の概要を通覧の便に供するため編纂したもので、市役所主管外の事項も必要と認めたものは之を掲載した。
- 二、本書は主として昭和二十二年乃至二十三年度又二十四年の資料によつたが調査の関係上これと異なるものは各項の傍にそれぞれ調査の期日を附記した。
- 三、本書は昭和十五年版以後休刊中であつたものを茲に復活編集したもので、なお意に充たない点もあるが大方の御教示を得て逐次完備をはかりたい。

目 次

沿革	………	(一)
一、土地	………	(三)
位置及び地勢、面積、土地總地積、耕地面積	………	
二、氣象	………	(七)
氣溫、降水量、風、管内五ヶ年間月別平均氣溫、天氣日數及雜象、霜雪の季節	………	
三、人口	………	(一三)
人口總數累年比較、地域別面積人口、年令別人口、常住人口及世帯	………	
生産者、準生産者、消費者、縣下十市人口及面積、阿武郡内各町村人口	………	
産業別世帯數並人口、戰災世帯及人口、引揚世帯及人口、國籍別男女	………	
別人口、人口動態、人口増加趨勢、入出寄留者、戶籍謄本抄本證明	………	
閱覽交付件數、寄留謄本抄本證明閱覽交付件數、轉入及轉出	………	
四、行政	………	(二七)
1、議事機關、選舉有權者數、各種選舉、市議會及委員會、	………	
議長及副議長、衆議院議員、縣會議員	………	

2、執行機關 歷代市會議長、市議會議員、常任委員會、公安委員、
監查委員、歷代市長、歷代助役、歷代收入役

五、財 政 (三五)

各會計別歲入歲出豫算及び決算、一般會計、市有財産

六、教育及宗教 (三九)

小學校、中學校、高等學校、公民館、市公學費收入支出、青年團及婦人會、神社
寺院、宗教結社

七、民 生 (四七)

保護施設、生活保護法による扶助狀況、要保護者、市營住宅、
庶民金庫貸付狀況、産業別職業紹介狀況、保育園、民生委員、
民生委員協議會別

八、保 健・衛 生 (五九)

醫師藥劑師、法定傳染病患者、結核死亡年令別、種痘成績、市營火葬場汚物掃除

九、産 業 (六三)

1 農産、畜産、林産 耕地面積、農家戸數、農家人口、牛、馬、豚、山羊、
農機具、現在の農家經營廣狹別田畑面積、普通作物、園藝作物(蔬菜)、

園藝作物(果樹)、農産加工品、藁工品、飼料作物、綠肥用作物、主要農産物
生産量、公私有林野面積、造林用苗木、森林伐採、畜産物、屠殺、主要食糧供
出割當並実績、農業關係組合委員

附 萩市に於ける夏橙栽培の歴史

2 水 産 漁船、專業兼業別經營形態經營體數

專業兼業別漁業種類別經營體數、漁業種類別漁業經營構造、水産生産總覽、

沿岸漁業種類別漁獲數量、水産製造物

製 氷 鮮魚配給狀況、鮮魚介家庭配給狀況

水産關係組合、鮮魚輸送鐵道主要驛別

3 工 業 地區別工場數、種類別工場數、種類別規模別工場數

4 商 業 萩商工會議所、會社(産業別)、會社(資本種別)

5 事業所總覽 産業種別事業所數及從業者數

一〇、金 融 (九七)

銀行本支店數及資本金、銀行預金、銀行貸付金、内國爲替、郵便爲替、郵便貯金
郵便振替貯金、信用組合

一一、土 木 (一〇三)

道路(その一) 道路(その二) 橋梁(市) 橋梁(國縣)

一二、交通、通信及運輸 …… (一〇六)

市營渡船利用者、市内各驛別乗降客數、市内各驛手小荷物取扱數、自動車及諸車郵便物取扱數、郵便局數及其他、電報、電話加入者産業別

一三、港 勢 …… (一一三)

水面積、繫船岸壁、物揚場、上屋、船舶給水繫船浮標、入港船舶、萩港船舶乗降者、萩港旅客及手小荷物、萩港貨物發着艘數、船舶

一四 水 道 …… (一二一)

消費區分別使用水量及使用料額、水道料金表

一五、司法警察 …… (一二五)

警察署及職員、犯罪及檢擧件數、遺失物及拾得物、交通事故、消防團定員數、消防用器材、火災、火災原因別

一六、官公衙、團體其他所在地 …… (一三一)

官公衙、郵便局、學校、銀行、主要會社、工場、新聞社、政黨協會及團體、映畫館及劇場

一七、史蹟及名勝其他 …… (一五三)

沿革

萩市は中國山脈に源を發した阿武川の下流、松本川と橋本川とに狹まれた「デルタ」の上に發達した都邑である。東南西の三方は、外に山をめぐらし、内に川を帯び、北は日本海に臨み、遠近の島々に對し、山水ともに秀麗で、四時の風光頗る明媚である。

萩の地の歴史に關して、文献口碑等に徴し得るものゝあるのは、奈良時代以後の事である。即ち、奈良東大寺の建立にからまる緣故や、壽永の頃この地に平家の落人などの定住したと云われる事や、鎌倉時代に於ける神社の建立、長門探題の分館造營や、戰國時代に石見三本松の城主吉見氏が、今の指月山下に別墅を構えた事などが數えられるが、しかし著名な事實は江戸時代の始め頃からの事である。

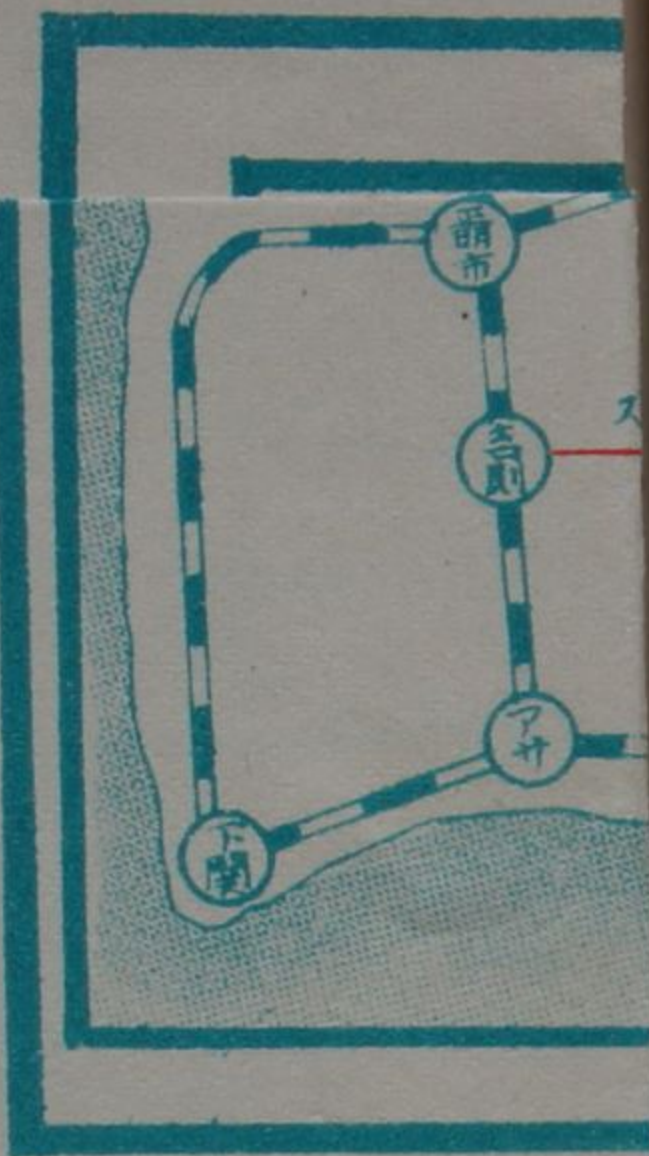
今を去る三百五十年前、慶長五年毛利輝元卿が防長二州を領有して同九年指月山城に入つてから、文久三年敬親卿が、その居を山口に移すまで、十四代二百六十年間、萩は二州の首都として殷盛を極めた。

しかもこの間、民政、教育、産業等に對する藩の施策よろしきを得たので明治維新に際しては、二州の力を結集して、時勢の進運に貢献し得るに至つた。

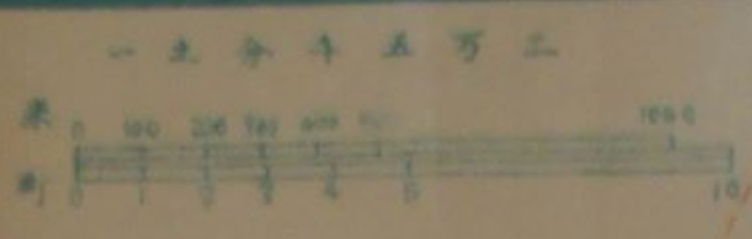
明治四年七月廢藩置縣に當つては、山口縣廳の支廳を米屋町下り筋に置き、明治二十二年四月町村制實施に際しては、椿郷東分村、椿郷西分村、及山田村と共に萩城下に四箇の自治團體を置き、大正十二年四月には萩町及椿東、椿、山田の三箇村を合併して萩町を置いた。

此の頃より市制施行の機運は頗に熟し、遂に昭和七年七月一日より萩町を廢し其の區域を以て萩市を置く旨公布せられ爾後道路の鋪裝、上水道の布設、港灣の修築、教育施設、社會施設の充實等漸次近代都市としての面目を備ふるに至つた。

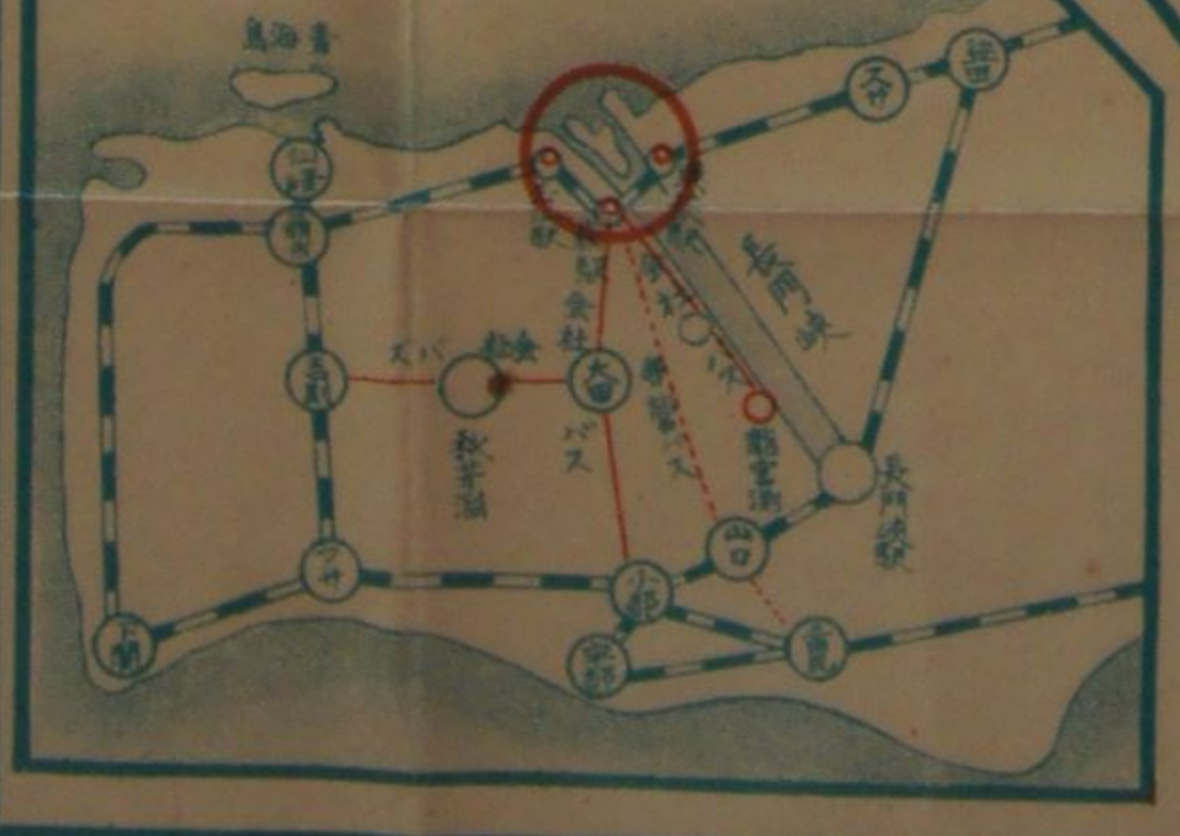
現在、漁港の修築、河川の改修、下水道の改造、萩商港（昭和二年十二月開港）の高度活用、學校並に公民館の完備、産業施策の充實等を企圖し、その大部分は既に着手進行して居るから、今後に於ける市勢の伸展は大いに期待せられて居る。



萩市内史蹟名勝地地圖

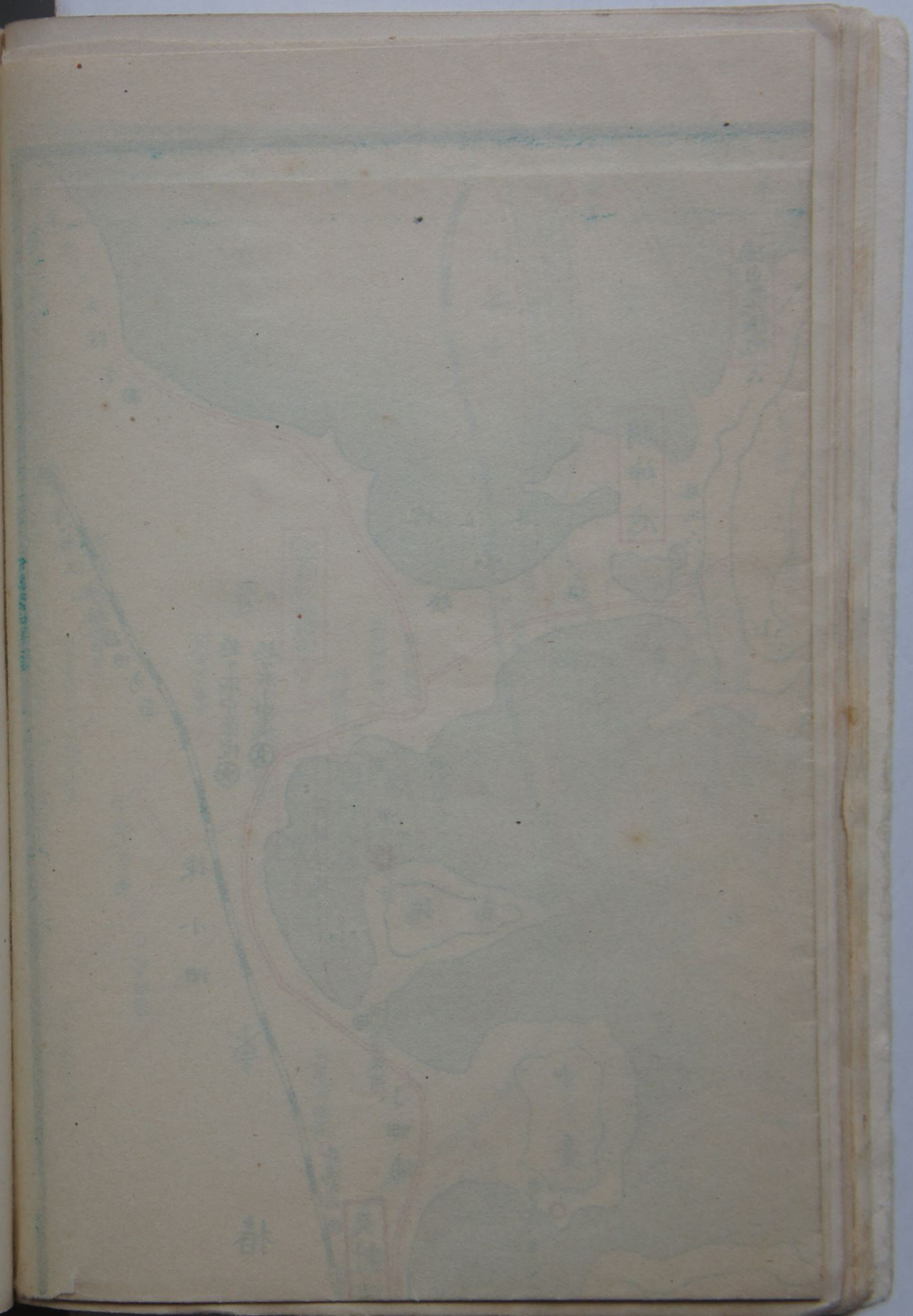


萩市至各コース



一、土地

位置、地勢、面積



位置及地勢

萩市は山口縣の西北部に在り、東經一三一度二七分、北緯三四度二二分に位置す。北は日本海に臨み一葦帯水を隔て、鮮滿と相呼應す。東南は阿武郡大井村、福川村、川上村、南西は明木村、三見村及び美禰郡赤郷村、大津郡三隅村に隣接し阿武川の下流一帯の平野を占む。其の周圍には碁盤ヶ嶽、鹿背ヶ坂、鯨ヶ嶽、等の山嶽を繞らし現在總面積七九、三四方秆、周圍六八、一八秆、東西一〇、八〇秆、南北一七、四五秆に及ぶ。阿武川の下流橋本、松本の二川一帯の地域に小平野を爲し、地味概ね肥沃なり然して木間を除く外總て海に沿ひ海岸線の延長一八、九八秆に達す。氣候寒暖二流の影響を受け概ね中和氣温平調にして寒暑共に激甚ならず。

面積

(1)市面積位置及廣袤

面積	極東		極西		極南		極北	
	大字橋東	大字山田	東西距離	大字木間	大字橋東	南北距離		
七九、三四 ^{方秆}	東經 一三度二七分二五秒	東經 一三度二〇分一〇秒	一七、六一 ^秆	北緯 三四度一七分五秒	北緯 三四度二七分三〇秒	一九〇、〇八 ^秆		

1 土地總地積

昭和二十四年三月末日現在土地臺帳

總面積	官有地		民有地		公有地				
	總數	大藏省 運輸省 法務廳	總數	田 畑 宅地 山林 原野 其他	總數	宅地 山林 溜池 道路			
四、六六三九 ^反	一八八 ^反	四二 ^反	一四二 ^反	四 ^反	一五八六 ^反	三五五 ^反	八四五 ^反	五八 ^反	一三五 ^反
一六九 ^反	二四 ^反	四四八六五 ^反	六三七二 ^反	六九七 ^反	二七四六 ^反	二九〇九 ^反	六九 ^反	三九二 ^反	

2 耕地面積

昭和二十三年七月一日現在

自作地	自小作別		水利用		普通畑		夏蜜柑畑		其他の果樹畑		桑畑		其他の畑	
	田	畑	一毛作田	二毛作田	普通畑	夏蜜柑畑	其他の果樹畑	桑畑	其他の畑	其他の果樹畑	桑畑	其他の畑	其他の果樹畑	桑畑
三五九三 ^反	四五三三 ^反	七九三三 ^反	二二三四 ^反	二二三四 ^反	五九六 ^反	三五二二 ^反	九二 ^反	一一〇 ^反	一〇四 ^反	一〇 ^反	五 ^反	三三 ^反	一一九 ^反	二六三 ^反
田	畑	田	畑	田	畑	田	畑	田	畑	田	畑	田	畑	田
一〇七九 ^反	六四三三 ^反	一一九七 ^反	一一九七 ^反	一一九七 ^反	二八八 ^反	三〇九 ^反	一〇 ^反	五 ^反	三三 ^反	一〇 ^反	五 ^反	三三 ^反	一一九 ^反	二六三 ^反

二、氣

象

總計	計	
	畑	田
10212	五六三	11009
11009	五五六	33431
33431	10212	10212
10212	10212	33431
1011	1011	1011
114	114	114
33431	33431	33431

天氣日數及雜象

年次	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年
快晴	五六	六五	六三	九六	五八
晴	四八	六三	七四	六〇	九六
曇	一九六	一六三	一七七	一五三	一四五
雨	五七	五四	三七	五一	五一
雪	二四	九	一五	五	一五
霰	二	三	二	一	—
雹	—	—	—	—	—
霜	二	三	六	一	—
結氷	一三	—	八	九	—
濃霧	四	—	—	—	—
電雷	一〇	一九	—	—	—
地震	—	—	—	—	四
暴風	二五	一三	三	—	二
以上〇度	三六	四七	六〇	五八	四三
以下〇度	七	二二	二八	一六	三四

霜雪の季節

(一)は氷點下を示す

年次	昭和一九年	昭和二〇年	昭和二一年	昭和二二年	昭和二三年	昭和二四年
初霜	—	一三、三	一三、九	一三、九	一三、三	一三、一〇
最低氣溫	—	一、〇	一、〇	一、〇	一、一	一、〇
終霜	三、一七	三、四	三、三	三、三	三、四	—
最低氣溫	〇、〇	〇、〇	一、一	〇、〇	〇、〇	—
初雪	一三、三	一三、七	一三、九	一三、一〇	一三、三	一三、六
最低氣溫	〇、〇	〇、〇	〇、一	〇、〇	〇、〇	〇、三
終雪	三、一五	三、一七	三、一七	三、一七	三、一七	—
最低氣溫	〇、〇	一、一	一、一	一、一	一、一	—

三人

口

人口總數

三

海軍

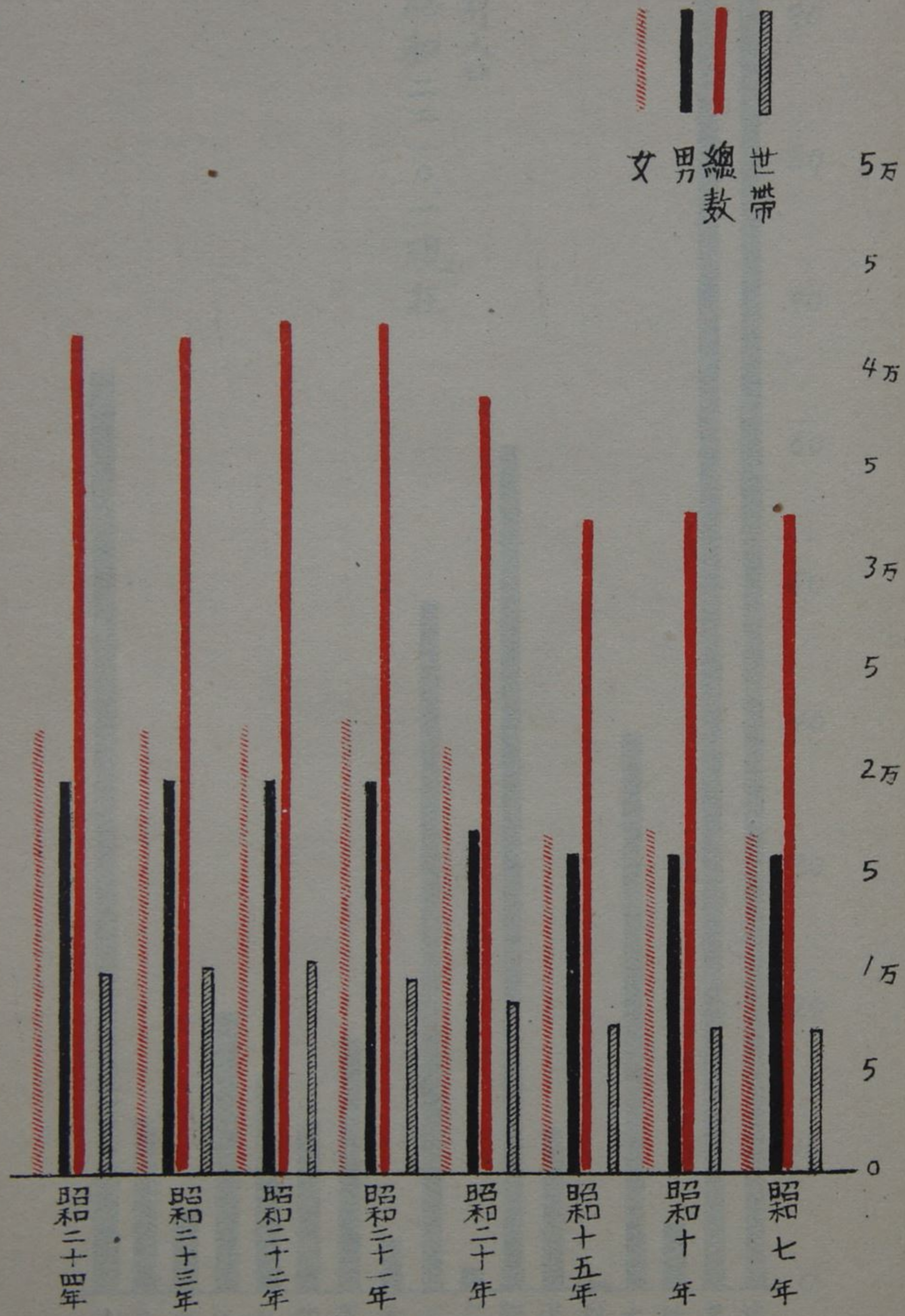
三

人口總數累年比較

年次	世帯	人口		一世帯平均人員	女一〇〇に付き男	
		總數	男			女
大正十二年	六、六四四	二九、二二二	一四、三三四	一五、五九八	四、三〇〇	九一
大正十一年	六、六四四	二九、二二二	一四、三三四	一五、五九八	四、三〇〇	九一
大正十年	六、六四四	二九、二二二	一四、三三四	一五、五九八	四、三〇〇	九一
大正九年	六、六四四	二九、二二二	一四、三三四	一五、五九八	四、三〇〇	九一
大正八年	六、四七五	三四、三六二	一七、二二六	一七、二三六	五、三〇〇	九九
大正七年	六、四四一	三四、四三四	一七、一六四	一七、二七〇	五、三四	九九
大正六年	六、四〇九	三三、八五六	一六、七三五	一七、一一一	五、二八	九七
大正五年	六、三九三	三三、九五九	一六、七三七	一七、二二二	五、三一	九七
大正四年	六、六二七	三三、八七九	一七、〇四七	一六、八三三	五、一一	一〇一
大正三年	六、五〇〇	三四、二三三	一六、九五五	一七、三五八	五、二六	九八
大正二年	六、四五一	三三、九九七	一六、七五一	一七、二四六	五、二七	九七

年次	世帯	人口		一世帯平均人員	女一〇〇に付き男	
		總數	男			女
昭和十三年	六、六四五	二九、九二七	一四、三二〇	一五、六〇七	四、五〇	九一
昭和七年	七、〇六三	三二、六七一	一五、八四〇	一六、八三一	四、六三	九四
昭和八年	七、一〇五	三三、八三四	一六、四〇四	一七、四三〇	四、七六	九〇
昭和九年	七、一〇一	三三、二〇九	一六、四三二	一六、七七八	四、七三	九七
昭和十年	七、一六〇	三三、五八六	一五、七〇三	一六、八八三	四、五五	九三
昭和十一年	七、一五〇	三三、五七六	一五、七四五	一六、八三一	四、五五	九四
昭和十二年	七、〇七九	三三、二五七	一五、六二四	一六、六三三	四、五五	九三
昭和十三年	七、〇六九	三三、〇一五	一五、二二三	一六、八二〇	四、五三	九〇
昭和十四年	七、〇七八	三二、八九六	一五、二九八	一六、五九八	四、五〇	九二
昭和十五年	七、二一五	三三、〇七〇	一五、五八六	一六、六八四	四、五二	九三
昭和十六年	七、二六一	三三、一三二	一四、七五六	一六、二八二	四、一五	九〇
昭和十七年	七、三六五	三二、七五五	一四、六七〇	一七、〇八五	四、三七	八〇
昭和十八年	七、三九一	三二、七八七	一四、二九四	一七、四九五	四、三一	八一
昭和十九年	七、三九一	三三、〇六〇	一三、六九七	一七、二六三	四、一八	七九
昭和二十年	八、四四七	三八、三八八	一七、二九三	二一、〇九五	四、五四	八一

最近人口趨勢 凡例



區 域	面積 方 呎	世帯數	總 數 人		口		現在人口女 百に付男	一世帯當り 平均人口
			男	女	男	女		
山 田	三二、六二	一、〇六九	二、五九〇	二、六〇九	九、二七	四、八六		
椿 東	一四、〇八	六四八	一、四三二	一、六二四	八、一一	四、七一		
椿 萩	二四、九八	二、六五七	五、六九二	六、一九五	九、二八	四、四七		
舊 數	八、七〇	五、六三六	九、七五四	一一、六二八	八、八八	三、七九		
總 數	七九、三四	一〇、〇一〇	一九、四六七	二二、〇五八	三三、〇五八	四、二四		
〃								
〃								
〃								
〃								

地域別面積人口

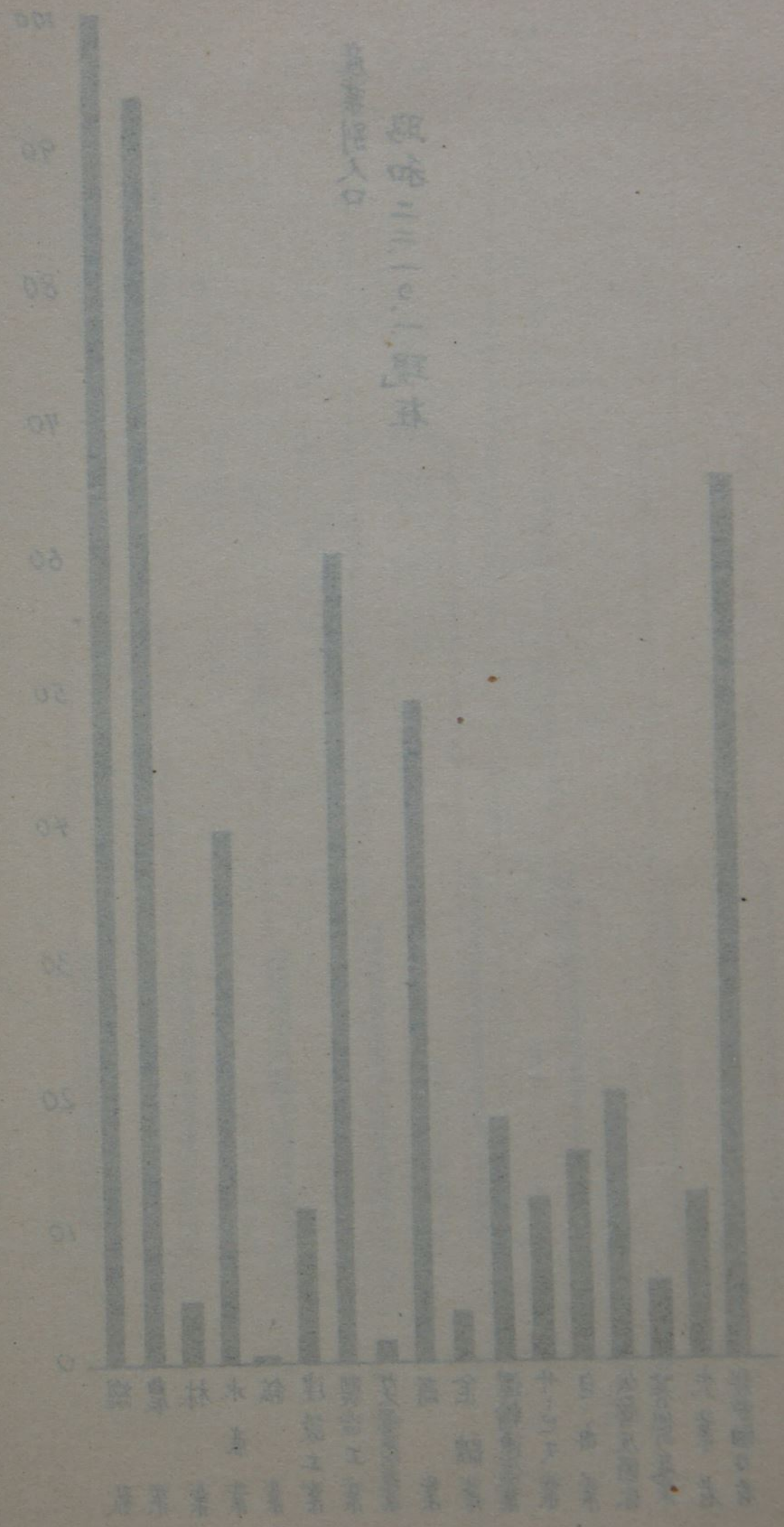
(昭和二十四年一月一日現在)

〃	二十四年	九、九二八	四、五五〇	一九、五四九	三三、〇〇一	四、一八	八八
〃	二十三年	一〇、一〇九	四、五三六	一九、四一九	三三、一一七	四、一〇	八七
〃	二十二年	一〇、三八六	四、一四六	一九、七六〇	三三、三八六	四、〇五	八八
〃	二十一年	九、八四八	四、〇四〇	一九、五六四	三三、四四六	四、二六	八七

年令別人口

(昭和二十四年一月一日現在)

年令別	人口		
	總數	男	女
總數	四一、五二三	一九、四六七	二二、〇五六
一才以上	一、一〇九	五五五	五五四
二才以上	二、八四八	一、四三三	一、四一五
三才以上	四、九六五	二、五二三	二、四四二
四才以上	四、三七九	二、二〇八	二、一七一
五才以上	七、八六三	三、七六三	四、一〇〇
六才以上	一六、一四七	七、一八八	八、九五九
七才以上	四、二二二	一、七九七	二、四一五



常住人口及世帯

(昭和二十三年八月一日現在)

區域	世帯數	總數	
		男	女
總數	一〇、〇三六	四一、七六一	二二、二五一
舊萩	五、七〇一	二一、六六一	一一、八二六
椿東	二、六一四	一一、八二六	六、一七九
椿田	六四八	三、〇二七	一、六〇七
山田	一、〇七三	五、二四七	二、六三九

生産者準生産者消費者世帯數及び常住人口 (昭和二十三年八月一日現在)

世帯數	配給米による者		保有米による者	
	男	女	男	女
全世帯	一〇、〇三六	一八、五〇五	二一、〇三〇	一、〇〇一
生産者世帯	一、六〇一	三、一七二	三、四二八	一、〇〇一
準生産者世帯	七〇一	一、三三三	一、五七八	一、〇〇一
消費者世帯	七、七三四	一四、〇〇四	一六、二三四	一、〇〇一

縣下十市人口及面積

(昭和二十三年八月一日現在)

市別	總數		市別		總數	
	男	女	男	女	男	女
山口縣	一、五〇九	七四一、三二七	德山市	八〇、六三三	三九、三七七	四一、二五五
下關市	一八〇、五八七	八九、四五四	防府市	六七、〇〇三	三二、二四一	三四、七六一
宇部市	一一八、三八一	六一、六九〇	下松市	三八、五三〇	一九、三三七	一九、一九三
山口市	八九、六四二	四五、九七六	岩國市	五八、九五五	二九、六七六	二九、二七九
萩市	四一、七六一	一九、五一〇	光市	三五、七七四	一七、二八一	一八、四九三
小野田市	五一、九四七	二八、五二五				

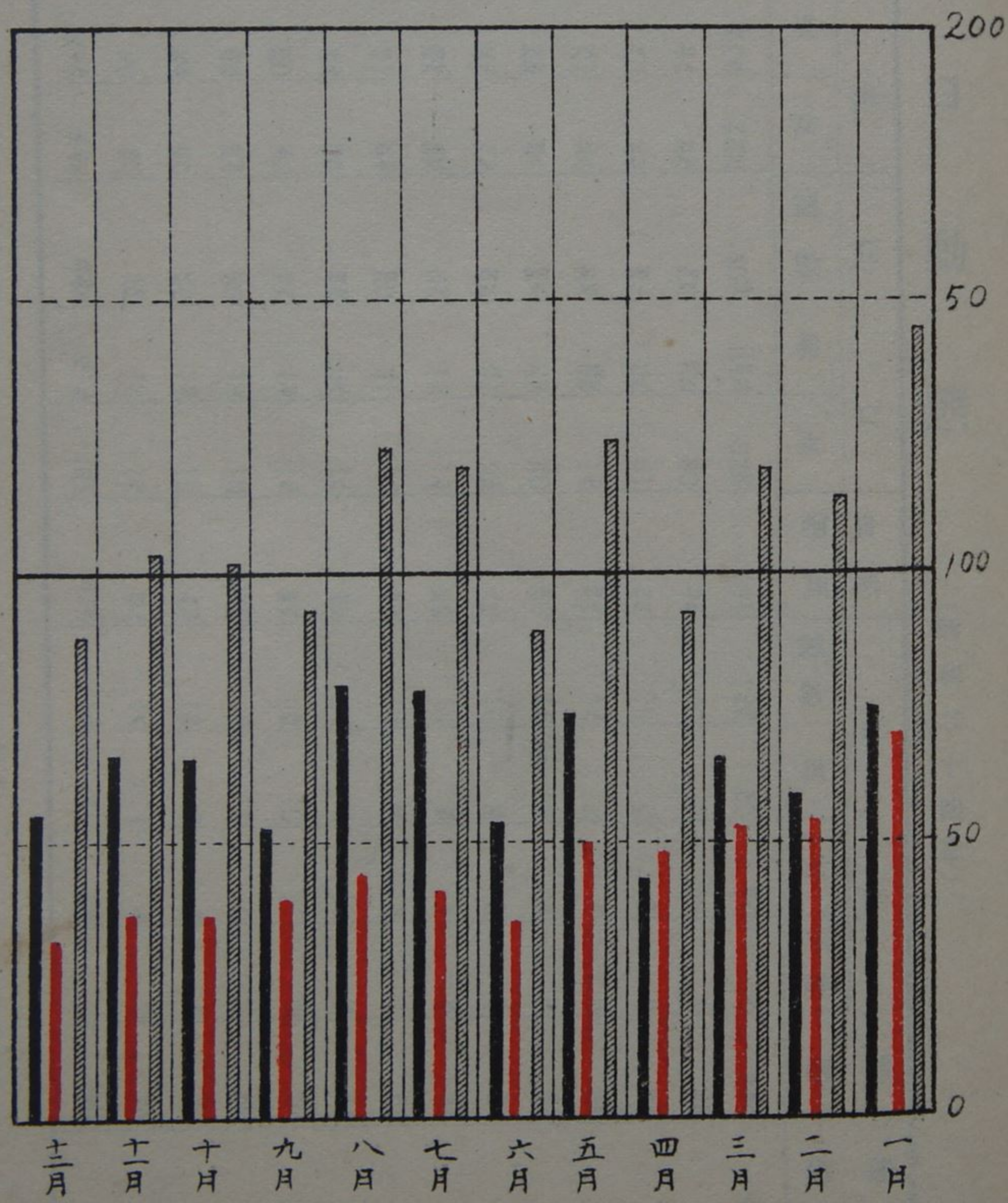
阿武郡内各町村人口

(昭和二十三年八月一日現在)

町村別	總數		町村別		總數	
	男	女	男	女	男	女
總數	八四、五二二	四三、一八八	福川村	四、四五三	二、二〇五	二、二四八
三見村	三、六七三	一、七五四	紫福村	三、一五二	一、五八六	二、五六六

出生
 死亡
 自然増加

昭和二十四年
出生、死亡、自然増加調



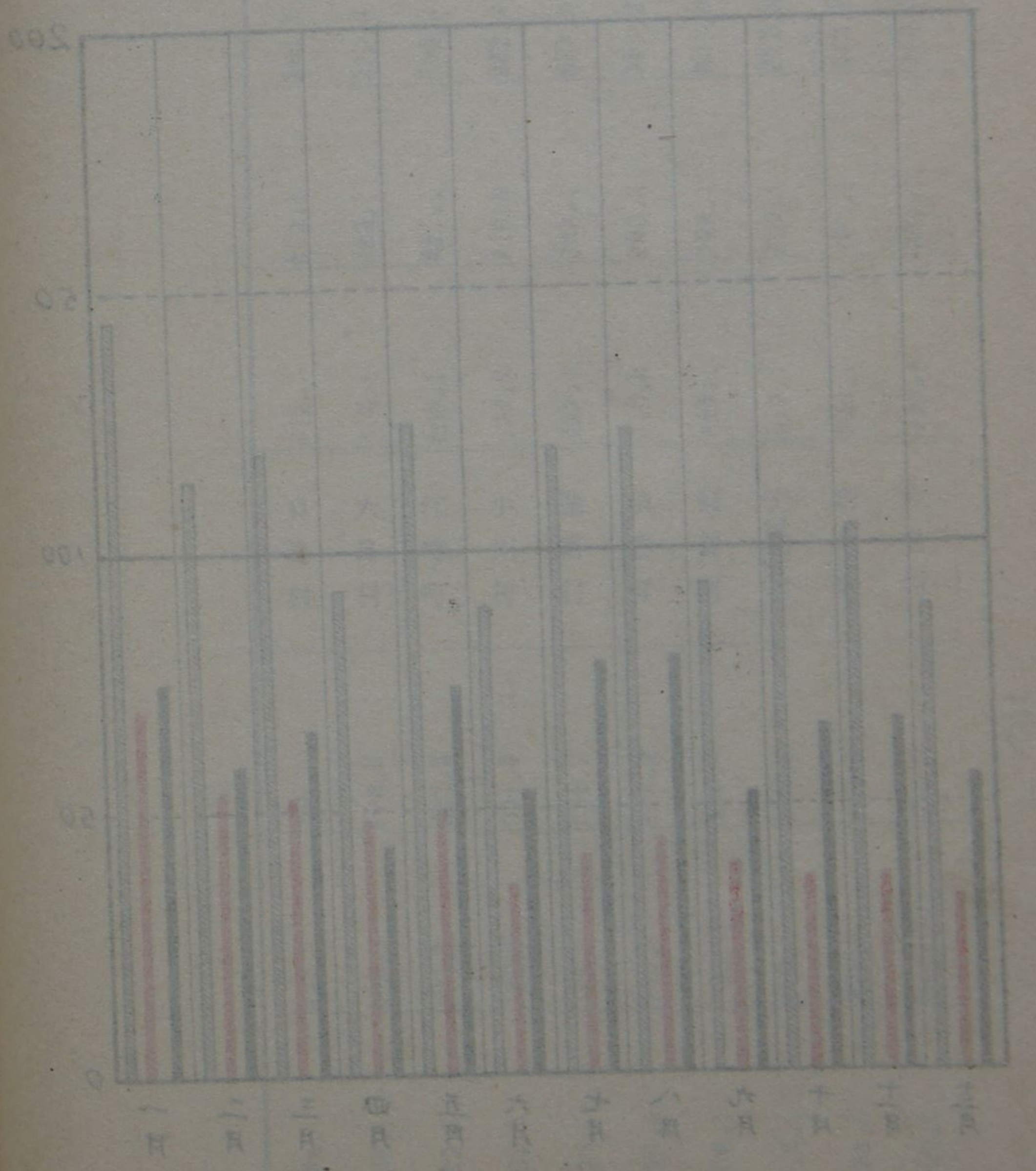
吉部村	三、二五四	一、六二七	一、四一三	見島村	二、七七九	一、三八九	一、三九二
高俣村	二、八八六	一、四七三	一、四一三	大島村	二、五八九	一、二五七	一、三三三
嘉年村	二、四〇二	一、一七五	一、二二七	江崎町	四、六七四	二、一九五	二、四七九
徳佐村	六、六九四	三、三二三	三、三八一	小川村	四、一〇〇	一、〇九一	二、一〇九
地福村	三、八二三	一、八五九	一、九六四	彌富村	二、七六三	一、三七八	一、三八四
生雲村	四、二七八	二、〇五九	二、二一九	須佐町	六、二七七	三、〇二八	三、二四九
篠生村	三、二二五	一、五四六	一、五七九	福賀村	二、九四六	一、四四二	一、五〇四
川上村	三、六一九	一、八〇九	一、八一〇	宇田郷村	二、五一一	一、一〇九	一、三九六
佐々並村	二、四五四	一、一九二	一、二六三	奈古町	五、二九五	二、五四三	二、七〇一
明木村	二、四三六	一、一八八	一、二四八	大井村	四、二五〇	一、〇〇三	二、一〇九

前 二 年	十 月	十 月	九 月	八 月	七 月	六 月	五 月	四 月	三 月	二 月	一 月	總 數	月 別		
													總 數	別	
1190	93	107	96	92	119	118	89	128	92	119	117	138	1308	出生	總數
656	50	57	49	40	59	61	46	59	44	61	60	79	665	男	總數
575	43	50	47	52	60	57	43	69	48	58	57	59	643	女	總數
575	34	30	30	36	46	40	36	45	45	53	49	63	507	死亡	總數
319	15	17	15	17	28	21	19	21	25	34	28	33	273	男	總數
256	19	13	15	19	18	19	17	24	20	19	21	30	234	女	總數
715	59	77	66	56	73	78	53	83	47	66	68	75	801	自然增加	總數
117	18	16	7	24	25	15	11	10	19	18	11	20	196	死亡	總數
60	11	6	6	10	9	5	3	5	13	9	6	7	90	男	總數
46	7	6	0	11	11	9	6	4	2	6	4	11	78	女	總數
11	0	4	1	3	5	1	3	1	4	3	2	1	28	不詳	總數
553	35	35	30	28	34	40	35	43	42	34	48	54	458	婚姻	總數
63	8	5	4	7	4	5	6	4	6	5	7	4	65	離婚	總數

人口動態

(昭和二十四年)

昭和二十四年人口動態圖



産業別世帯數並人口

(昭和二十四年五月一日現在)

産業分類	世帯數		人口		産業別百分比
	總數	男	女	人口	
總數	九、九六五	四一、〇七一	一九、一二三	二一、九四八	一〇〇
農業	一、三〇三	六、九五四	三、三八七	三、五六七	一三、一
林業	六六	二八五	一四一	一四四	〇、七
水産業	九九四	五、一九七	二、六〇二	二、五九五	一〇、〇
鑛業	二三	七五	三六	三九	〇、二
建築工業	三三四	一、四九七	七五五	七四二	三、四
製造工業	一、六八〇	七、二四九	三、五一〇	三、七三九	一六、九
ガス、電氣及水道業	八三	三二一	一六〇	一六一	〇、八
商業	一、〇八六	四、九〇九	二、三五一	二、五五八	一〇、九
金融業	一〇三	四六九	二一六	二五三	一、〇
運輸通信業	四七五	二、〇三三	九八〇	一、〇五三	四、八
サービス業	二四四	一、一一〇	四七四	六三六	二、四

業種	戦災世帯及人口		引揚世帯及人口	
	世帯數	人口	世帯數	人口
自由業	五二七	二、一一八	九二四	一、一九四
公務及団体	六八五	二、五三二	一、二〇五	一、三二七
其他の産業	二九五	一、〇三四	四四四	五九〇
無業	二、〇六七	五、二八八	一、九三八	三、三五〇

年別	戦災世帯及人口		引揚世帯及人口	
	世帯數	人口	世帯數	人口
昭和二十二年九月現在	四三三	一、二二二	二、二五〇	七、一七八
昭和二十二年九月現在	三九八	一、一五六	二、二九九	七、五三三
昭和二十二年三月現在		五三三		三、三六四
昭和二十二年四月現在		四九二		三、五七四
昭和二十二年三月現在		六九九		三、七八四
昭和二十二年四月現在		六九四		三、九四九

備考 (外地應召復員軍人軍屬を含み一般復員軍人を除く)

國籍別男女別人口

(二三、一〇、一現在)

種別	總數		男		女	
	種別	總數	男	女	種別	總數
日本人	四一、四三三	一九、二七	三三、二九五	中華	三	三
中華民國人						

月別	件入	件出	月別
別	入	出	別
數	寄	寄	數
人	留	留	人
員	員	員	員
總	二五六	三七七	一
一	一四	三一	一
二	三四	四〇	二
三	四〇	三九	三
四	二五	三五	四
五	二〇	三一	五
六	一八	三〇	六
七	一三	一九	七
八	九	二六	八
九	二一	三五	九
十	二四	二七	十
十一	一〇	三五	十一
十二	二八	二九	十二
昭和二十一年	三八三	四〇九	昭和二十一年
昭和二十二年	六二一	三六七	昭和二十二年

入出寄留者

(昭和二三年)

年次	世帯數	人口	世帯	一方軒につき	人口
昭和一年	七、〇九〇	三二、五八七	八九	四一一	
昭和五年	七、一二五	三二、二七〇	八九	四〇七	
昭和九年	七、三九一	三〇、九六〇	九三	三九〇	
昭和十年	八、四四七	三八、三八八	一〇六	四八四	
昭和十一年	九、一七四	三九、七〇四	一一五	五〇〇	
昭和十二年	一〇、一四一	四一、五七九	一二八	五二四	
昭和二十二年	一〇、〇三六	四一、七六一	一二六	五二八	

人口増加趨勢

(各年次共國勢調査に依る)

朝鮮人	英 其の他の外國人
一四	一
一八	一

四、行政

戶籍謄本抄本證明閱覽受付件數

年次	謄本		抄本		證明書		閱覽		計
	本	抄	本	抄	證	明	書	閱	
昭和二十四年	二、五〇〇		三、〇七四		大二四		一七		六、二一五
昭和二十三年	三、〇一九		三、二八九		八五		一三		六、四〇六
前年	四、三九六		三、〇五三		一七一		五〇		七、六七〇

寄留謄本抄本證明閱覽受付交付件數

年次	謄本		抄本		證明書		閱覽		計
	本	抄	本	抄	證	明	書	閱	
昭和二十四年	四三		一三八				二		一八一
昭和二十三年	六一		八九				二		一五二
前年	三八		六七				一		一二五

轉入及轉出

年次	轉入		轉出	
	縣內	縣外	縣內	縣外
昭和二十三年	二、七七三	一、七四八	四、五二一	二、八六四
				二、五〇〇
				五、三六四

1 議事機關
選舉有權者數

年別	總數		有權者數	
	男	女	男	女
昭和二十四年	二二、四四三人	九、九六一人	九、九六一人	一三、四八二人
昭和二十三年	二二、一五八	九、七五七	九、七五七	一三、四〇一
昭和二十二年	二二、一五八	九、七八二	九、七八二	一三、三七六
昭和二十一年	二二、五二〇	一〇、七〇八	一〇、七〇八	一三、八一二

各種選舉

種別	有權者數	投票者數		投票率
		男	女	
知事	二二、六九六	七、七五三	八、三七〇	七一%〇
市長	二二、六九六	七、七五三	八、三七〇	七一%〇
市議員	二二、六九六	七、七五三	八、三七〇	七一%〇
縣議員	二二、六九六	七、七五三	八、三七〇	七一%〇
衆議員	二二、六九六	七、七五三	八、三七〇	七一%〇
參議員	二二、六九六	七、七五三	八、三七〇	七一%〇

市議會及委員會

年度別	市議會		委員會	
	開會次數	議決件數	開會次數	議決件數
昭和二十四年	一五	一九八	五三	二五五
昭和二十三年	一一	一九二	八八	二五六

種別	有權者數	投票者數		投票率
		男	女	
市議員	二二、二四八	一三、一六〇	五、九一九	六一%三
縣議員	二二、二四八	一四、七四一	七、〇七五	六三%四
衆議員	二二、五二〇	一九、二五六	八、五三五	八一%九
參議員	二二、五二〇	一九、二五六	八、五三五	八一%九

議長及副議長

議長 吉賀 要作 (大字椿東) 副議長 中島 恒一 (大字土原)
書記長 池田 脩亮 (大字細工町)

衆議院議員

吉武 惠市 萩市 出身

縣會議員

河上屋千代	福田一良	氏名	住	所	電	話
榎	榎		東	清水		三一四
			新	川		三六九

歷代市會議長

歷	順	氏名	就任年月	退職年月	在職期間	備考
初	代	土井市之進	昭和七、七、二五	昭和一一、七、	四年一ヶ月	
二	代	大田民藏	一一、七、一八	一七、七、	六年一ヶ月	
三	代	佐伯宇植	一七、七、三〇	一九、七、	二年一ヶ月	
四	代	林良雄	一九、七、	二二、一、一四	二年七ヶ月	
五	代	吉賀要作	二二、一、二七	現在に至る		

市議會議員

(定員三〇名現在員二九名)

池田房一	堀元助	小池要助	堀幸一	岩崎安次郎	田村寛一	加藤亀松	上領源六	仙崎俊一	今地延一	野坂百一	村木五一郎	藤田榮吉	中村孫助	谷口保雄	三戸安秋	下瀬仙一	山本與作	野村博	光國義太郎	増山三郎	出羽百合助	野村清太	柴田定行	長谷川元隆	中島恒一	高田蕃穂	藤山初彌	吉賀要作
------	-----	------	-----	-------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	-----	-------	------	-------	------	------	-------	------	------	------	------

常任委員會

名	稱	定員	委員長氏名	名	稱	定員	委員長氏名
自治委員會	九	村木五一郎	土木委員會	九	池田房一		
教育委員會	九	增山三朗	財政委員會	九	堀山幸一		
農林委員會	九	田村寛一	警察委員會	九	谷口保雄		
商工水產委員會	一四	山本與作					

公安委員

委員長	山根芳郎	大字椿字椿町	所	電話
委員	竹田淳	大字平安古		三二
委員	松岡六雄	大字椿東字中、小畑		

監査委員

委員長	村木五郎	大字椿東字香川津	所	電話
委員	岡田幸植	大字椿字東香川津		一一

選舉管理委員會委員

委員長	上利久一	大字山田字玉江浦	所	電話
				二五四

歴代市長

委員長	藤井章	大字江向		一一一
	江山道三	大字椿字雜式町		
	來島眞介	大字山田字玉江		

歴	順	氏名	就任年月	退職年月	在職期間	備考
初	代	豊田勝藏	昭和七、八、八	昭和一一、二、一二	三年六月	
二	代	市川一郎	一一、三、一〇	一一、六、七	一年三月	
三	代	古屋武助	一二、七、二四	一七、一二、二九	五年五月	在職中死亡
四	代	藤田包助	一八、三、一九	二〇、一、二二	一年十月	在職中死亡
五	代	光尾芳人	二〇、三、七	二一、一、五	一年八月	
六	代	安村正人	二二、四、一七	現在に至る		

歴代助役

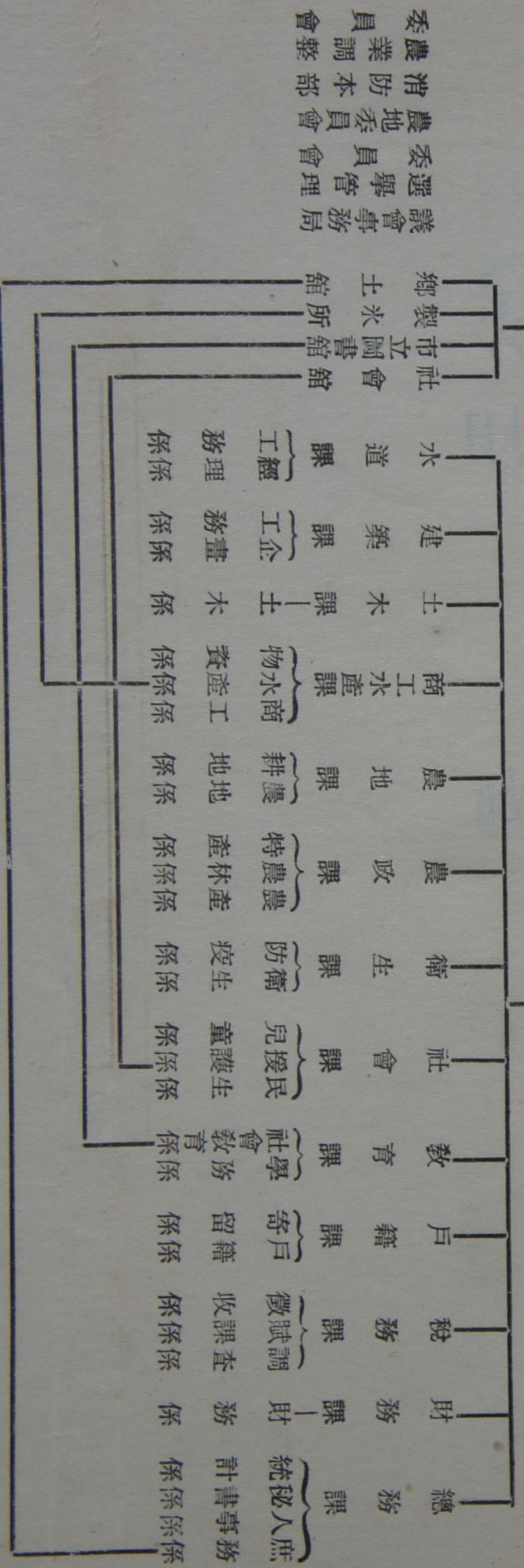
歴順	氏名	就任年月	退職年月	在職期間	備考
初	市川一郎	昭和七、八、二八	昭和一一、三、一〇	三年七ヶ月	
二	羽仁一	九、一、一二	一一、二、一二	二年	
三	向原卯吉	一一、九、三	一五、九、二	四年	
四	松原元	一五、一二、九	一八、七、七	二年七ヶ月	
五	光尾芳	一八、一〇、一八	二〇、三、七	二年五ヶ月	
六	杉山綱	二〇、八、二三	二二、四、一七	一年八ヶ月	
七	西村益一	二二、六、二五	現在に至る		

歴代収入役員

歴順	氏名	就任年月	退職年月	在職期間	備考
初	岡小市	昭和七、八、二九	昭和一一、五、一	七年八ヶ月	
二	岡幸穂	一五、五、二	二二、三、五、一		
三	田中儀明	二二、五、一	現在に至る		

本市役所機構配置圖

(昭和二十四年十二月八日現在)

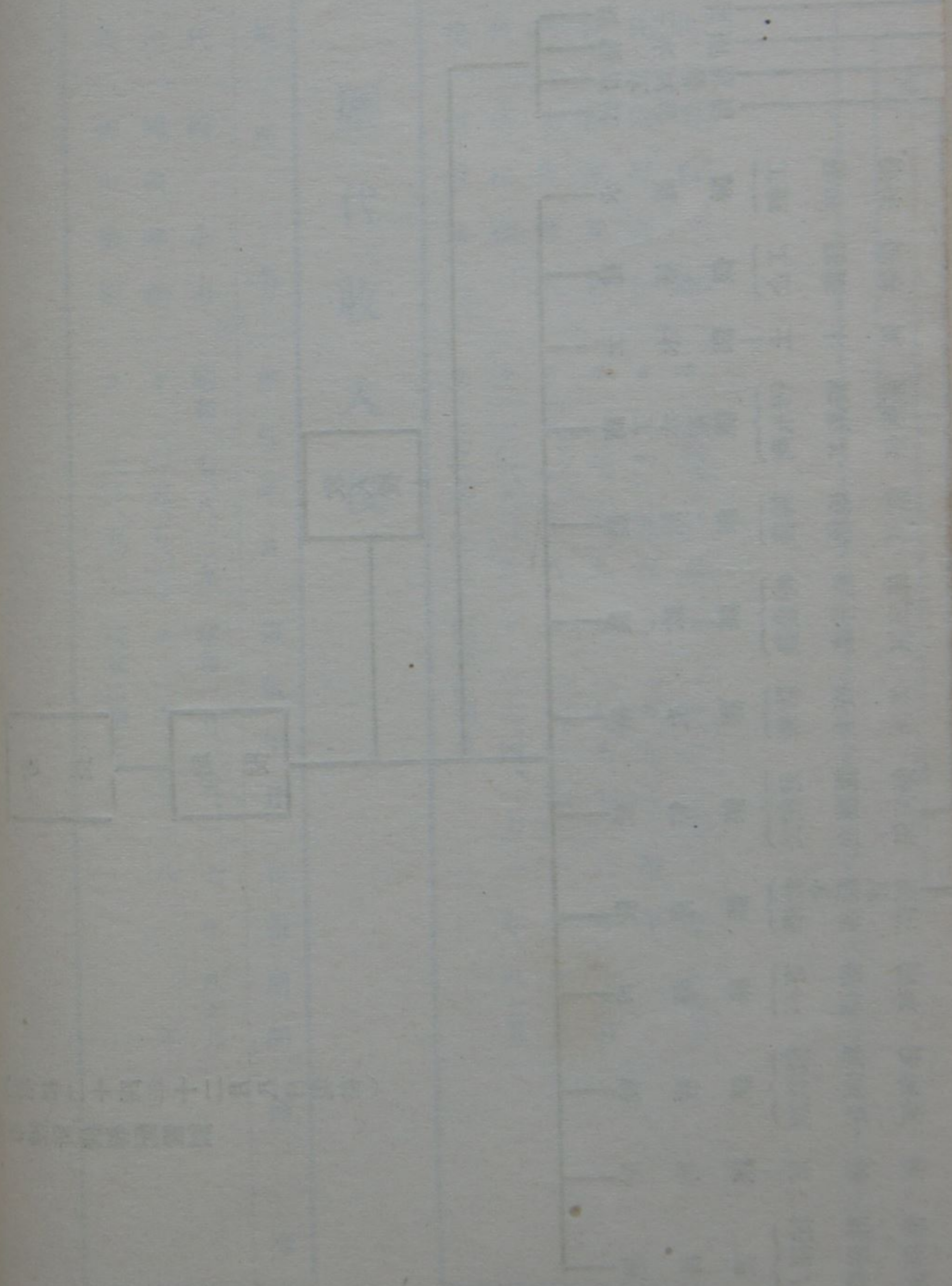


五、財

政

社會情報輸入輸出指數及分析表

社會情報輸入輸出指數及分析表



中華民國三十一年十月十日

各會計別歳入歳出豫算及び決算

會計別	昭和二二年度決算額		昭和二三年度決算見込額		昭和二四年度 豫算額
	歳入	歳出	歳入	歳出	
一般會計各種基金及 特別會計各種基金 特別會計公益質屋費	三三、三三三、〇〇一	三三、〇七六、四一九	七四、九五二、六三三	七〇、四三三、一三三	一一五、二四一、六〇七
特別會計上水道費	一、三三八、二四六	一、二四一、一四九	七、四六四、九四四	六、七〇七、七八三	一六、七二五、〇三〇
特別會計 救市製氷所費	二、九一九、六六一	一、八五五、二五二	一〇、七五五、九八三	八、三三六、九五二	七、六一一、二四四
一部會計橋區費	二	—	一、〇七一	五三五	五三六
特別會計社會館費	六二、四二二	六二、二〇七	—	—	—
特別會計郷土館費	六二、八八三	四五、一六五	—	—	—
計	二七、四六六、九三三	二六、〇〇九、四七〇	九三、四七五、一七五	八五、六八三、七六五	一五〇、八八四、二一六

備考 昭和二四年度豫算は追加第三回に依る。

一般會計内譯

(昭和二四年度) 追加豫算第三回に依る

歳入	歳出	
	科目別	豫算額
一、市	一、議 會 所 費	一、〇五七、五〇〇
二、公營企業及び財産收入	二、市 役 所 費	二二、六七四、二三六
三、分擔金及び負擔金	三、警 察 消 防 費	一一、八三三、〇九七
四、使用料及び手数料	四、土 木 費	八、九〇八、四〇六
五、國 庫 支 出 金	五、教 育 費	二六、〇六八、一六〇
六、縣 支 出 金	六、社 會 及 び 勞 働 施 設 費	三八、六四九、一三三
七、寄 付 金	七、保 健 衛 生 費	一、三七九、五四七
八、繰 入 金	八、産 業 經 濟 費	九、〇二五、五三三
九、繰 越 金	九、財 産 調 査 費	一、八九九、七七一
十、雜 收 入 金	十、統 計 費	三九一、〇〇〇
計	十一、選 舉 費	五五三、七三三
	十二、公 債 費	一、八六三、七七九
	十三、諸 支 出 金	一、三四九、五三五
	十四、豫 備 費	三〇〇、〇〇〇
	計	一一五、二四一、六〇七

六、教育及宗教

市公有地		市公共用地		基本財産		市有財産	
種別	坪數	種別	坪數	種別	坪數	種別	坪數
烟宅	四八、二四坪 四六、二反一五步	烟宅	四二坪	宅地	四二坪	現金	三五九、九四五 円
公園	二町三反七畝	田	一畝	田	一畝	證券	八三、八二〇 円
其他	二町六反四畝	畑	一〇五畝	畑	一〇五畝	貸付金	二二五、四五三 円
		山林	五四町二畝	山林	五四町二畝	土地	五、一九〇、坪九反 二町六反四畝 五六六町七反 一反七畝二五步 一反七畝二五步 三反一畝二七步 一町三反七畝
		雜種地	一町三反七畝	雜種地	一町三反七畝	建物	七、六三四坪
		原野	一畝	原野	一畝		
		田	一畝	田	一畝		
		山林	一畝	山林	一畝		
		小學基本財産		小學基本財産			

(昭和二四年)

(總括) 昭和四年三月三日

小學校

(昭和二十四年度)

四〇

學校名	教員數		學級數	兒童數	
	男	女		男	女
總數	四八	九三	一四一	二、九一〇	二、七三〇
明倫	一七	四三	六〇	一、四三二	一、三九〇
椿東	一一	一五	二六	五八九	五六七
越濱	五	〇	一五	二五四	二六〇
椿西	六	〇	一六	一八九	一九〇
白水	六	一三	一九	三八五	二八四
木間	三	二	五	六一	三九
計	一七	四三	六〇	一、一五六	一、一五六

中學校

(昭和二十四年度)

學校名	教員數		學級數	生徒數	
	男	女		男	女
總數	七〇	二二	九二	五九	一、三三〇
第一中學校	三二	一一	四三	二八	六七〇
第二中學校	一一	四	一六	一一	二六八
第五中學校	一五	四	一九	二二	二九八
越ヶ濱中學校	八	二	一〇	六	一一五
木間中學校	三	一	四	二	二九
計	七〇	二二	九二	五九	一、三三〇

高等學校

(昭和二十三年度)

學校名	設立別	教員數	學級數	生徒數
萩南高等學校	縣立	二七	一五	五二七
萩女子學園	財團法人萩婦人會立	二〇	一二	三九二
萩商工高等學校	縣立	二五	一三	三七五
萩北高等學校	縣立	二〇	一七	五二五

四一

圖書館

(昭和二十三年度)

四二

館名	設立別	圖書冊數	閱覽冊數	閱覽人員
山口縣立萩圖書館	縣立	五一、六〇九	五一、四〇七	四五、九四四
萩市立圖書館	市立	一二、八一〇	五四、〇二七	四二、七五八

公民館

種別	延坪數	主要施設	竣工豫定
本館	三九一坪	ホール、携帶品預り所、事務室、第一、二、三集會室、小講堂、日本間、科學博物館、科學實驗室、開放研究室、商品陳列室、郷土資料室、ギャラリー、放送室、控室、宿直室、炊事室	昭和二五、一〇
講堂	二六三坪	固定椅子席七〇〇、標準映寫設備、演劇設備	昭和二五、六
圖書室	三五五坪	一般閱覽室、兒童閱覽室、新聞閱覽室、喫茶室、カタログ室、事務室	昭和二五、一二
青年宿舍	一一二坪	大宿泊室二、小宿泊室二、炊事室、洗面所、事務室	昭和二五、一二
兒童公園	七〇〇坪	綠地、樹木、藤棚、花壇、池、噴水、動物飼育舍、運動用具、ベンチ、水呑場	昭和二五、三

市公學費收入支出

(昭和二十二年度)

種別	豫算額	決算額
教育費	八九二、六三三四	八六五、二七五四
小學校費	四七九、一五八	四七五、二六七
青年學校費	二五、九五四	二五、九五四
圖書館費	一〇九、九四〇	一〇七、七四六
教育獎勵費	一九、四〇〇	一九、四〇〇
社會教育費	二八、〇〇〇	二四、五七一
中學校費	二三〇、一八一	二一二、三三七

青年團及婦人會

(昭和二十三年)

青年團	會員數	婦人會	會員數
團體數	三六	團體數	一〇
會員數	九五六	會員數	七、二九八

四三

天 台 宗	神 道 大 教	生 長 の 家	天 理 教	金 光 教	基 督 教	種 別
						社
						數
二	一	一	九	二	二	種 別
扶 桑 教	御 嶽 教	高 野 山 大 師 教	眞 宗	身 延 會	眞 言 宗	種 別
						社
						數
一	一	一	一	一	二	種 別
合 計			光 の 道	日 蓮 宗	淨 土 宗	種 別
						社
						數
二 八			一	二	一	

宗 教 結 社

(昭二五、一、三一、現在)

曹 洞 宗	臨 濟 宗	淨 土 宗	眞 言 宗	總 數	種 別
					院
					數
六	六	一 二	二 五	六 六	種 別
法 華 宗	日 蓮 宗	眞 言 宗	黃 檗 宗	天 台 宗	種 別
					院
					數
					數
三	一	八	三	二	

寺 院

昭 和 二 十 四 年	年 別	社 數	神 職 數
		二 六	
			二 三

神 社

七、民

生

保護施設

名	稱	收容定員	現在人員	事業内容
萩社会館縫製部		二五	一八	ミシン、裁縫、授産
竹工部		一五	四	竹工、授産
小萩人形部		六五	六四	小萩人形、授産
萩啓生寮		一五	一二	養老、不具癱疾者收容
双葉寮		五七	五一	宿所
川島寮		三四	三七	
堀内寮		三〇	三四	
母子寮		三二	二四	母子收容施設

生活保護法による扶助状況

(昭和二十四年十二月三十一日現在)

種別	現			在		
	世帯數	人員	金額	實世帯數	延人員	支出總金額
生活扶助	四一五	一、二一三	五八、〇、〇〇〇 円	四八六	三〇、五、五八〇	四、一九八、一九五、〇〇
醫療扶助	六二	六五	一〇一、八、四四四 円	一八〇	一三、七、六〇〇	一、八、六、六、一〇六、五〇
助産扶助						五五〇、〇〇
生業扶助						
葬祭扶助	三	三	三、九〇〇	一五	一五	一九、二〇〇、〇〇
計	四八〇	一、二二一	七六、六、三四八 円	六八二	三二、九、三五六	六、〇、八、四、〇五一、五〇

要保護者

(昭和二十四年十二月三十一日現在)

五〇

種別	保護実施中のもの		事故に遭へば保護を要するもの	
	世帯数	人員	世帯数	人員
戦災者	一七	四三	三	六
外地引揚者	一〇〇	二四二	七	二〇
離職者				
復員者				
軍人遺族	一二九	四二三	一〇	二五
傷痍者	七	二九		
その他	二二七	五四四	三〇	七五
計	四八〇	一、二八一	五〇	一二六

市営住宅

(昭和二十四年十二月末現在)

名	稱	建物總坪數	住宅戸數	一ケ年間住宅家賃
今古款A號	庶民住宅	一〇〇坪	一〇戸	六〇、〇〇〇円
江向B號	住宅	一〇〇坪	一〇戸	六〇、〇〇〇円
熊谷町C號	住宅	一〇〇坪	一〇戸	二四、〇〇〇円
庶民住宅	松本莊	一二〇坪	一二戸	四〇、三二〇円
〃	梅月莊	一〇〇坪	一〇戸	三三、六〇〇円
江向	竹風莊	八〇坪	八戸	二六、八八〇円
萩母	子寮	一二二・五坪	一六戸	堀内に建築中三月末竣工の豫定
引揚者	定着住宅	一二〇坪	二〇戸	堀内に建築中三月末竣工の豫定

年度別	農 業	水 産 業	工 業	商 業	其 の 他	計
昭和二十一年度	124,000円 三八件	20,000円 一三件	750,000円 八六件	1,001,000円 一七七件	195,000円 三三件	2,110,000円 三三七件
昭和二十二年	43,000円 七件	210,000円 一三件	535,000円 三三件	135,000円 三三件	110,000円 二二件	1,221,000円 九三件
昭和二十三年	21,000円 三三件	23,000円 三三件	120,000円 一〇件	—	—	364,000円 一六件
昭和二十四年 十二月末現在	26,000円 七件	15,000円 一件	130,000円 九件	200,000円 五件	20,000円 四件	371,000円 二六件

庶民金庫貸付状況

産業別	求人		就職者		就職者	
	男	女	男	女	男	女
計	1,965	1,338	1,666	796	449	306
公共事業	39	29	39	29	39	29
その他の産業	413	859	—	45	27	44
家事業務	1	3	—	—	—	—
公 務	170	92	186	170	—	—
自由業	6	5	10	6	—	—
運輸通信業	138	6	184	77	36	—
商 業	61	38	191	155	—	—
工 業	638	297	1,144	462	293	177
鑛 業	493	—	542	—	293	—
水 産 業	—	—	236	—	—	—
農 業	16	—	43	34	—	—

産業別職業紹介状況

(自昭和二三、四
至〃二四、三)

保 育 園

(其の一)

(昭和二十三年度)

五四

園 名	保 姆	園 児		計 數
		男	女	
住の江保育園	五	六五	七五	一四〇
萩社會館保育園	三	六六	五四	一二〇
日の丸保育園	六	一〇一	八九	一九〇
萩女子學園附屬保育園	二	二五	五〇	七五

(昭和二十四年十二月末現在)

園 名	保 姆	園 児		計 數
		男	女	
住の江保育園	四	四五	七三	一一八
萩社會館保育園	三	四一	三九	八〇
日の丸保育園	六	六三	六四	一二七
萩女子學園附屬保育園	三	四〇	二四	六四

保 育 園

(其の二)

(昭和二十三年度)

園 名	當 初 入 園 者		保 育 満 期 者		計
	男	女	男	女	
住の江保育園	八六	八四	三九	三七	七六
萩社會館保育園	四二	四四	三四	三〇	六四
日の丸保育園	六四	六五	四七	三九	八六
萩女子學園附屬保育園	一五	三五	一三	二三	三六

(昭和二十四年度)

園 名	當 初 入 園 者		保 育 満 期 者		計
	男	女	男	女	
住の江保育園	六六	七四	二八	四六	七四
萩社會館保育園	四〇	四三	二四	二二	四六
日の丸保育園	九二	八五	四八	四二	九〇
萩女子學園附屬保育園	三九	二八	二七	一四	四一

五五

計	事項	擔任委員	民生委員協議會名					委員數		民生常務委員名
			定員	現員	在	在	在	在	在	
	萩南	民生委員會	一	一	一	中	村	教	介	
	萩北	民生委員會	一	一	一	難	波	俊	道	
	萩椿東	民生委員會	一	一	一	石	川	清	治	
	萩椿民	民生委員會	四	四	四	神	崎	高	義	
	萩山田	民生委員會	九	九	九	岩	本	豐	介	
五九			五	五	五					

民生委員協議會別

民生委員
兒童委員

(昭和二十四年十二月三十一日現在)

瓦	北	城	堀	堀	平	平	江	河	江	唐	橋	土	土	川	川
塩屋町・細工町	古	東	東	内	安	安	向	向	向	樋	本	原	原	島	島
一區	一區	北區	中區	二區	西區	東區	四區	一區	一區	一區	一區	三區	二區	三區	一區
飯田	秋田	阿武	上野	一倉	杉山	林上	井上	阿部	石原	金子	中山	小倉	原部	阿部	西山
克巳	本定	雪童	義清	テル	愛子	綱一	英男	榮一	玄助	伊勢	熊介	三造	榮曉	省作	種吾
前小畑	鶴川	新川	新川	無田	中ノ	椎ノ	上ノ	中ノ	東濱	濱崎	濱崎	濱崎	熊谷	吉田	上田
一區	江區	區	區	原	倉	原	野	江	區	區	區	區	町	町	町
吉賀	村木	山中	石川	堅多	坂安	武田	篠谷	三原	宮津	中津	中村	萬屋	上田	佐藤	藤井
カネ	勘三郎	カネ	清治	直式	幹子	ヨシ	研山	秀一	江功	房政	芳郎	雪雄	政子	清人	俊道
倉	玉江	玉江	玉江	玉江	玉山	山西	東木	雜木	濁式	大	沖	越ケ	越ケ	越ケ	後小
江區	區	區	區	區	區	區	間	間	町	淵	屋	原	區	區	區
山下	萬屋	岩本	小川	岸島	來田	原島	山崎	長崎	神邊	渡邊	吉岡	荒地	榎本	末武	藤川
五郎	三郎	豐介	義一	剛宏	巖一	爲勘	節男	高義	筆亮	東作	久子	千代	久子	泰賢	恒久

民生委員

(昭和二十五年一月末現在)

八、保健、衛生

年令別	肺結核		其の他の結核		計
	男	女	男	女	
十五才以下	四八	三〇	一五	一六	八九
十六才—二十五才	三六	一六	二	一	五三
二十六才—三〇才	一〇	七	一	一	一九
三一才—三五才	八	二	—	—	一〇
三六才—四〇才	六	五	—	—	一一
四一才—四五才	三	四	—	—	七
四六才—五〇才	三	二	—	—	五
五一才—六〇才	五	三	—	—	八
六一才—七〇才	三	一	—	—	四
七一才以上	一	—	—	—	一
不詳	—	—	—	—	—
總數	四八	三〇	一五	一六	八九

結核死亡年令別

(昭和二十四年)

年度別	昭和二十二年		昭和二十三年		昭和二十四年	
	死亡	發生	死亡	發生	死亡	發生
別種						
ラレコ	—	—	—	—	—	—
痢赤	二	八	—	三	—	五
腸チブス	—	七	—	七	—	〇
瘡痘	—	—	—	—	—	—
熱紅猖	—	—	—	—	—	—
アテヂリフ	—	七	—	—	—	〇
スチパブラ	—	—	—	—	—	—
トスベ	—	—	—	—	—	—
日本脳炎	—	—	—	—	—	三
發疹チブス	—	四	—	九	—	—
流行性脳脊髄膜炎	—	—	—	—	—	—
計	四	四八	—	三二	—	二八

法定傳染病患者

醫師	三九
齒科醫師	一六
獸醫	三
藥劑師	一五
眼科	一
鍼灸	一二
整骨	二
計	八八

醫師藥劑師

(昭和二十四年十二月末現在)

九、產

業

種痘成績

年 度 別	善 感 者	不 善 感 者	檢 診 未 了	計	未 種 痘
昭和二十四年度	六、三六六	二五、〇六二	四〇四	三一、八三二	九、六八三
昭和二十三年度	一、三四四	一、一一〇	二	二、四五六	二七〇
昭和二十二年度	一、五〇五	七六九	五	二、二七九	三一八

市營火葬場

(昭和二十三年度)

坪 數	火 葬 數	同 料 金	保 管 料
四七、七五坪	五〇七件	二〇八、二〇二円	四

汚物掃除

年 度 別	塵 埃		汚 泥	
	使用延人員	搬 出 量	使用延人員	搬 出 量
昭和二十四年度	一、六四六人	一、九三四 _担	一八四人	九五〇 _担
昭和二十三年度	一、三〇〇	三、八一〇	二〇〇	七四〇

耕地面積

(昭和二十四年三月一日農地調査)

區	域	耕地面積	
		田	畑
總	山 椿 椿 舊	五、七二二 六六五 一、九七七 一、二八一 一、七九九	四、六七七 一、六〇五 一、四九六 八八六 六九〇
田	東 萩 數	二、四八七 一、四七三 二、一六七 二、四八九	一〇、三九九 二、二七〇 三、四七三
計			

農家戶數

(昭和二十四、三、一現在農地調査)

地域別	自作農	自作兼小作農	小作兼自作農	小作農	計
總	一、九三七	三二八	一四六	一六六	二、五七七
山	七二二	五二	四四	八三	九五一
椿	六六一	一一七	四三	五一	八七二
椿	二二四	七五	三六	一八	三五三
舊	二八〇	八四	二三	一四	四〇一
田					
東 萩 數					

農家人口

(二二、八、一現在)

區	域	農家人口	常 住		內農業従事者數
			男	女	
總	山 椿 椿 舊	九、三四五	四、四九〇	四、八五五	四、七三一
山	東 萩 數	二、四九九	一、一六四	一、三三五	一、一一一
椿		三、〇三七	一、四七〇	一、五六七	一、五四七
椿		一、八八四	九〇一	九八三	一、〇四九
舊		一、九二五	九五五	九七〇	一、〇二四
田					

牛

(二四、二、一現在)

區	域	飼養者數	飼 養		乳 用 種
			數	頭	
總	山 椿 椿 舊	六六四	七八四	七五六	二八
山	東 萩 數	四四	五三	四六	七
椿		二三八	二七八	二六六	一一
椿		一七七	二〇六	一九九	二
舊		二〇四	二四七	二四五	二
田					

馬、豚、山羊

(昭和二四、二、一現在)

六六

區域	馬		豚		山羊	
	飼養者數	飼養頭數	飼養者數	飼養頭數	飼養者數	飼養頭數
總	七二	八三	三五	五〇	六八	一〇一
舊	二〇	二五	一五	二三	二六	四四
椿	三三	三九	九九	一五	二二	三〇
椿	六	六	九	〇	九	一
山	一三	一三	二	二	一	一六
田						

農機具

(昭和二四、一五、現在)

區域	電動機		石油發動機		動力		農業	
	台	反	台	反	台	反	台	反
總	二五四	二〇	五七	八二	二四四	三〇八	五三	三七〇
舊	二一	二〇	四	五	二〇	七四	八	一四九
椿	六四	六四	一八	六一	六二	六八	一	二六〇
椿	一〇一	一〇一	九	三	九〇	七五	二	七八七
山	六八	六八	二六	二五	七二	七四	一	一四九
田								

現在の農家經營廣狹別田畑面積

(二四、三、一現在)

反未滿	田		畑		計
	自作地	小作地	自作地	小作地	
一反以上—三反未滿	二〇八	四	三〇八	三八	三七〇
三反以上—五反未滿	四七六	一八〇	七八五	七四	一、一四九
五反以上—一町未滿	一、八八六	六一五	一、二一一	六八	三、七八七
一町以上—一町五反未滿	一、四八九	二五八	一、〇三八	七五	二、八一七
一町五反以上—二町未滿	四〇六	三七	四〇三	三二	八六五
二町以上—三町未滿	五六	五	八六	一九	一五一
三町以上—五町未滿				四	
五町以上					
計	四、五四一	一、一八一	四、三六七	三一〇	一〇、三九九

六七

普通作物

(穀菽)

(昭和二十三年)

種別	面積	積	生産量
米	五、三九五 ^反	九、六四七 ^石	二、〇一三
麥	二、五四六	三、〇一三	四二
大豆	四、四五	四二	一〇
小豆	八	一〇	三
合計	八、〇一六	一、〇二	一二、七二九

園藝作物

(蔬菜)

(昭和二十三年)

種別	面積	積	生産量
甘藷	二、七七七 ^反	八〇、二八二 ^貫	二二、七五〇 ^貫
馬鈴薯	九六	二八、二〇七	一一五、〇〇〇
里芋	一五	四、〇五〇	一一、二七〇
結球白菜	三〇	九、一〇〇	一、三二四
非結球白菜	四一	二、三、四〇四	一七、九〇八
なす	一四	七、七三四	一一、〇五二
合計	一、二二三	一、二二三	二、四一八

園藝作物

(果樹)

(昭和二十三年)

種別	面積	積	生産量
春播甘藷	九〇	三、五〇〇	二、四〇四
蓮根	三六	一、六〇〇	五、四〇〇
胡瓜	四	一、八五〇	九六〇
白瓜	一六〇	六〇、一〇〇	二、四一八
西南瓜	二〇	二七、〇二〇	二、四一八
西瓜	六〇	二七、〇二〇	二、四一八
葱	二〇	二七、〇二〇	二、四一八
合計	一、二二三	一、二二三	二、四一八

種別	集團面積	散在樹數	生産量
みかん	四 ^反	三三四 ^本	一、三八、四〇〇 ^貫
ぶどう	三	二、三五〇 ^貫	七五〇
梨	四	一、九五〇	一、三〇〇
蘋果	一	四〇〇	三五〇
ネーデル	一	九〇〇	一一、九〇〇
栗	一	二〇〇	九〇〇
ハゼ	一	七三〇	一、三四九、三八〇
梅	一	五三〇	一、三四九、三八〇
合計	三、八六三	三、三六九	一、三四九、三八〇

農産加工品

(昭和二十三年)

品名	生産數量	價格	品名	生産數量	價格
甘藷切干	三六八 <small>貫</small>	三三、一二〇 <small>円</small>	澤庵漬	一四、三〇〇 <small>貫</small>	一、五七九、〇〇〇 <small>円</small>
梅干	五、〇〇〇	四三四、三四二	合計	一九、六六八	二、〇四六、四六二

藁工品

(昭和二十三年)

品名	生産數量	價格	品名	生産數量	價格
吹(カマス)	四、七〇〇 <small>枚</small>	二三五、〇〇〇 <small>円</small>	俵(タワラ)	六、四三四 <small>枚</small>	三六八、〇四〇 <small>円</small>
繩(ナワ)	三二、〇〇〇 <small>貫</small>	一、九二〇、〇〇〇	其他	—	五八三、〇〇〇
苴(ムシロ)	三、九四四 <small>枚</small>	二七六、〇〇〇	合計	—	三、三八二、〇四〇

飼料作物

綠肥用作物

(昭和二十三年)

品名	面積	收穫量	品名	面積	收穫量
レング	三五 <small>反</small>	二一、八〇〇 <small>貫</small>	青刈大豆	二五〇 <small>反</small>	一六七、四五〇 <small>貫</small>
其他	—	三五〇	其他	—	八〇〇
合計	三五	二二、一五〇	合計	二五四	一六九、六五〇

主要農産物生産量

(昭和二十三年)

區域	米		麥		甘藷		馬鈴薯	
	作付面積	收穫量	作付面積	收穫量	作付面積	收穫量	作付面積	收穫量
總數	五、三九五 <small>反</small>	九、六四七 <small>石</small>	二、五四六 <small>反</small>	三、〇一三 <small>石</small>	二七七 <small>反</small>	八〇、二八三 <small>貫</small>	九六 <small>反</small>	二八、二〇七 <small>貫</small>
舊萩	四九二	一、〇一四	二九七	三六八	五四	一五、二七六	一五	四、四〇五
椿東	一、九六〇	三、六一九	八四八	九三七	一五一	四四、九九七	二七	八、四五七
椿	一、二六九	二、三五四	七六	九四九	二三	六、二八七	二五	八、〇九一
山田	一、六七四	二、六六〇	七三五	七五九	四九	一三、七三三	二九	七、二五四

公私有林野面積

(昭和二十四、一、一現在)

都道府縣有	市町村有	部落有	社寺有	其他の団体有	個人有	計
一九六 <small>町</small>	八三二 <small>町</small>	—	二四 <small>町</small>	三五九 <small>町</small>	一、四九八 <small>町</small>	二、九〇九 <small>町</small>

造林用苗木

(山行に供したるもの)

年次	苗圃面積	スギ	ヒノキ	マツ	クヌギ	その他	計
昭和二十三年	九〇〇 ^坪	二、九〇〇 ^本	—	—	—	—	二、九〇〇 ^本
昭和二十二年	九〇〇	三〇、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	—	—	四〇、〇〇〇 ^本

森林伐採

年次	用材		薪炭材		竹材		合價格
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	
昭和二十三年	一三、九四三 ^石	一、五四六、三八九 ^円	七、七八一 ^捆	六六五、四四〇 ^円	六、一一六 ^束	一〇一、一七二 ^円	一、三三三、〇〇一 ^円
昭和二十二年	二二、五二七	一、四二九、六三七	九、二三四	二、八八〇、一〇〇	一一、一〇〇	一〇六、二二〇	四、四二六、〇一七 ^円

畜産物

年次	生		産		鶏卵販賣數量
	役肉用牛	乳用牛	山頭	羊	
昭和二十三年	四二 ^頭	—	九	一八 ^頭	九〇二 ^貫
昭和二十二年	一四一	—	—	三	一、一一一

屠殺

年次	牛	犢	馬	豚	計
昭和二十三年	八一 ^頭	一五 ^頭	二〇 ^頭	一六 ^頭	一三二 ^頭
二十二年	八二	二	〇	二	一〇六
二十一年	四六	五	二〇	三	七四
二十〇年	七五	四八	一三	四	一四〇

主要食糧供出割當並実績

種類	昭和二十二年			昭和二十三年			昭和二十四年		
	割當量	供出量	割當に對する実績比率	割當量	供出量	割當に對する実績比率	割當量	供出量	割當に對する実績比率
米	一五、八八六俵	一五、八八六俵	100%	二二、二五五俵	二二、二二七俵	100.13%	二二、九〇〇俵	二二、九〇〇俵	100%
麥	三、二六四俵	三、三八三俵	103.64%	三、四二四俵	三、四二五俵	100.33%	二、七三三俵	二、七四八俵	100.55%
甘藷	三八、〇〇四メ	三三、四五三メ	85.54%	二四、八二八メ	三〇、八八六メ	124.50%	一八、三六一メ	二一、三六一メ	116.48%
馬鈴薯	九、七一〇メ	一三、八八八メ	139.75%	一七、〇七二メ	一七、八七三メ	104.74%	一三、〇一七メ	一三、〇一七メ	100.04%

萩市農業調整委員

會長	來島市 槌	副會長	林 敏行	
增山時政、	柴田定行、	河村忠一、	宮崎辰一、	山根幸槌、
厚東晴二、	田村謙一、	大谷正路、	磯部與吉、	岡 米治、
堅田直弼、	藤原眞一、	高本光一、	幸坂和一、	山田秀助、
野上郷助、	中村克己、	伊藤岩次郎、	藤田英夫、	伊藤作一、
西村益一				

七四

萩市に於ける夏橙栽培の歴史

夏橙は横野柿、岸根栗と共に山口縣原産の果樹で、その原樹は大津郡仙崎町大日比に現存し、昭和二年史蹟及天然記念物として指定せられた。原樹は地上三尺位に於て樹幹二本に分れ、樹高は約十八尺、枝張四坪に及んでゐる。

その起源は安永の初大日比の海岸に珍果一個漂着したものを、同時西本氏の祖先チヨウなる者が之を拾ひ、種子を蒔き付けたものが發芽生育したものと云はれる。

萩市の夏橙の起源は詳でないが、文化の初、江向の檜崎十郎兵衛氏が大日比の知人から夏橙の果實を贈られ、その種子を播いて一樹を得たのに起因すると云ひ、又一説には天保四年江向の杉彦右衛門氏が大日比に旅行した際實生苗二本を求めて歸り、一本を自家の庭に、一本を堀内の兒玉總衛氏に栽植せしめたのに起因するものと云はれる。

爾後十五年を経て嘉永元年に至つて初めて結果したが當時はその採收期を知らず唯果汁を搾り柚に代用した程度であつたと云はれる。

後安政四年兒玉氏の嗣子正介氏が夏期に前年の果實が樹上に残存してゐたものを採つて食し初めて其の味の良好な事を知り、藩主毛利敬親卿に獻じた。卿は深く之を賞しその繁殖を奨励されたと傳へられる。夏橙の生果用に供せられる様になつた動機については色々な説が唱へられる。

即ちその一は明治初年迄は夏橙樹は市内の此處彼處に一―二本散在してゐた程度で夏橙も普通柑橘と同様冬期に熟するものと考へられて居り、その時期に酸味強く食するに堪えぬ爲に化物と稱し玩弄物とし又賞觀の爲に庭園に栽培する者があつた程度であつたが、明治の初年偶々果實の夏期迄樹上に残つてゐたものを食し、初めてその味を知り爾後漸次食用に供せられる様になつたと云ひ、又一説には或古書に長門國萩に夏橙たるものあり、夏期に熟するとあつたが誰も夏橙なるものを知らなかつた或人が化物と稱せられるものが夏橙ではないかと考へ夏期迄結果の儘樹上に放置しておき試食した時味良好な爲初めて之が夏橙である事が判り一般の注意を引く様になつたと云はれる。夏橙の價値が認

七五

められてからは漸次夏橙を栽培する者が増加し明治六―七年頃からは、その栽培は特に増加を示して来たると云はれる。栽植が増加するに従ひ一時は穂木を求める者が多い爲に穂木を容易に分與せぬ様になつたとなつたと云はれる。即ち松田正一氏によると椿郷東分村小畑の厚東敬三氏は明治四年穂木一本なつたので穂木を得る爲には高價な代金を支拂の代金藩札五分の割合で十數本の穂木を購ひ、その接木を同氏に依頼した事があつたと云ふ。

明治十三年頃から一般世人も夏橙の風味を解する様になり従つて需要も多く一般に夏橙と云ふ名稱で賣り出す様になり、明治二十年代になつてその栽培は甚だ盛となり、萩市のみでなく附近町村にも増殖が見られ、明治二十五年頃から三十一年頃には阿武郡内のみで産額三十萬圓以上に達したと云はれる。其の他阿武郡内のみでなく大津郡其の他縣下各地にも夏橙の栽培は漸次増加し、一方縣外に對しても苗木の移出が行はれる様になり、遂に全國に傳播栽植される様になつた。



2 水 産

漁 船

年 次	總 數	無 動 力			有 動 力			計
		五屯未満	一〇屯未満	計	五屯未満	一〇屯未満	三〇屯未満	
昭和二十四年	八四五	四四四	三	四四七	二八一	二七	六	三九八
〃 二十三年	七七六	四〇七	三	四一〇	二二〇	一	八四	三五九
〃 二十二年	六四七	四〇七	一	四〇八	一八〇	七	四五	二二二

專業、兼業別經營形態經營体數

(昭和二三、八、一現在)

種 別	總 數	世帯經營	網元、船元を中心とする協同經營		共同經營	漁業經營	會社經營
			一	三			
總 數	三九三	三七八	一	三	二		
專 業	三二八	三一四	一	三	一		
第一種兼業	二二	二二					
第二種兼業	四三	四二					

專業、兼業別漁業種類別經營體數

(三三、八、一現在)

種別	總數		定置漁業	揚繰網漁業	其 網の 他の 漁業	内水面漁業	淺海養殖業
	總數	兼業					
總數	三九二	三二八					
第一種兼業	二二	二二					
第二種兼業	四三	四三					
其他の漁業	一八	一五					
其の他 の 漁業	三六八	三〇六					
海面の 漁業	四〇	二二					
敷網類 漁業							
網機 船底 業							
計	七	七					

漁業種類別漁業經營構造

(昭和二三、八、一現在)

種別	經營體數	從事者數		計	漁船數		計
		基本的 從事者	附隨的 從事者		有動力船	無動力船 五屯以上 五屯未満	
總數	三九三	八五六	一六一	一〇一七	一五七	三八〇	四二二
機船底曳網漁業	七	一〇五	六	一一一	一四	一	一四
その他の曳網漁業	一六	一八一	一	一八一	一八	一	一九
流刺網類漁業	一	一	二	三	一	一	二
カツラマゲロ漁業	一	四	三	七	一	一	二
その他の海面漁業	三六八	五六五	一五〇	七一五	一二四	三七五	三七五
計							

水産生産總覽

年次	總數	漁獲物	水産製造物	水産養殖
昭和二十四年	一、七八二、三二七	三、一九二、九一〇	一一二、二八一	
二十三年	一、〇四三、八九一	一、六七〇、〇四六	五一、八四一	
二十二年		九九二、〇五〇		

沿岸漁業種類別漁獲數量

年次	總數	海 面 漁 業										計
		定置網類漁業	旋網漁業	敷網漁業	曳網漁業	刺網漁業	網漁業	一本釣業	延繩漁業	海面漁業	其他の海面漁業	
昭和二十四年	三・九二九・九〇 <small>貫</small>	二二六、三三四 <small>貫</small>	八、七七五 <small>貫</small>	二五二、二七三 <small>貫</small>	一九〇、三五三 <small>貫</small>	一三、四四一 <small>貫</small>	— <small>貫</small>	一六八、三九四 <small>貫</small>	三一〇、六二一 <small>貫</small>	三三三、八三九 <small>貫</small>	— <small>貫</small>	四、五〇〇 <small>貫</small>
昭和二十三年	二・六七〇、〇四六	—	—	三四、七七七	九六五、三七七	一、五一一	一〇一、八四一	二七二、九三八	五二、六二八	—	—	五、一六八
昭和二十二年	九九二、〇五〇	一三、〇四〇	—	七、〇四六	三二九、八〇八	九三五	五〇七、二七四	二五、一七八	一〇三、二四〇	九、七五一	—	五、七八八

年次	總數	海 面 漁 業										計
		イワシ	サバ	フカ	タイ	其他	計	貝類	水産動物	藻類	計	
昭和二十四年	三・九二九・九〇 <small>貫</small>	六六五、三三八 <small>貫</small>	一一二、一〇四 <small>貫</small>	二六一、二七八 <small>貫</small>	二八七、二七三 <small>貫</small>	一六二、七八二 <small>貫</small>	二九七、八四三 <small>貫</small>	六、八三二 <small>貫</small>	二六二、六二三 <small>貫</small>	五、六一三 <small>貫</small>	— <small>貫</small>	二七五、〇六七 <small>貫</small>
昭和二十三年	二・六七〇、〇四六	二二六、一四四	三二、四三三	一六四、七四九	九三、七二四	一〇二、五三三	二一五、一五六	二、九二七	一一〇、七二九	四、八二九	—	一三八、四八五
昭和二十二年	九九二、〇五〇	一一一、九三七	一六、一六九	八〇、一一四	四〇〇、八八一	六七三、六三五	九三三、七三六	一、五四三	五三、五〇〇	四、二七三	—	五九、三二四

水産業經營者及水産業被傭勞働世帯

専業	兼業	及業	態別	世帯					計						
				合計	會社	團體	其他	經營							
専業	經營	漁業のみを行ふもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	營體	水産増殖のみを行ふもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
兼業	漁業	漁業を主とし水産加工を従として行ふもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	賃労働者	漁業と増殖を行ふもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	船乗労働者	水産加工を主とし漁業を従として行ふもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
専業兼業及業態別	漁業に傭はるゝもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	水産増殖に傭はるゝもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	水産加工に傭はるゝもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

専業	兼業	及業	態別	合計	會社	團體	其他	經營	計
—	—	—	—	五二〇	—	—	—	—	—
—	—	—	—	一八	—	—	—	—	—
—	—	—	—	三〇八	—	—	—	—	—
—	—	—	—	二	—	—	—	—	—
—	—	—	—	一九	—	—	—	—	—
—	—	—	—	一	—	—	—	—	—
—	—	—	—	三	—	—	—	—	—
—	—	—	—	五二三	—	—	—	—	—

漁業に従事せざる網元、船元等

合計

八七二

三

八七五

水産製造物

年次	總數	素乾	塩乾	煮乾	塩藏	雜類	肥料
昭和二十三年	一一二、二八一	二、八一五	六、六五九	五五、四九八	二四、四八三	二〇、四七五	二、三五一
昭和二十二年	五二、八四二	七、一五	八、六六七	三四、〇三四	一九九三	八三八	一九四

製氷

(販賣高)

月別	總數		漁船用		陸上用		市内其他	
	屯數	價格	屯數	價格	屯數	價格	屯數	價格
總	一一、二五九	二、二二、五七六	一〇、五三〇	一、二五八、七三一	一一三	二八、〇六五	六二六	六七三、七八〇
一	五〇四	三〇六、〇五八	四九四	二九八、三三八	二	三、〇二五	八	四、六九五
二	六一〇	三三七、六〇〇	五九九	三三九、一六	二	二、九六四	九	五、五二〇

月	屯數	價格	屯數	價格	屯數	價格	屯數	價格
三	七六九	四三七、七〇二	七五四	四二六、八五三	三	三、五〇九	一一	七、五〇
四	九〇五	五二〇、一五一	八六八	四九一、〇三三	九	一一、一四三	二八	一七、〇八五
五	一、〇六五	七七一、〇七五	一、〇一〇	七一、四一八	一一	一五、四三三	四〇	二四、一六一
六	九五一	六八三、八〇三	八七七	六二〇、四一三	一一	一七、五一一	六三	四五、八七九
七	五四六	七〇四、一五九	四一六	五二八、七七四	一六	四三、五六七	二四	一四一、八一八
八	六九五	九一八、三五四	四八一	六〇七、三三七	三三	七〇、〇七一	一九	二二、七、九五六
九	一、四三九	二、〇八四、二九二	一、三五七	一、九六六、七八二	九	二六、八九七	七三	九〇、六一三
十	一、六〇七	二、三三〇、三八〇	一、五六二	二、二五三、四八九	一一	三六、三五八	三三	四一、五三三
十一	一、二二八	一、七九四、八一三	一、一八八	一、七四二、六五〇	八	二四、八六三	三三	二七、三〇一
十二	九五〇	一、三四、〇八九	九二〇	一、二八三、四八五	七	二一、七二五	二二	二八、八七九

鮮魚配給狀況

(昭和二十三年)

月別	總配給數量	家庭用	加工用	大口用	業務用	其他
總	五二五、七四四 <small>貫</small>	一六六、〇一〇 <small>貫</small>	三三八、二二三 <small>貫</small>	五、八四八 <small>貫</small>	六、二〇三 <small>貫</small>	三九、三四二 <small>貫</small>
一	二一、六七三	二、二五二	一一、二三五	三、二九三	五三九	三、三五四
二	三三、五六二	八、七二〇	一六、三四六	二、三四四	五九七	五、五六五
三	三五、三三七	一一、九八八	一七、四五八	六三	五六二	五、二六七
四	六〇、一〇四	一八、一八九	三七、一七三	一	五二五	四、二六
五	五〇、五〇七	一三、八八二	三三、一八三	四	五八三	二、八五五
六	四六、四二〇	一四、二五四	二六、八五八	一	五六〇	四、七四七
七	八七、七五七	一三、〇一〇	七、五五三	一	四九二	三、六九二
八	二六、九七六	六、〇六三	一八、九七六	一	四〇八	一、五二九
九	二五、五八四	八、七二〇	一四、〇五二	二	四七六	二、三三五
十	四五、六六〇	一〇、七〇八	三、四一八	二九	五二六	九八九
十一	四二、〇四八	八、三三六	三〇、九〇三	一〇〇	四九七	二、三三三
十二	四〇、〇九八	一〇、〇八九	二七、〇七九	一〇	四四九	二、四七二

鮮魚介家庭配給狀況

(昭和二十三年)

月別	總	登錄人口	一人當一ヶ月配給量	一人當一日配給量	一世帶當一日配給量
總	一二六、〇二〇 <small>貫</small>	四一、九二九 <small>人</small>	二九九 <small>匁</small>	〇〇八 <small>匁</small>	〇三五 <small>匁</small>
一	二、二五二	四二、三七二	〇五六	〇〇二	〇〇七
二	八、七一〇	四二、〇〇六	二〇八	〇〇七	〇〇九
三	一一、九八八	四一、九七五	二八四	〇〇九	〇〇四
四	一八、一八九	四二、二七六	四二三	〇一〇	〇〇六
五	一三、八八二	四二、〇七一	三二四	〇一〇	〇〇四
六	一四、二五四	四二、〇〇六	三四一	〇一一	〇〇一
七	一三、〇二〇	四一、七六一	三一	〇一〇	〇〇五
八	六、〇六三	四一、七九五	一四五	〇〇六	〇〇五
九	八、七二〇	四一、七四五	二〇八	〇〇六	〇〇六
十	一〇、七〇八	四一、八五六	二五五	〇〇八	〇〇八
十一	八、二二六	四一、五九二	一九四	〇〇六	〇〇六
十二	一〇、〇八九	四一、六九五	一二五	〇〇四	〇〇四

草海	肥魚	臟肝魚	魚子	目品
岐	三重	愛知	東	着
阜	四日市	枇杷島	京都	驛
				車
三	一	二二	一〇一	數
				噸
三三・七	七・九	八・四	一〇・〇	數
				着
			大阪市場	驛
			米子山	車
				數
			四一五	噸
				數
			二一・四〇	噸
			二二・三四	噸
			五・六一	噸
			五四・四五	噸
			五・〇〇	噸
			三・七七	噸

干魚輸送鐵道主要驛別

(魚肝臟、魚肥、海草を含む)
昭和二十三年度

玉妹津西倉岡	相西姬神大丹東	着
島尾山社敷山生宮路場	戶市市場口場	驛
		車
一一一 二二六	一五四 三五	數
一三	四五	噸
		數
一二六・三	三八八・〇	噸
		數
大博小	御郡高	着
計	三吳十己	驛
社多倉	所山田原市斐	車
二二	一一四 一一二 三八	數
三一八	四二	噸
		數
三、三一四・六	三五七・一	噸
四・六		噸
六四・五		噸
五二・七		噸

鮮魚輸送鐵道主要驛別

(昭和二十三年度)

3 工業

地區別工場數

(昭和二十三年末)

種別	工場數	從業者數		計
		男	女	
總數	一六九	一、〇八一	四九七	一、五七八
山田	六	一八	九	二七
椿東	八	四七	一六	六三
舊萩	四	五八〇	二一七	七九七
總數	一六九	一、〇八一	四九七	一、五七八

種類別工場數

(昭和二十三年末)

種別	工場數	從業者數	計
機械器具工業	一	八五	八七
化學工業	一	九四	二三六
窯業及土石工業	一	五六	八四
食品工業	五	二五七	四一五
印刷及製本工業	三	二九	三一
製材及木製品工業	八	二六八	三六八
其他の工業	五	一五七	三一九
總數	一六九	一、〇八一	一、五七八

種類別規模別工場數

(昭和二十三年末)

種別	工場數	從業者數					計
		五人未滿	五人~十人	十一人~二十人	廿一人~三十人	三十人以上	
總數	一六九	一〇九	二九	一八	四	一九	
金屬工業	一	三	一	一	一	一	
機械器具	一	三	一	一	一	一	
化學	一	一	一	一	一	一	
窯業及土石	一	一	一	一	一	一	
食品	五	四	一	一	一	一	
印刷及製本	三	二	一	一	一	一	
製材及木製品	八	二	一	一	一	一	
其他の	五	三	一	一	一	一	
總數	一六九	一〇九	二九	一八	四	一九	

4 商業

萩商工會議所

年次	議 員	顧 問	役 員	選 舉 者 有 資 格	會 議 度 數	議 事 件 數	經 費 豫 算
昭和二十二年	三六	二	一六	四二七	一九	四八	一六〇、〇〇〇
〃二十三年	三一	二	二六	三八六	二二	六二	三一〇、〇〇〇
〃二十四年	三一	二	二六	三六二	四	二五	九三〇、〇〇〇
					十二月現在迄	(〃)	

會

社

(營業別)

(昭和二十三年)

業 種	株式會社		有限會社		合名會社		株式會社(支店)		合 計	
	數	資本金	數	資本金	數	資本金	數	資本金	數	資本金
農 業	二	二五〇,〇〇〇	—	—	—	—	—	—	二	二五〇,〇〇〇
林 業	九	三,一五八,〇〇〇	一	一,六九三,〇〇〇	—	—	—	—	一〇	四,八五一,〇〇〇
水產業	七	三,五三八,〇〇〇	—	—	—	—	—	—	七	三,五三八,〇〇〇
商 業	二四	五,五一五,〇〇〇	三	二,四三七,〇〇〇	—	—	—	—	二七	七,九五二,〇〇〇
合 計	四二	一二,〇〇〇,〇〇〇	四	三,一八六,〇〇〇	—	—	—	—	四六	一五,一八六,〇〇〇

會

社

(資本額別)

(昭和二十三年)

業 種	株式會社		有限會社		合名會社		合 計	
	數	資本金	數	資本金	數	資本金	數	資本金
工 業	一	五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	一	五〇〇,〇〇〇
鑛 業	—	—	—	—	—	—	—	—
交 通 業	—	—	—	—	—	—	—	—
運 輸 業	—	—	—	—	—	—	—	—
金 融 業	—	—	—	—	—	—	—	—
土 建 業	—	—	—	—	—	—	—	—
其 他	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	一	五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	一	五〇〇,〇〇〇
前 年	六	一,八四四,〇〇〇	五	五,〇九七,〇〇〇	—	—	一	六,九四一,〇〇〇

資本金額	株式會社		有限會社		合名會社		合 計	
	數	資本金	數	資本金	數	資本金	數	資本金
五千圓未滿	—	—	—	—	—	—	—	—
一萬圓未滿	—	—	—	—	—	—	—	—
二萬圓未滿	—	—	—	—	—	—	—	—
五萬圓未滿	—	—	—	—	—	—	—	—
十萬圓未滿	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—	—	—

7 工 藝 作 物 業	8 其 他 の 作 物 業	9 畜 産 業	10 蠶 業	11 雜 收 入 農 業	12 自 給 農 業	13 入 植 農 業	二、林 業	14 森 林 業	15 木 炭 製 造 業	16 其 他 の 林 業	三、水 産 業	17 漁 撈 業	18 水 産 増 殖 業	四、鑛 業	19 石 炭 鑛 業
				一			四二	九	二八	五	四九六	四九六		五	二
							一三五	二九	九八	八	一、三〇〇	一、三〇〇		六一	二四
20 石 油 鑛 業	21 金 屬 鑛 業	22 非 金 屬 鑛 業	23 土 石 採 取 業	五、建 設 工 業	24 設 計 監 督 業	25 綜 合 工 事 業	26 職 別 工 事 業	27 設 備 工 事 業	六、製 造 工 業	28 金 屬 工 業	29 機 械 器 具 工 業	30 化 學 工 業	31 窯 業 及 土 石 工 業	32 紡 績 工 業	33 製 材 及 木 製 品 工 業
				四					六六四	三一	三一	一四	二九	九九	一一二
				一五三					二、五六二	六九	二六四	一三一	九五	一八五	四八〇
				二			一四〇	二							
				二七			二一八	二							
				一〇											
				五一一											

總 數	事業所數	従事者數	産 業 分 類	事業所數	従事者數
一、農 業	二、七九四	八、三四二	3 雜 穀 作 業		
1 稻 作 業	四	一〇	4 甘 藷 馬 鈴 薯 作 業		
2 麥 作 業	一	三	5 蔬 菜 作 業		
			6 果 樹 園 作 業		

産業種別事業所數及従業者數

(昭和二三、一〇、一現在)

5 事業所總覽

三〇萬圓未滿	四	七、七九四、〇〇〇	一五	一、三三三、〇〇〇
五〇萬圓未滿	三	一、〇〇〇、〇〇〇	二	六、三三三、〇〇〇
百萬圓未滿	二	六、九〇〇、〇〇〇	七	三、九〇〇、〇〇〇
千圓未滿	四	五、五〇〇、〇〇〇		
合 計	六九	二二、四九二、〇〇〇	三三	九、〇一〇、〇〇〇

67 宗	66 試 驗 研 究	65 教 育	64 醫 療 生 業	一二、自 由 業	63 其 他 の サ ー ビ ス 業	62 家 事 業	61 廣 告 宣 傳 業
六〇	一	一六	九三	一九七	六六	一	一
九五	一	三六七	二二九	七二六	九九	一	一
73 其 他 の 産 業	一四、其 他 の 産 業	72 團 体	71 公 務	一三、公 務 及 團 体	70 其 他 の 自 由 業	69 著 述 業 藝 術 遊 藝	68 法 務
一	一	一六	一	一七	五	一六	七
二	二	一七一	三	一七四	五	二一	九

47 倉 庫 業	46 出 版 業	45 物 品 賣 買 仲 立 業	44 露 店 商 行 商	43 各 種 物 品 小 賣 業	42 小 賣 業	41 卸 賣 業	八、商 業	40 水 道 業	39 電 氣 業	38 ガ ス 業	七、ガ ス 電 氣 及 水 道 業	37 修 理 業	36 其 他 の 工 業	35 印 刷 及 製 本 業	34 食 料 品 工 業
一	二六	四〇	四	七三五	八八	八九四	二	二五	一	七	一一四	一二〇	二	一〇五	
二	四四	四九	一三	一、四四五	四七八	二、〇三一	二六	二七	一	三三	二七三	四二八	二二	七三四	
60 娛 樂 興 行	59 物 品 預 業 貸 借 業	58 勞 務 供 給 周 旋 業	57 理 髮 理 容 浴 場 業	56 接 客 業	一一、サ ー ビ ス 業	55 通 信 業	54 水 運 業	53 陸 運 業	一〇、運 輸 通 信 業	52 其 他 の 金 融 業	51 證 券 業	50 保 險 業	49 銀 行 業 、 信 託 業	九、金 融 業	48 不 動 産 取 扱 業
一〇	九	一	五七	六七	二一〇	三	九	六一	七三	八	一八	五	三一	一	
五	二	一	一一六	二〇六	四八五	七	一八	一五〇	一七五	一三	七三	三一	一七	一	

金

銀

銀行本支兩端及資本金

(第廿二頁)

一〇、金

融

銀行存款金

(第廿三頁)

金

融

銀行本支店數及資本金

(昭和二十三年度)

種別	銀行數		公稱	本拂
	本店	市内に本店を有する支店 市外に本店を有する支店		
總數	1	1	90,000,000 ^円	90,000,000 ^円
特殊銀行	1	1	90,000,000 ^円	90,000,000 ^円
普通銀行	1	1	90,000,000 ^円	90,000,000 ^円
合計	5	5	90,000,000 ^円	90,000,000 ^円

銀行預金

(昭和二十三年度)

種別	預り高	拂戻高	年度末現在高
當座預金	1,375,500,074 ^円	1,365,429,401 ^円	17,812,679 ^円
定期預金	56,533,480 ^円	35,322,901 ^円	42,518,859 ^円

普通預金
其他
前年

1,511,494,799
537,710,639
1,403,335,647

1,481,065,137
545,536,836
1,367,498,261

70,906,011
17,167,701
94,520,534

銀行貨付金

(昭和二十三年度)

種別	貸付高	回収高	年度末現在高
手形貸付	333,717,476 ^円	273,936,254 ^円	82,630,640 ^円
證券貸付	17,440,000 ^円	20,490,000 ^円	500,000 ^円
當座貸付	51,263,161 ^円	49,462,097 ^円	3,166,302 ^円
引手形	2,383,863 ^円	1,595,590 ^円	787,273 ^円
前年	105,846,461 ^円	80,082,804 ^円	27,763,657 ^円

内國爲替

(昭和二十三年度)

100

種別	送金		爲替	
	枚	金額	枚	金額
總數	二〇、九一二	一、三二七、一七六、二七六 ^四	一一、七一一	一、三三九、〇六九、〇〇五
特殊銀行	—	—	—	—
普通銀行	二〇、九一二	一、三二七、一七六、二七六	一一、七一一	一、三三九、〇六九、〇〇五
前年度	二一、〇二三	三三七、四六七、六二二	一四、〇四七	四八八、九七四、七二九

郵便爲替

(昭和二十三年度分)

局名	受入		拂渡	
	口數	金額	口數	金額
萩局	一六、六〇五	三三二、一五七、二九四 ^四	二六、一五六	四六、五一六、九四七 ^四
濱崎局	二、九六二	五、七八九、二三八	二、八五八	三、四八三、五五二
越ヶ濱局	九九〇	一、五五〇、一九九	六一七	一、〇六二、三九四

郵便貯金

局名	受入	拂渡
新川局	九、九八七	一五、八〇二、四一〇
橋本局	五、八一八	八、〇三三、六四二
平安古局	二、六九四	二、五五三、三九九

局名	受入		拂渡	
	口數	金額	口數	金額
萩局	四七、六〇五	三九、六二一、五四五 ^四	二二、三〇一	三四、五九四、四一三 ^四
濱崎局	八、一九九	一三、〇二一、〇一三	五、六二一	八、九三八、二九三
越ヶ濱局	五、一八三	六、七七二、三三九	二、一五三	四、八一七、三九八
新川局	四、八八七	六、八〇二、四九九	三、〇三五	五、〇五六、五六四
橋本局	九、八一八	一九、一八五、五四三	七、二一五	一五、〇二三、八七八
平安古局	八、六四一	一〇、五二九、七四七	四、七〇五	八、〇〇四、一三三

郵便振替貯金

局名	受入		拂渡	
	口數	金額	口數	金額
萩局	四、二六六	一〇、六〇九、八二六	二、一七七	一八、八八六、九八六
濱崎局	五四九	一、三七六、九四四	一〇七	一二三、五六四
越ヶ濱局	一四六	二二二、八二五	二九	五〇、九九五
新川局	五五一	一、〇三三、六四一	八二	九四一、七六四
橋本局	一、〇二五	三、五〇九、七五一	一九一	四五一、六三八
平安古局	五二四	五〇〇、二八三	一二	八五、一五四

一一、土

木

道

路

(其の一)

(昭和二十四年末)

種別	路線數	主要延長	主要延長	隧道延長	橋梁延長	渡船場延長
市道	113	118,338米	27,933米	90米	1,170米	135米
縣道	80	38,464,55米	37,543,75米	27,300米	910,80米	
國道						

道

路

(其の二)

(昭和二十四年末)

種別	主要延長	主要延長	幅員別	内譯
市道	7,5米以上効	同未滿	同未滿	有六米未滿効
縣道	11,391,000米	同未滿	同未滿	
國道	79米	同未滿	同未滿	

橋

梁

(市)

(昭和二十四年末現在)

種別	總數	200米以上	200米未滿	120米未滿	60米未滿	30米未滿
鐵筋コンクリート	26					26
煉瓦	19					19
土橋	44	1		1	2	40
可動橋						

橋

梁

(縣)

(昭和二十四年末現在)

種別	總數	200米以上	200米未滿	120米未滿	60米未滿	30米未滿
鐵筋コンクリート	20	3				17
煉瓦	2					2
土橋	2					
可動橋						

一一一、交通通信及運輸

市營渡船利用者

(昭和二十三年)

線別	總數	一ヶ月平均	一日平均
香川津—鶴江線	一八二、五六〇人	一五、二一三人	五〇〇人
雁島—鶴江線	三六五、六八〇	三〇、四七三人	一、〇〇二人
濱崎—鶴江線	二五五、五二〇	二五、二九三人	七〇〇人

市内各驛別乗降客數

驛名	年度別		乘車人員	料	金	降車人員	一日平均	
	23年度	22年度					乗客	降客
東萩驛	23年度	22年度	六九、三九六人	七、〇E〇、1111円	六四九、六〇〇人	1,886人	1,773人	
萩驛	23年度	22年度	六七、八八九	一五、三〇五、七〇〇	六三六、111	1,421人	1,743人	
	22年度	23年度	三三六、二七四	二、三八七、七1八	三〇六、九二八	六四七	六〇五	
	23年度		二六、三八八	五、二七九、三九三	二二〇、11八	五九三	五七九	

市驛	23年度		22年度	
	發	到	發	到
萩市驛	四一、二七四	九二〇、六九二	四二、二一七	一一三
玉江驛	一九九、五九三	三八九、六八九	四六、〇一八	一二五
	二四九、一八五	二、一〇三、三五九	二〇四、二一一	五四五
	二四七、四〇一	二四七、四〇一	八七一	六七七

市内各驛手小荷物取扱數

驛名	23年度		22年度		發送到事故	發送到着事故
	發	到	發	到		
玉江驛	一、四四五	一、二四二	一、二二四	一、八五八		
萩驛	二、四三四	二、一五二	一、四八五	一、〇四一		
東萩驛	二、〇九七	三、四六〇	五、四五二	二、〇三三		
	二、七九七	四、三八一	二、四八五	一九八〇		
	五、〇二二	五、〇四五	一〇、二三三	二五、八四七		
	六、三六六	五、〇四五	三、九三〇	八、三三一		

市驛	23年度		22年度	
	發	到	發	到
萩市驛	三三	三	六七九	三
	一〇一	一〇一	八四七	二

自動車及諸車

年次	自動車	貨物自動車	三輪車	自轉車	牛馬車	荷車
昭和二十三年一月一日現在	一四	四三	三九	三、九五〇	五六	一、五一〇
昭和二十四年一月一日現在	二一	六四	六五	四、一八三	六〇	一、六二八

郵便物取扱數

(萩郵便局)

年次	普通		常		小	
	引	配	引	配	引	配
昭和23年	一、五四二、四三〇	一、六三六、九六九	三三、六六〇	五二、四五三	四、五五五	九、一二六
昭和22年	二、一八七、五四五	二、五五三、一六二	三六、九一三	五三、九六一	二、九二七	七、三二五
	二五、二八六	二五、二八六	一五、三二〇	二五、三五五		

郵便局數及其その他

(昭和三四、一、一現在)

普通郵便局	一	郵便局	六	郵便切手賣捌所	三八
特定郵便局	六	郵便	三七		

電報

局名	年度別		總數	內國電報	外國電報	中繼信
	23年度	22年度				
局	二二〇、五五三	二三〇、八一〇	二二〇、五五三	一二五、一七二	四八	一〇五、五七七
局						一〇〇、一七六

電話加入者產業別

產業別	加入者數
連合軍直營事業	三一
國、公共團體の現業以外の事務所	三一
農業	八
林業	九
水産業	七
鑛業	四
建設業	一五
金融業	二
機械器具業	一四
化學工業	一
窯業	一
紡織業	四
製材及木製品工業	二
食糧工業	三
印刷製本工業	一
その他の工業	一七
修理業(塗裝業を含む)	一六
ガス、電氣水道業	三
商業	二〇六
金融業	二七
運輸業	四五
郵便業	四六
自由業	八五
公務	二六
その他の	三二

一三、港

勢

新編 大正 航海 圖

港勢

水面積

(萩港)

(昭和二十三年)

水面積總數	五九〇 <small>平方米</small>
	三二、五 <small>平方米</small>
水深三、五メートル	一七七、五 <small>平方米</small>
	一八〇 <small>平方米</small>
水深三、五メートル以上七、三メートル未満	二〇〇
	二〇〇
水深七、三メートル以上九、〇メートル未満	七、三
	七、三
水深九、〇メートル以上	七、三
	七、三

繫船岸壁

(昭和二十三年)

名稱	經營者	延長	長さ	水深	深	構造	造
瀉川港	山口縣	一五	一五	七、三	七、三	矢板	式
新川港	山口縣	三〇〇	三〇〇	二、五	二、五	石	垣式
濱崎港	山口縣	二〇〇	二〇〇	二、五	二、五	石	垣式

物揚場

(昭和二十三年)

名稱	經營者	延長	水	深	樣式	主材
瀉川港物揚場	山口縣	四〇	三、五	三、五	矢板式	鐵矢
姥倉運河物揚場	山口縣	一〇〇	二、五	二、五	石垣	粗石
濱崎港物揚場	山口縣	一〇〇	二、五	二、五	石垣	粗石

上屋

(昭和二十三年)

經營者別	經營者數	棟數	總面積
山口縣	一	二	七二四 <small>平方米</small>

船舶給水

(昭和二十三年)

經營者	所在の場所	數量	種類	最大能力 (一〇時間に付き)
萩市	後小畑瀉港岩壁	三	水	六〇〇 _電
" "	姥倉運河	一	栓	二〇〇
" "	濱崎海岸壁	一		二〇〇

繫船浮標

(昭和二十三年)

種別	數量	經營者	摘	要
瀉港浮標	一	山口縣	三、〇〇〇屯級船舶一隻	

入港船舶

(昭和二十三年)

種別	總數		汽船		帆船		帆	
	船數	總屯數	船數	總屯數	船數	總屯數	船數	總屯數
萩港	三、三〇三	八四、六〇八 _屯	四八	九、三〇五	三、二五五	七五、三〇三		

萩港船舶乗降客

(昭和二十三年)

種別	總數	總乗客		一日平均
		乗客	降客	
萩—見島航路	二〇、二三二	一〇、〇一一	一〇、二二一	三八
萩—大島航路	三一、一八八	一五、五〇四	一五、六八四	四二
萩—相島航路	一八、五六八	九、二六四	九、三〇四	三五
				三九
				四三
				三六

萩港旅客及手小荷物

(昭和二十三年)

乘船人員 311,110人	下船人員 318,670人	一日平均 乘船人員 90人	客 收 入 371,500円	發送個數 11,100個	到着個數 1,200個	手 小 荷 物 收 入 45,600円
------------------	------------------	---------------------	-------------------------	-----------------	----------------	---------------------------------------

萩港貨物發着吨數

(昭和二十三年)

品 種	發 送		到 着	
	汽 船	機 帆 船	汽 船	機 帆 船
鑛 產 品	6,100	36,490	11,100	1,973
林 產 品		41,690		1,031
農 產 品		80		290
畜 產 品		111		6
水 產 品		10		7,710
工 業 品		365		2,786
計		84,075		12,970

窯 業 品		34	34	8	8
加 工 食 糧 品		33	42	1	1
織 維 工 業 品		30	30	10	10
其 他		30,073	31,334	13,958	13,958
總 計	6,100	84,075	84,075	28,951	28,951

船

船

(昭和二十三年末)

五 屯 未 滿	汽 船 數	發 動 機 船 數	機 帆 船 數	帆 船 數	合 計 船 數
五 屯 以 上	噸 數	噸 數	噸 數	噸 數	噸 數
二 〇 屯 未 滿					
二 〇 屯 以 上					
一 〇 〇 屯 未 滿					
一 〇 〇 屯 以 上					

一四、水

道

消費區分別使用水量及使用料額

區分	給水戶數	月間消費水量 立米	一月一戶當水量 立米	昭和二十四年度 月間使用料金 円
家 事 用	七八〇	一五、七〇一	二〇、〇五	一一〇、一三四
官 公 署	五七一	六、八三七	一一、九七	四四、八〇〇
工 場 用	六八	一、六七〇	二四、五五	一二、四五〇
營 業 用	一六	一、四五〇	九〇、六二	九、八三〇
湯 屋 用	一一九	四、七五三	三九、九四	三八、五二〇
船 舶 給 水	一五	九一〇	一八二、〇〇	四、二〇〇
額	三、三一	八一	八一、〇〇	三三四
專 用	二、七二〇	六四、一五九	一九、三八	二二九、九〇〇
共 用	五九一	一〇、九〇七	一八、四五	二〇〇、二〇〇
合 計	四、〇九一	七九、八六〇	一九、五二	三四〇、〇三四

水道料金表

(昭和二十四年四月一日施行)

區別	基本量	料金	單位		金額
			超	過	
計 一 種 家 事 用	一〇	六五	—	—	六
二 種 業 務 用	二〇	一六〇	—	—	八
三 種 湯 屋 用	一〇〇	四二〇	—	—	四
四 種 噴 水 庭 園	二〇	四八〇	—	—	二〇
五 種 船 舶 給 水	—	八	—	—	—
放 任 給 水	—	—	—	—	—
一 種 專 用	五人	七〇	—	—	五
公 設 共 用	五人	三〇	—	—	三
二 種 私 設 共 用	五人	四五	—	—	四

一五、司法警察

警察署及職員

(昭和二十四、一現在)

一二六

種別	位置	警察長	地方警視	警部	技手
阿武西地區警察署	萩市土原町				
萩市警察署	萩市土原町				
警部補	巡查	婦人警察官	職員其の他	管内人口	署員一人當
五二	八六	四九	二七	一四	三九、九〇〇
				四一、五二三	八三三
					六五八

犯罪及檢舉件數

(昭和二十三年度)

種別	殺人	強盜	強詐	喝欺	橫領	放火	失火
阿武西地區警察署							
犯罪件數	一	一	四	五〇	三五	一	一
檢舉件數	一	一	四九	五〇	三二	一	一

遺失物及捨得物

(昭和二十三年度)

署別	遺失物		捨得物	
	件數	貨幣	件數	貨幣
萩市警察署	一五八	八八	七〇	一七三
阿武西地區警察署	八〇	六五	九四	七四
種別	遺失物	捨得物	遺失物	捨得物
犯罪件數	二	三	一	一六七
檢舉件數	七	四	一	四四七
賭博富籤	二	三	一	一、〇三七
傷害暴行	七	三	一	四四七
過失傷害	一	一	一	一、二四四
通貨其他	一	一	一	六七三
偽造其他	一	一	一	六七三
刑罰其他	一	一	一	六七三
合計	三三	三二	三三	三〇一

一二七

火災		
出火	失火	損失
户数	件数	户数
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
3	1	3
1	1	1
1	1	1
3	1	3

(昭和二十三年度)

消防團名	器材		
	大	中	小
二	1	1	1
2	3	9	1

消防用器材

消防團名	定員數				
	團長	副團長	本部長	副本部長	班長
一	1	1	1	1	1
二	1	1	1	1	1
三	1	1	1	1	1
四	1	1	1	1	1
五	1	1	1	1	1
六	1	1	1	1	1
七	1	1	1	1	1
八	1	1	1	1	1
九	1	1	1	1	1
十	1	1	1	1	1
計	15	15	15	15	15
計	399	399	399	399	399
計	500	500	500	500	500

消防團定員數

(昭和二十三年十二月末現在)

署別	種類	總數						
		傷死	傷死	傷死	傷死	傷死	傷死	傷死
阿武西地區警察署	自動車							
萩市警察署	自動車							
阿武西地區警察署	自轉車							
萩市警察署	自轉車							
阿武西地區警察署	汽 車							
萩市警察署	汽 車							
阿武西地區警察署	牛馬車							
萩市警察署	牛馬車							
阿武西地區警察署	其他							
萩市警察署	其他							
阿武西地區警察署	計	3	4	3	3	1	0	4
萩市警察署	計	3	4	3	3	1	0	4
阿武西地區警察署	計	3	4	3	3	1	0	4
萩市警察署	計	3	4	3	3	1	0	4

交通事故

(昭和二十三年度)

火災原因別

(昭和二十三年度)

一	不審火
一	火遊
一	焚火
一	自然發火
一	吸殻
一	煤汽煙車
一	竈油
一	類漏
一	電電熱器
三	計

一	海軍艦隊
一	陸軍部隊
一	警察官署
一	消防隊
一	市町村役所
一	官公衙團體
一	其他所在地
一	計

一六、官公衙團體 其他所在地

官 公 衛

(昭和二十四年十二月末日現在)

一三二

名 稱	代 表 者	電 話	所 在 地
萩 驛	小林安太郎	二八九	濁川淵
東 萩 驛	甲斐正男	二七一	新川南
玉 江 驛	山根信武	二四〇	玉江浦
萩 市 驛	波田正誠	六一二	唐樋町
中國海運局德山市局萩出張所	上田正行	二三三	新川東
海上保安廳萩港長事務所	福原武彦	八三一	"
門司稅關萩出張所	進藤芳太郎	三二二	"
山口地方法務局萩支局	原 芳太郎	四七	江 向
山口地方裁判所萩支部	竹田政一	四七	"
萩簡易裁判所	竹田政一	四七	"
萩檢察審査會	竹田政一	四七	"
山口家庭裁判所萩支部	山口地方檢察廳萩支部	四二七	江 向
山口地方檢察廳萩支部	農林省山口食糧事務所萩出張所	六五九	新川南

農林省作物報告事務所萩出張所	中 原 義 秋	二〇二	新川南
農林省山口食糧事務所阿武支所萩出張所	白 崎 半 榎	六五九	"
山口縣食糧公團萩支所	岡 崎 壽 義	三〇五	川 島
山口縣保健所	松 本 茂 久	六六三	江 向
山口縣勞働基準監督署	藤 野 命 吉	七五〇	熊谷町
日本放送協會萩中繼放送所	岩 崎 命 吉	六六一	城 東 南
中國配電株式會社萩營業所	松 浦 朝 行	一四四・三三	土 原
萩電氣通信管理所	新 田 祐 一	八二〇	東 田 町
山口縣耕地出張所	池 田 秋 博	七四・三三	江 向
山口縣土木出張所	村 上 梅 男	四三	"
阿武地方事務所	野 原 弘 進	六六・六六	江 向
阿武西地區警察署	三 村 弘 一	六四・七五	"
萩市警察署	大 河 村 武 雄	五九・九六	土 原
萩公共職業安定所	石 井 利 往	二四・一九	堀 內
縣立萩圖書館	福 島 卯 三	七六	御 許 町
萩勞政事務所	岡 本 一 雄	六七五	"
吳特別調達局山口監督官事務所萩派出所		六七五	"
涉外勞務管理事務所			

一三三

萩市役所	萩商工會議所	專賣公社萩出張所	萩測候所	萩稅務署
安村正人	河上屋千代鶴	大田時衛	關岡理一	古川逸郎
700・701 702	572	六一一	七三一	七二
江向	唐樋町	土原	江向	唐樋町

郵便局

(昭和二十四年十二月末現在)

新川郵便局	橋本郵便局	平安古郵便局	越ヶ濱郵便局	濱崎郵便局	萩郵便局
三好眞之	矢次良夫	田淵武彦	村上義光	藤山徹一郎	横山榮
七七九	七七八	七七七	七七六	七七五	〇
新川南	橋本町	平安古町	越ヶ濱	濱崎町	東田町

學校

(昭和二十四年十二月末現在)

縣立萩北高等學校	縣立萩南高等學校	私立萩商工高等學校	私立萩女子學園	市立第一中學校	市立第二中學校	市立第五中學校	越ヶ濱中學校	木間中學校	明倫小學校	椿東小學校	椿西小學校	白水小學校	木間小學校	越ヶ濱小學校
富水德司	渡邊芳雄	安藤眞一郎	竹內泰次	柳田千尋	磯部憲一	林部憲一	櫻井武二	堀野文吾	山中四郎	山根祝作	山根莞	伊藤興之	堀文吾	久志敬範
七六	一五八	二二二	二四二	七二一	三四三	七六	六二一	一六六	一三五	九四	二九三	二九三	六二一	六二一
堀内	江向	土原	土原	江向	堀内	越ヶ濱	東木間	東木間	無田ヶ原	濁淵	玉淵	東木間	越ヶ濱	越ヶ濱

金 融 機 關

一三六

名	稱	代 表 者	電 話	所 在 地
銀 行	山 口 銀 行 秋 支 店	淺 野 一 之	二、一〇〇 一三六・五〇〇	東 田 町
"	東 秋 支 店	藤 井 秀 夫	二四四	新 川 西
"	濱 崎 支 店	村 木 勘 三 郎	二〇五三	濱 崎 町
"	山 口 銀 行 秋 支 店 玉 江 出 張 所	中 山 秀 雄	一一五	玉 江 浦
"	橋 本 出 張 所	赤 木 實	一一五	橋 本 町
信 用 組 合	秋 積 善 信 用 組 合	林 良 雄	一 九 七 五 〇 七	唐 樋 町
"	秋 農 業 協 同 組 合	柴 田 定 行	三 五 九	江 向
"	椿 東	原 東 晴 二	二 〇 二	新 川 南
"	椿	塩 見 政 輔	六 一 〇	椿 町
"	山 田	上 田 悟	一 〇 一	玉 江

信 用 組 合

(昭和二十三年度)

名	稱	組 合 員 數	出 資 額	積 立 金 及 準 備 金	預 金 總 額
秋 積 善 信 用 組 合		九 六 九 人	七 三 四、八 七 〇 円	三 〇、二 七 一 円	二 八、四 九 五、五 三 一 円
秋 農 業 協 同 組 合		五 〇 〇	一 六 三、八 〇 〇	三、二 〇 〇	五、九 〇 五、八 七 三
椿 東		六 三 八	二 一 六、三 〇 〇	—	一 二、七 六 八、五 二 一
椿		四 九 〇	二 五 〇、〇 〇 〇	一、五 〇 〇	一 〇、九 四 一、〇 七 六
山 田		一、一 八 〇	三 〇 三、三 〇 〇	三、五 〇 〇	一 〇、二 六 二、八 五 八

一三七

主要會社、工場

(昭和二十四年十二月末日現在)

名	稱	代	表	者	電	話	所	在	地	主	要	事	業
日東製紙株式會社	萩工場	古賀	武德	七五九	七六二	船津	製紙業						
萩木材有限會社		林	萬植	五四八		新川南	製材業						
東洋木材株式會社		吳石	權一	四六四		新川東	內燃機關						
萩重工業有限會社		河上	千代植	五七五		新川南	造船業						
有限會社	萩造船所	平原	與次郎	六六五		〃	竹材輸移出業						
中國竹材貿易株式會社		住永	明介	六〇八		〃	醬油製造業						
谷口釀造工場		原	龍藏	一四二		東濱崎町	化學製品製造業						
興國化學工業株式會社	萩工場	金子	正一	八〇九		〃	水產加工						
萩水產加工株式會社		水津	松太郎	一三六		土原	貨物運輸						
萩貨物自動車株式會社		光藤	正元	二一八		唐樋町	旅客運輸						
防長自動車株式會社	萩營業所	油屋	熊一	五六九		熊谷町	蒲鉾製造業						

日本冷蔵株式會社 萩工場
山口縣合同罐詰株式會社 萩工場
三榮化學工業株式會社 萩工場
私設保稅工場 風月堂
日本漁網船具株式會社 萩工場
萩青果有限會社
瑞穂糧穀株式會社 萩支店
山口縣生產販賣農業協同組合
連合會 萩加工場
日米產業株式會社
株式會社 沖見木工所
關門機帆船運送株式會社 萩支所
門司竹材株式會社 萩出張所
櫻釀造株式會社
萩魚類運輸株式會社
萩食品工業株式會社
萩興產株式會社

澤井	復輔	三坂	勉	三二二		新川西	冷凍
山本	市太郎	山本	市太郎	四一九		濱崎町	農業加工
吉村	三讓	吉村	三讓	五〇三		東田町	製菓業
天野	三雄	天野	三雄	七一二		江向	漁網業
山中	峰熊	山中	峰熊	六五三		新川東	青果販賣
野原	國志	野原	國志	七六九		川島	精白運送
竹内	菊正	竹内	菊正	六一三		新川南	農產加工
橫田	清一	橫田	清一	四二九		玉江	水產加工
沖見	富吉	沖見	富吉	一五五		新川東	木製玩具
林	宇吉	林	宇吉	四四五		新川西	船舶運送
長谷川	利一	長谷川	利一	七七		新川東	竹材輸移出
水津	松太郎	水津	松太郎	一一九		土原	燒酒製造業
村橋	德治	村橋	德治	二九九		濱崎町	製函業
山田	博	山田	博	二三八		瓦町	農產加工
藤田	秀一	藤田	秀一	四五一		濱崎新町	蒲鉾製造業

松新水産加工場
 日本タイヤ株式会社萩製油工場
 石川鑄工株式会社
 株式会社萩響海館
 日本通運株式会社萩支店
 日本通運株式会社萩支店萩營業所
 日本通運株式会社萩支店玉江營業所
 萩タクシ一有限公司
 中谷醬油工場
 萩燒坂高麗左衛門
 泉流山吉賀大雅堂
 野坂江月堂
 藤原薄板製工場
 共榮家具物産有限公司
 和田木工所
 吉賀竹製品製造所

吉賀	和田	河野	藤原	野坂	吉賀	坂	中谷	谷口	磯部	山本	永安	星野	石川	野村	松本
正	治	藤	竹	百	涉	秀	育	保	源	俊	高	久	房	清	新
市	郎	吉	一	一	輔	輔	三	雄	藏	雄	城	一	郎	太	一
	四一六	三五二			五四一	二三六	一五三	四二二	三〇四	四二	四四六	一八	二五九	六一四	
船津	城北	土原	濁淵	玉江	前小畑	中ノ倉	椿町	東田町	玉江浦	濁淵	新川南	御許町	沖原	新川南	〃
竹製品製造業	〃	家具製造業	經木製造業	〃	〃	陶磁器製造	醬油製造業	旅客運送	〃	〃	運送業	印刷業	鑄鐵業	化學製品製造業	水産加工

在外同胞後援會山口出張所竹材加工場
 萩製樽有限公司
 萩木材工業株式会社
 富川製材所
 萩農具木工株式会社
 山縣製材所
 伊東製材所
 三和木工有限公司
 有田製材所
 南日本漁業會社萩工場
 榎元竹箸製作所
 角屋履物製造工場
 萬屋下駄製造所
 黑田履物製造工場
 大東産業株式会社
 佐村履物製造所

佐村	吉村	黑田	萬屋	角屋	相	岡	有田	長谷川	伊東	山縣	永安	富川	島川	大津	永井
秋	保	田	屋	屋			田	川	東	縣	安	川	邦	友	井
三	次	清	禎	勘	數	惠	利	健	繁	祐	夫	亮	若	太	甫
六三六	七三四	四〇五		三五		八四一	七七	四〇〇		六七四	一二五				
濱崎新町	東田町	〃	〃	北古萩町	南片河	新川南	東濱崎	新川南	新川南	〃	新川東	今古萩	土原	椿町	玉江
〃	〃	〃	〃	履物製造	竹箸製造	魚函製造	蒲鉾板製造	製材業	製材業	製材業	製材業	製材業	製材業	木製品	木製品

永安製籠所
久村製籠所
尾形竹製品製造所
境造船所
上領造船所
檜崎造船所
白井造船所
平田蒟蒻製造所
萩漬物商會
大光海產物加工場
大島海產物製造所
長谷川海產物製造所
武安蒲鉾製造所
萩三輪水產食品組合
藤井蒲鉾工場
大 大 水 產 加 工 場

永安 眞一
久村 正夫
尾形 二郎
境 庄一
上領 二吉
檜崎 甚一
白井 孫一
平田 行一
石橋 俊男
大島 親美
大島 勘一
長谷川 利彦
武安 武義
村田 二郎
藤井 茂美
齊藤 五郎

川島	竹製品製造	1
江向	造船業	1
倉江	造船業	1
椿町	蒟蒻製造業	1
東田町	農產加工	1
濱崎町	水產加工	1
濱崎新町	蒲鉾製造	1
濱崎町	濱崎町	1
濱崎町	濱崎町	1

越ヶ濱天婦羅加工組合
トモエ燃料興業株式會社
萩製パン販賣有限會社
佐野製繩工場
三村葯工品製作所
新光セメント工業所
萩昭和印刷所
文英社印刷所
北野印刷所
藤秀冷菓所
萩水產冷凍製氷所
萩市製氷所
岩崎酒造場
中村酒造場
上利酒造場
大島味噌製造所
仙崎屋醬油工場
三好醬油工場
松野醬油工場

新野 小三郎
大木 徳一
藤井 義男
佐野 正治郎
三村 信一
上邑 正一
伊勢島 係市
鈴木 五男
北野 増登
藤田 秀一
河上屋 千代鶴
出水屋 繁雄
岩崎 小輔
中村 開一
上利 久一
大島 勘一
仙崎 俊一
三好 信一
松野 忠次

越ヶ濱	煉炭製造業	716
新川東	食糧品工業	140
西田町	菓工品	1
中小畑	菓工品	1
新川南	粘土製品	1
瓦町	印刷業	431
西田町	印刷業	851
濱崎町	印刷業	111
濱崎新町	食糧品	451
濱崎町	食糧品	227
濱崎町	食糧品	147
東田町	酒造業	24
新川西	酒造業	137
玉江浦	酒造業	254
濱崎町	味噌製造業	295
今魚店町	味噌製造業	263
吉田町	醬油製造業	514
濱崎町	醬油製造業	163

新聞社

(昭和二十四年十二月末現在)

一四四

名	稱	代 表 者	電 話	所 在 地
每日新聞社	萩通信部	大塚正三郎	五五八	土原
朝日新聞社	萩通信部	鈴木喜一郎	五四九	江向
中國新聞社	萩支局	中野幸一	—	〃
西日本新聞社	萩通信部	勝山平八郎	六五六	平安古町
防長新聞社	萩支局	石川清治	二七二	新川東
山口日日新聞社	萩支局	津森清陸	—	西田町
萩夕刊タイムス	—	原武一郎	三〇八	椿町

政黨協會及團體

(昭和二十四年十二月末現在)

名	稱	代 表 者	電 話	所 在 地
民主自由黨	萩支部	吉武惠市	—	唐樋町
日本社會黨	萩支部	富田義介	—	新川南
日本共產黨	山口縣北部委員會	山本清治	—	江向

文化團體

(昭和二十四年十二月末現在)

名	稱	代 表 者	電 話	事 務 所 所 在 地
萩文化協會	—	市長安村正人	六九	市立圖書館
ユネスコ協會	—	瀧口吉春	四〇	縣立萩圖書館
萩文化集團	—	細田皆夫	—	江向二繩田宅
萩圖書會	—	小松貞子	—	市教育課
萩洋畫愛好會	—	堀啓一	—	川島三三八
萩洋樂愛好會	—	和真一人	—	平安古西區
萩友の會	—	長岡千鶴子	—	土原三區
萩ホトギス會	—	石田藤八郎	—	江向村田病院內
萩市文藝協會	—	竹內八郎	—	濱崎竹內宅

映画館及劇場

(昭和二十四年十二月末現在)

名	稱	代 表 者	上 映 々 畫	電 話	所 在 地
喜樂館	—	西林久亡	各種映畫	一九六	吉田町
萩セントラル住吉座	—	中村久政	洋畫	五三四	濱崎町
永樂座	—	境田又藏	劇場	二六〇	上五間町

高木萩屋旅館	雪山萩旅館	吉山旅館	阿武屋旅館	川上屋旅館	つる屋旅館	木村屋旅館	齊藤旅館	田原旅館	藤田旅館	田中屋旅館	樂天屋旅館	宮野旅館	簡易旅館
高木	萩	山	武屋	川上	つる	木村	齊藤	田原	藤田	田中	樂天	宮野	簡易
六七	五一	五二				六七		二〇八			三八一	一八六	
上五間町			御許町	土原弘法寺	土原		新川南				新川西	越ヶ濱	濁淵

山見屋旅館	山口屋旅館	富田屋旅館	重枝屋旅館	中村屋旅館	一三旅館	常茂屋旅館	原田屋旅館	好田屋旅館	福田屋旅館	梅屋旅館
山見	山口	富田	重枝	中村	一三	常茂	原田	好田	福田	梅屋
一六		二六	五三一	三〇三	一二三	一一五〇	五五四			
濱崎町		橋本町		古萩町	唐樋町					東田町

主要旅館

(昭和二十四年十二月末日現在)

農業關係組合

(昭和二十四年十二月末現在)

名稱	代表者	電話	所在地	組合員數
山口縣信用農業協同組合連合會秋支所	田中光熊	二七	新川南	二八
山口縣購買農業協同組合連合會秋支所	平尾安一	五五五	"	二八
山口縣生產販賣農業協同組合連合會秋支所	栗田巖	六五八	"	二八
山口縣農業共濟組合連合會阿武支所	小田忠生	六二二	"	二八
肥料配給公團山口縣東秋出張所	中野誠	六二二	"	一
萩農業協同組合	柴田定行	三五九	江向	五〇〇
萩農業共濟組合	柴田定行	三五九	"	一五一
椿東農業協同組合	厚東晴二	二〇二	新川南	六三八
椿東農業共濟組合	厚東晴二	二〇二	"	三三七
椿農業協同組合	堀見政輔	六〇〇	濁淵	四九〇
椿農業共濟組合	堀見政輔	六一〇	椿町	二五〇
山田農業協同組合	上田政悟	一〇一	玉江	一、〇八

山田農業共濟組合	上田悟	一〇一	玉江	二九二
萩開拓農業協同組合	森永政忠	六二二	沖原	一八
阿武秋畜產協同組合連合會秋支所	福田一良	六二二	新川	一
萩蓮根栽培組合	下瀬仙一	二〇	御許町	二〇
萩蓮根出荷組合	下瀬仙一	二〇	"	二〇
萩市養蠶組合	溝部勝利	三〇	目代	一〇四
萩市森林組合	木島真介	七〇〇	市役所內	一〇四
山口縣森林組合連合會秋支部	神野信介	二一三	新川	一
萩市農業調整委員會	來島市植	七〇〇	江向	二五
萩市農地委員會	吉賀要作	七〇〇	市役所內	一五
萩地區農業改良委員會	禰田良	七〇〇	江向	六
農林省山口食糧事務所阿武支所	上田久之	六五九	新川南	一三
農林省山口食糧事務所秋出張所	白橋半植	六五九	"	九

水產關係組合

(昭和二十四年十二月末現在)

一五〇

名稱	代表者	電話	所在地	組合員數
萩漁業協同組合	木村友一	一四五	濱崎町	八九五
萩漁業協同組合中小畑支部	河口貞男	四九	中小畑	一二六
萩漁業協同組合玉江浦支部	坂本菊一	一六七	玉江浦	三八二
萩漁業協同組合越ヶ濱支部	木村友一	六四八	越ヶ濱	三八七
萩中央漁業協同組合	長谷川利彦	三三	濱崎町	
玉江浦漁業協同組合	山根榮一	一六七	玉江浦	
越ヶ濱漁業協同組合	秋森貞滿	六四八	越ヶ濱	二三四
山口縣以東機船底曳網組合連合會	河上屋千代植	三六五	濱崎町	
山口縣漁業協同組合連合會萩支部	油屋熊一	五六九	熊谷町	一七
阿武萩水產加工業協同組合	河上屋千代植	三三	濱崎町	三八
萩指定水產物荷受組合	山村次郎	四二七	濱崎町	八六
萩市機船底曳網漁業營團				

萩沿岸底曳網實行團	河上屋千代植	一四八	濱崎町	六七
阿武萩漁業共同會	河上屋千代植	三六五	濱崎町	
越ヶ濱大敷組合	河本久一	七〇八	越ヶ濱	
越ヶ濱網仲間組合	河村利介	七〇八	濱崎町	
萩市鮮魚介小賣登錄店組合	原村光利	一四五	濱崎町	三〇
松本川漁業協同組合	溝部勝利	七〇〇	濱崎町	五四
萩合同水產加工組合	大島勘一		濱崎町	一一
萩共同加工組合	廣瀬藤太郎		濱崎町	
萩三浦鉾組合	綾木市助		濱崎新町	
萩新生蒲鉾組合	三好四郎		吉田町	
萩三榮蒲鉾組合	山中勇二		唐樋町	
萩蒲鉾食品會社	油屋熊一	五六九	熊谷町	
萩新興蒲鉾組合	鳥田現斗	五六〇	橋本町	
萩三輪水產食品組合	村田二郎	三二四	濱崎新町	二

一五一

一七、史蹟及名勝其他

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

觀光萩の紹介

第一章 史蹟及名勝

(一) 概説

毛利輝元卿關ヶ原役後家督を秀就に譲り家眷を携へて國に就き城地を萩に定め指月山下に於て築城に着手せられたのは慶長九年六月で工事が完く出来上つたのは同十三年六月であつた。茲に防長二州の首都として萩城の雄姿を看るに至つたのである。

城は萩城又は指月城といひ詰丸本丸二の丸より成り慶長九年十一月輝元卿入城より敬親公の文久三年に至る十四代二百六十餘年間に亘り防長二州の治所であり首腦都であつた。而して維新四大の策源地で幾多の名士を輩出し其遺蹟も亦多く史蹟として指定せられたもの九件指定天然記念物三件又風光明媚の環境に恵まれた關係上名勝多く且つ舊蹟にも富んでゐる。

春の櫻秋の月遊子の旅塵を洗ひ更に旅情を慰むるもの多々ある。

先づ史蹟として指を屈するに吉田松陰先生の慨世憂國の熱涙を注ぎ青年教育に心血を賤いだ松下村塾を始めとし先生幽囚の舊宅、反射爐及び明倫館址、御船倉、萩城址、木戸孝元誕生舊宅、伊藤博文舊宅があり、天然記念物としては明神池、笠山橋自生北限地木部の大せんだん等がある。又舊址としては松陰幼時住せし玉木文之進舊宅、

師注

注

村田清風役宅、品川彌二郎舊宅、久坂玄瑞、高杉晋作、山縣有朋、桂太郎、田中義一等元勳名士の遺蹟今猶嚴存し名勝の地としては松陰先生誕生地、南明寺、椿神苑、川島堤、指月公園、菊ヶ濱、笠山等があり其他名士の遺蹟名勝の地枚舉に遑なく眞に萩は史蹟名勝の「エルサレム」とも言ふべきか左に記して江湖の便覽に供せんとする。

(二) 玉江驛附近

○觀音院 臨濟宗の禪刹で潮音山と號し大同年間不見別當の創建と傳へられ眺望佳麗で特に觀月納涼によく萩八景の一勝地である。

○萩城址と志都岐公園、舊萩城は本市の西方指月山の南麓に在りて一木一石は往事を偲ぶに足り背後は斷崖絶壁にて海に臨み要害堅固なる名城であつたが毛利氏は藩籙奉還の主唱者であつた關係上天下に卒先して城樓の撤廢を斷行し明治四年三月城門の解除令を下し其後城樓は次第に解廢し今は僅かに城塞の一部を残すのみであるが之は却つて當時の長州藩が何事にも天下の魁をなした精神的の遺蹟となつてゐる。萩城址は近く文部省より史蹟として指定せられることになつてゐる。

志都岐公園は舊本丸の址で境内は廣く幽趣に富み舊城の遺蹟が諸所に點在して其昔を偲ぶべく且つ陽春の候爛漫たる櫻花は鬱蒼とした指月の山色に映じ景趣絶佳であり、東は白砂青松の菊ヶ濱に接して山海の風景亦賞すべき風情がある。園内に毛利敬親公が茶亭に托して支藩主及び老臣其他の志士と會し階級を打破し公自ら臨席して密議を凝らし以て國策を樹てられたと云ふ花之江茶亭がある。

○東園址 指月公園内に在り第五代綱廣公は農耕を奨勵せられ城内に稻田を設け公自ら牛を牧して田を鋤き以て範を垂れた遺蹟である。

其後第九代宗廣公の時此所に遊息所を設け「東園」と云ひ園内の池には六景二十勝があつたと傳へられてゐるが

今は廢村して公園の一部となつてゐる。

○菊ヶ濱及女臺場跡 指月公園より鶴江臺松平川口に至る白砂青松の一帶を菊ヶ濱と云ひ其沖合を阿古の海と稱し萬葉集にも載せられてゐる程の古い名所として知られてゐる。濱の南に在る一條の砂丘は文久、元治の頃物情騷然たりし際海防の爲めに築造した砲臺で貴賤の差別なく留守居の婦人が玉体となり一致協力して築造したもので俗に女臺場とも云つてゐる。海濱には老松が多く樹陰に富み水清く遠淺で風光佳麗理想の海水浴場である。近年盛夏の候には浴客多く殷盛を極めてゐる。

○元樹院跡 山號沙鹿山平安寺と稱し京都南禪寺派萩臨家三ヶ寺の一字であつた。開山は言如園蓮大和尚と傳へられ元輝元卿の隠居所で四本松邸と云つてゐたが公慶去後遺命に依り菩提寺となし天樹院と名付け文久年中廣嚴寺と改稱明治に至り廢寺となつたが輝元卿の墓は其遺跡を傳へ嚴存してゐる。

○福原越後舊宅跡 堀内平町筋に在り名を元洞と云ひ翠崖と號す。元治元年七月十九日大關内の奸を掃はんとしならず同年十一月十二日岩國に於て死を賜うた。

○益田彌正舊宅跡 は堀内北の總門入口にあり名は親施通稱を右衛門介と云ひ須佐の領主であつた。年若くして藩政を執り國老として藩主を佐け勤王の爲め盡瘁してゐたが福原越後と事を共にし元治元年十一月十一日死を賜はつた。

○國司信濃舊宅跡 堀内にあり名は親相と云ひ文武を嗜み特に國風に長じ益田福原の二丈夫と事を共にし元治十一年十一月十一日死を賜はつた。

○村田清風役宅跡 平安古滿行寺筋にあり議見失遇にして良く藩王を扶け財政兵事教育の基礎を確立し又羽賀臺に於て大關兵をなして土氣を鼓舞し藩政の大改革をなす等長藩の實力を充實するに努めたのである。

(三) 萩 驛 附 近

○椿八幡宮 萩の南部椿區に在り萩廓外の總鎮守で祭神は應神天皇、神功皇后、仁德天皇、住吉大神、諏訪大明神守治若皇神で寛元元年(仁治四年)長門の守護佐々木高綱が鎌倉鶴ヶ岡八幡宮より之を川上村立野に勧請後正和三年地頭三善康久が靈夢に感じて社教を現在の地に遷せるものと云ふ。

○大照院 萩驛の西方數町の所椿區櫻江に在る靈椿山と稱し臨濟宗南禪寺派の巨刹で東光寺と共に毛利家の菩提所で第四代秀就、五代綱廣、七代吉廣、九代宗廣、十一代治親、十三代齊熙、十五代齊廣の七藩主並に七公夫人の靈廟及び殉死者の墓がある。

境内森嚴幽邃靜閑俗塵を離れ自ら襟を正さしむる感がある。其末寺嶽觀音閣に傳はつてゐた國寶赤童子は現在本寺大照院に保存せられてゐる。

○嶽觀音閣 月輪山と號し本尊は準提觀世音菩薩で天竺渡來と傳へられてゐる。又本堂には大椿樹で作られたと傳へらるゝ大佛像がある。

○南明寺 椿區沖原に在り萩地隨一の天台宗で日輪山と號す。大同元年の創建で國寶聖觀音立像千手觀音の二体を安置し何れも行基菩薩の作と傳へられてゐる。昔より糸櫻の名所として知られ花時杖を引けば市中の展望と併せ風景絶佳である。

○涙松址 大屋と千法師との間にある舊街道の地點を云ひ往時は路傍に數本の老松があり其處より眺むる時は萩市を一望の内に納め景勝の地であつた。萩に往來する者萩と別れを惜み又喜びの涙を浮べしにより此名があり現在は小碑が建てられてゐる。吉田松陰先生の銘録中に「歸らしと思ひ定めし旅なれば一しに濡るゝ涙松かな」は此處に於ける作である。

○六本松 市内沖原の地阿武川の河畔にあつて六本の古松は往時龍藏寺の殷盛であつた頃の庭松であつたと云はれ阿武川下りをなして萩に入る折第一印象となる名木で此の場所は舊藩時代の練兵場であつて其附近には當時大砲を鑄造した沖原鑄造所の遺跡がある。

○金谷天満宮 文治二年長門の守護佐々木高綱が大宰府より分靈を勧請したと云はれ、社殿廣壯にして春秋二季の祭禮には大に賑ひ住吉神社の例祭と共に萩二大祭の一つである。

○川島堤 阿武川の支流松本橋本の兩川に沿へる一帯の堤で延長二十町餘に及び兩側を縫ふ櫻は青草萌ゆる長堤に咲き續き水色山影と相映じて美觀を呈し山陰本線の車窓より展望するも亦絶景である。

○山縣有朋誕生地 八丁川島に在り幼名を小輔又狂介と云ひ後有朋と改め號を舍雪と云つた。松下村塾に學び奇兵隊にあつては高杉晋作を輔けて功があり維新後文武の要職に昇り總理大臣となること二回、國事に盡瘁すると共に青年の教育に意を用ひ國家有意の人材輩出に努めてゐた。

○南園趾 南園御殿は敬親公の成人せられた所で元昭公の誕生の邸であり、今尙其一部を保存し建築は極めて簡素で毛利家の家法と儉政とを追懷するに足るものがある。現今の萩女子高等學校の一部として南園館と稱へられてゐる建物がそれである。

(四) 東萩驛附近

○松陰神社 市内松本に在り祭神は明治維新の先覺者吉田松陰先生で神社は伊藤博文、野村靖の名を以て明治四十年十一月建設を願ひ同四十一年十一月落成したものである。

○松下村塾 明治維新の大業に活躍せる幾多の人材を養成せられた塾舎で八疊と十疊半の二室より成る木造瓦葺の平屋で室内には机等舊態のまゝ保存せられてある。松陰先生が親しく此塾で青年の教育指導に當られたのは安政

建

三年七月より同五年十二月に至る僅か二ケ年半に過ぎなかつたが「唯松下陋村誓爲神國幹」と云ふ大信念の下に熱と愛と至誠を旨として薰陶せられたのであつた。松下村塾は内務省より史蹟として指定せられ維持保存せられてゐる。

○松陰幽囚室 松下村塾の東に隣接する杉家の舊宅の一室で先生國事に奔走中憂國先覺的言行が幕府の忌諱に觸れ幽囚せられた所で其間専ら讀書著作に精進し益々修養に努められた所である。

此の幽囚の舊宅は松下村塾と共に指定史蹟となつてゐる。

○伊藤博文舊宅 博文の幼時父母と共に起居せし舊宅で賢母の教訓を物語る遺蹟が今尙存してゐる我國最初の總理大臣は伊藤博文で四十五才より六十才に至る間四度首相となつた。此舊宅は文部省の指定史蹟となつてゐる。

○松陰先生誕生地 杉家の舊宅にて樹口亭と云ひ護國山麓園子巖に在り一望の内に全市を俯瞰し靈地の感がある。今は敷石産湯井を存するのみであるが四季を通じ風景絶佳である。其裏山に杉家、玉木家、吉田家及久坂家の墓所があり又高杉東行吉田稔丸等門弟の墓もある。

玉木文之進舊宅も程遠からぬ所に保存せられてある。

○東光寺 護國山と號し黄葉宗宇治萬福寺派の禪林で元祿四年吉就卿の開基で大照院と共に毛利家累代の菩提所で第六代吉就、八代吉元、十代重就、十二代齊房、十四代齊元諸公及五公夫人の廟墓があり其他元治甲子殉難志士の墓碑がある。境趣森嚴を極め自ら襟を正さしむる感がある。

○品川彌二郎舊宅 松本大橋河畔にある往事の建物はなくも彌二郎が重就公より拜領の茶室花月樓があり、これは明治二十年此處に移築したものである。

○反射爐 安政五年の築造で耐火粘土玄武岩及び煉瓦を以て作られ軍艦建造の際艦船材料の鑄造銃砲の鋼化等に使用せる藩設工場であつたが現存するものは一基の煙突と爐の一部であり、内務省の指定史蹟となつてゐる。

○越ヶ濱明神池 越ヶ濱は名越半島に連る漁浦で戸數五百餘戸山海の風景は特に秀麗である。池は笠山の東麓に位し天然の鹹水湖で池水は外海に通じ干満の作用があり常に海魚が群遊し客の投ずる餌に鯛、カレイ等多くの魚の群なす様は實に奇觀である。池畔の風景も亦幽邃で一名辨天池とも稱せられ舊藩主の遊息の地であつた。附近には幾多の風穴があり盛夏の候冷氣を迸出し涼味掬すべきものがある。内務省指定の天然記念物となつてゐる。

○笠山橋自生北限地 笠山は海拔百十二米突の成層火山で石筴玄武岩より成り頂上には經三十米深三十米の標本的舊噴火口があり山頂に至れば日本海を一時に收め眼下には六島の點景を眺め風光雄大望開瀾眞に勝景の地である山中には寒熱兩地性植物が簇生し就中橋は東北の雜木林中に點在し北緯三十四度二十六分四十七秒の所約四百坪に亘り橋自生北限地として内務省より天然紀然物として指定せられてゐる。

(五) 萩市驛(省營バス停車場)附近

○明倫館趾 明倫館は享保四年藩主吉元卿が防長二州の文教振興武道整勵の爲め堀内に創建せられ水戸の弘道館岡山の閑谷巖と共に日本三館の一と稱せられてゐた。其後時代の推移に伴ひ規模の擴張内容の充實を更新する必要に迫られ啓親公の嘉永二年現在の地へ移築せられ其敷地一萬五千八百八十餘坪で總建物が二千七百三十餘坪に亘り規模宏壯を極めてゐたが現在は演武場の一部たる有備館と聖賢堂及び木主水練池館碑等を殘存するのみである。水練池は水騎の練習をなさしむる爲めに堀鑿したもので日本最古の「プール」と云はれ館碑と共に文部省より史蹟として指定せられ、演武場は他國修業者劍槍術引請場又藩主武藝上覽の場所として用ひられてゐたが後には館生の武藝練習場として使用したもので東稽古場といひ現今の名稱は元江戸櫻田邸内に建てられてあつた有備館の名を襲用したもので本年(昭和二十四年七月)文部省より史蹟として指定せられ維持保存せられてゐる。

○木戸孝允誕生の舊宅 明治維新三傑の一人として知られた木戸孝允は和田昌景の子として此の家に生れ八才の時

敬 長 暖

隣家の桂九郎兵衛の養子となり生家に於て成長した二十才の時江戸に上り齊藤彌九郎の門に入り執頭となつた後桂小五郎と稱し志士として國事に奔走する間も屢々此の家に往來した。呱呱の聲を揚げた産室幼時の書齋浴室庭園に至る迄よく舊態を存してゐる。舊宅は文部省より史蹟として指定せられ維持保存せられてゐる。

○高杉晋作誕生地 南古萩に在り晋作名は東一と云ひ東行と號す。松陰門下の偉傑にて膽略あり學問あり諸武藝に達し禮節正しく將帥の器量を備へてゐた。奇兵隊を組織し藩論統一及び四境の役に於て大功をたてたが慶應三年月十四日二十九才にて病歿した。

○常念寺 長榮山と號し淨土宗知恩院鎮西派に屬し天文元年の創建である輝元卿入城前暫く本寺に假寓せられ卿四入府以來常に特別の恩顧を蒙り其表門は元京都聚樂邸の裏門であつたと傳へられ輝元公之を拜領して伏見の邸宅に移築せられてあつたものを萩に移し後記念として當常念寺に寄附せられたものであり、よく桃山時代建築の特色を現してゐて國寶としての價值ありと云はれてゐる。而して其鴨居にゐる二疋の獅子は左甚五郎の作である。

○野山嶽及岩倉嶽址 上牢を野山嶽と云ひ松陰先生其他多數の志士の幽囚せられた所、又下牢岩倉嶽は金子重輔が憤死した所である。

○御船倉址 東濱崎に在り慶長年間の築造で舊藩時代御藩主の用船を繫留した船倉で周圍は巨大なる石を以て築き上げた雄大廣壯なものであつたが廢藩と共に一部は取除かれ現在は中央の大船倉のみ殘存して其昔を偲ぶべく文部省の指定史蹟となつてゐる。

○前原一誠舊宅 土原江後に在り始め佐世八十郎と云ひ國事に斡旋し後參議となつたが明治九年政見を誤り擧兵事成らずして刑死した。

○弘法寺 土原浮島に在り眞言宗にて寄舟山と號し大同二年弘法大師の創建と傳へられ空海上人歸朝の際風浪を避けて此島に船を寄せられたと云ふ。

帝

や

P

境内に浮島辨財天の祠く舊振武隊の招魂碑があり前原一誠佐世一清の墓もある。

(六) 其他先賢名士の史蹟

○勤王家 前田孫右衛門・入江九一・周布政之助・檜崎彌八郎・大和國之輔・浦敷負・寺島忠三郎・毛利登人・宍戸左馬之助・渡邊内藏太・久坂玄機・久坂玄瑞・竹内正兵衛・清水清太郎・佐久間佐兵衛・山田宇右衛門・山田亦介・杉山松助・來原良藏・松島剛三・河上彌一郎・中村九郎・時山直八・冷泉五郎・櫻井三木三・香川半助・吉田稔麿・松浦松洞・長井雅樂・藤村稻彦・藤村稔彦・福田快平・奥平謙輔・宮城彦助・土屋矢之助・寺内暢藏・青木周彌・青木研藏・近藤芳樹・中島治平・杉民治・杉孫七郎・御堀耕助・鳥尾小彌太・楳取素彦・松本鼎・中村雪樹・山田素臣・岡市之助・岡澤清・有地品之允・林友幸

○政治家 益田元祥・榎本就時・毛利廣政・桂廣保・坂時存・山田顯義・穴戸璣・曾根荒助・野村靖・白根專一・青木周藏・桂太郎・三浦梧樓・柴田家門・山縣伊三郎・田中義一・久原房之助

○學者 山田原欽・小倉尙齊・山縣周南・和智東郊・瀨鶴台・林東溟・津田東洋・山根華陽・小倉鹿門・繁澤豊城・山根南溟・小田村藍田・中村華嶽・山縣大華・平田倅溪・中村牛莊・小倉深齋・飯田履軒・中村浩堂・岡本栖雲・岡田謙造・岡村箕齋・口羽通倚

○書家 草場居敬・草場大麓・山縣墨僊・高島醉茗

○畫家 雲谷等顔・雲谷等益・雲谷璠等・雲谷等爾・佐々木縮往・山本鶴江・林百非・羽様西崖・森寛齊・高島北海・松林桂月

○實業家 藤田傳三郎・賀田金三郎

八景

(七) 萩 八 景

臣

新萩八景と云ふは今を去る二百六十餘年前貞享元年の頃藩主吉就卿が其後山田原欽・安部春貞・雲谷等璠に命じ支那の瀟湘に倣ひ萩城附近に於ける八ヶ所の勝地を選定せしめ之を入江と名付けられたのである。

一、倉江の歸帆	西の濱の對岸	遠島や波もひとつにみとりなる 空より出て、かへる釣船
二、玉江の秋月	橋本川の下流	江の水の雫影さへ白玉を みがくはかりの秋の夜の月
三、櫻江の暮雪	河添の對岸	白雲の夕べの色はやまさくら 江の波かけて散るかとぞ見る
四、小松江の晚鐘	大照院附近	山の端もかすみ渡りて遠き江の 松よりつたふ入合の鐘
五、上津江の晴嵐	沖原の上流	山川の瀨々の朝霧たえ／＼に 江の水見えて行く嵐かな
六、中津江の夜雨	龍藏寺附近	更くる夜の雨のふる江の賤が家に 残るも細き燈のかげ

七、下津江の落雁	弘法寺の對岸	有明の入江の蘆のほの／＼と 明る空より落る雁かね
八、鶴江の夕照	濱崎の對岸	鶴のゐる入江の村の松原に 残る夕日のかげのさやけさ

(讀人 安部春貞)

第二章 旅館及び乗物

(一) 旅館

本市の旅館業組合を組織し業界の向上改善に努め設備サービス共に新時代に相應しく萬全を期しつゝあります。而して一等より五等迄に分け大体左の如く規定せられてある(但丹仙茶代を除く)

級別	室料	夕食料	朝食料	晝食料	浴衣	入浴料	計	サービス料二割	飲食税	合計	概算	軒數
一級	九〇円	一一〇円	九〇円	九〇円	三〇円	二〇円	四一〇円	六四〇円	七六円 <small>税</small>	五五〇円 <small>税</small>	六〇〇円	一
二級	八〇	一〇五	六〇	九〇	三〇	二〇	三八五	五九	七〇、八〇	五四、八〇	五〇〇	三

(二) 乗物

一、定期乗合自動車

本市乗合自動車は玉江驛越ヶ濱間の運行があり汽車の發着時間との連絡を取り其料金は玉江驛東田町間十圓東田町越ヶ濱間十五圓である。運轉時間は六時半より十七時に至る間約三十分毎に運行してゐる。

二、史蹟名勝巡り

現今遊覽バスはなく貸切自動車料金は次の通りである。

級別	室料	夕食料	朝食料	晝食料	浴衣	入浴料	計	サービス料二割	飲食税	合計	概算	軒數
三級	七〇	一〇〇	五五	七〇	二五	一五	三三五	五三	六三、六〇	四五一、六〇	四五〇	三
四級	六〇	九〇	五〇	七〇	二五	一五	三〇〇	四八	五七、六〇	四一五、六〇	四〇〇	一
五級	五五	七五	四〇	五〇	二〇	一〇	二五〇	四〇	四八、〇〇	三三八、〇〇	三〇〇	二

暖房料は各級共二〇圓
右の様に料金の内が分れてゐるも不用のものは計算より除かれる建前であり又団体旅行に對する割引は宿泊団体との交渉により定められ別に規定はない。

市内廻り ハイヤー	定員五人二時間以内にて一、一二五圓一人増毎に其五分の一増、二時間を超ゆれば一時間毎に四五〇圓増
ク 大型バス	基準人員四〇人二時間半以内で 二、五〇〇圓二時間半を超ゆれば二五〇圓増
秋芳洞行 ハイヤー	定員五人 片道一、五〇〇圓 往復は五割増
ク 大型バス	基準人員四〇人 片道四、五〇〇圓 往復六、五〇〇圓 観光待時間 三時間
長門峽行 ハイヤー	定員五人 片道一、〇〇〇圓往復は五割増
ク 大型バス	基準人員四〇人 片道三、〇〇〇圓往復は五、五〇〇圓 同 待時間 三時間

第三章 民謡及土産品

(一) 民謡 テレンモチ

民謡 テレンモチ

(大津繪節)

文久元治の頃物情騒然として内憂外患找州に迫り二州の男子は殆ど下關三田尻方面に出動して海防の任に當つて

ゐた折から露國の軍艦が萩沖合を通航すること二回に及び防長の首都である萩の防衛が最も急を告ぐるに至り留守居の老幼婦女子等が蹶起し貴賤の區別なく出動して土工に従事し文久三年六月二十五日より同九月一日に至る僅か二ヶ月餘にして菊ヶ濱一帯にお臺場を構築したのであるよつて之を女臺場とも云はれてゐる。

民謡テレンモチは其時の應援歌である

菊ヶ濱のお臺場で

さても見事なテレンモチ

町々の加勢事

ほんにお臺場のことなれば

翁様も婆様も打連れて

朝の六つに勢揃ひ

晩は七つに引揚げる

くだぶれ足でもいとはずに

明日もとうから出かけましよう

清き流れ

(男なら節)

谷川の細く流れもその行末は

廣い千尋の海となる

淵は早瀬と變れども

海清く流れて一筋に

身を碎きつゝ進むなら

四方の波も静かに春が来るわいな

萩小唄

(二首)

芳の海辺も清く静かに
おのれもあつた

松下村塾昔のままに

今も松風絶やせぬ

匂ひゆかしく香も懐しく

色も黄金の夏蜜柑

波は渚に登は草に

月は指月の蔭に入る

さすが長州は女でさへも

喜場築いて國の爲

砂は白妙松青々と

波も静かな菊ヶ濱

泣いて見かへり別れを惜む

涙松ではないけれど

春は櫻の川島堤

うすらおぼろの夜がつゞく

萩の大橋流しちやならぬ

流しや便りが遠くなる

同じ流れの阿武川さへも末は別れて海に入る

萩の笠山明神池は

潮の満干もまゝならぬ

萩はよいとこ維新の花も

こゝに起りし風に咲く

萩はよいとし松蔭神社

イサヲ思へば袖に露

萩はよいとこ偉人の生地

學びの庭の道しるべ

萩はよいとこ明倫館の

昔しのばす石の文

萩はよいとこ笠山登り

下にや名高い鯛の池

萩はよいとこ外國までも

かほり渡れる夏蜜柑

萩はよいとこ志都岐のお城

武士の心の花の雲

萩はよいとこ海水浴に

夏を忘れる菊ヶ濱

萩はよいとこ長門峽の

紅葉眺めて下る舟

萩はよいとこ面影山を

君に見せたや雪の朝

新萩小唄

可愛殿御と名勝を巡る

萩の史蹟は日本一

戀路も深い深の町

情の浮島常盤島

長門峽は阿武川下り

平家の昔語りつゝ

本場蜜柑に蒲鉾添へて

主にあげたや萩土産

松下村塾音を偲ぶ

明治維新の國柱

晴れて二人が阿武の松

其睦言を菊ヶ濱

闇の倉江も光を受けて

明き玉江の秋の月

花になりたや指月の櫻

山も臍の薄化粧

夢の萩街

一、夢の萩町狭霧に明けりや

沖のカモメに潮時きいて

銅羅はナルナル港は晴れる

満洲航路の満洲航路のあの船が出る

二、櫻咲く咲く川島堤

ボート浮べてあの娘と二人

オボロ霞の夜櫻見れば

戀のボンボリ戀のボンボリあの灯がうるむ

三、君とひととき指月の公園を

そゞろ歩けば若葉がもえる

偲ぶ御維新天守の崖は

一に三つ星一に三つ星あの紋どころ

四、夏は御臺場あの菊ヶ濱

空は紺碧松吹く風に

ビーチバラソル濱邊に集や

波に五色の波に五色のあの花が咲く

五、伸る港の姿を見つゝ

楽しいドライブ笠山登り

逢つて嬉しや明神様の

池の面に池の面にあの躍る魚

(二) 土産品

本市に於ける郷土名物の主なるものを舉ぐれば

菓子類

夏蜜柑ジャムマーマレード・萩の薫

玩	具	木製玩具・竹製品等
水産	加工品	蒲鉾・縮緬煎子・鯛粕漬・鰯・雲丹・若布等
果	實	夏蜜柑
其	他	陶器萩焼・小萩人形・蜂蜜等

(三) 觀光協會

本市には昭和八年より萩市觀光協會を設立し現今事務所を萩商工會議所内に置き宣傳紹介につとむると共に遊覽客の利便を圖りつゝある。

第四章 萩附近の名勝地

(一) 長門峽

長門峽とは山口線長門峽驛前御堂原より萩市内を貫流する阿武川の上流數里に亘る溪谷美の總稱で御堂原より高瀬に至る主景及び其支流なる生雲溪・金郷溪・漣溪の三支景からなる峽谷の一帶は石英粗面岩の浸蝕峽であつて我國到る所景勝の地多しと雖も石英斑岩より成る豪壯雄大なる大自然の景觀が斯くも廣く而も長く續いてゐるものは

稀である川岸には峻峯奇巖が礫として雲表に聳へ斷崖絶壁をなし麓には階段浸蝕の跡を遺す川床には到る處に深潭及甌穴を造り瀑布奔湍相次ぎ傾斜緩なる所には奇岩基布し岩角を水面に表はす等千變萬化實に豪華な景勝を展開し加ふるに兩岸の岩壁を縫ふて森林は繁茂し空氣清透神秘的仙境である殊に四季の變化に當み春の新緑に秋の紅葉は碧流と相映して一入の雅趣を深める長門峽の終點高瀬より萩迄川舟の便もありて之を阿武川下りと云ひ保津川木曾川程の痛快味はなきも長門峽探勝者の輕き疲れを扁舟に託して風光明媚の碧流に挿して舟中一獻傾けつゝ平家の遺跡傳説等を語りつゝ下るも亦快き限りである。

(二) 青海島

青海島は仙崎町の北に横たはる周圍七里餘りの島嶼である其北岸は渺茫とした日本海に面し千仞の斷崖絶壁が連り奇巖怪礁が聳立し又は洞窟をなす等眞に豪壯雄大な島嶼美の極致であつて天下の絶勝である又島内大日比には有名なる尼寺があり其附近には本市の特産物として天下に有名なる夏蜜柑の原樹もありて内務大臣より天然記念物として指定せられてゐる。

(三) 秋芳洞

天下の奇勝として名聲を博してゐる秋芳洞は本市の南方美郷郡秋吉村にあり、洞内は延長十八町幅平均三十間高さ十五間であつて洞内は千變萬化神工鬼斧の怪奇を競ひ其の規模の雄大なることは世界第二と云はれてゐる。

昭和二十五年

月 日 印刷
日 發行

(非賣品)

編輯兼
發行人

山口縣萩市大字椿東二、五〇六番地
西 村 益 一

印刷人

山口縣下關市大字彦島後山町八四一番地
中 原 作 一

印刷所

山口縣下關市大字彦島後山町八四一番地
彦島印刷株式會社

發行所

山口縣萩市役所

17/p
18om



萩
市
役
所

萩市立萩図書館



111530390

萩関係資料24